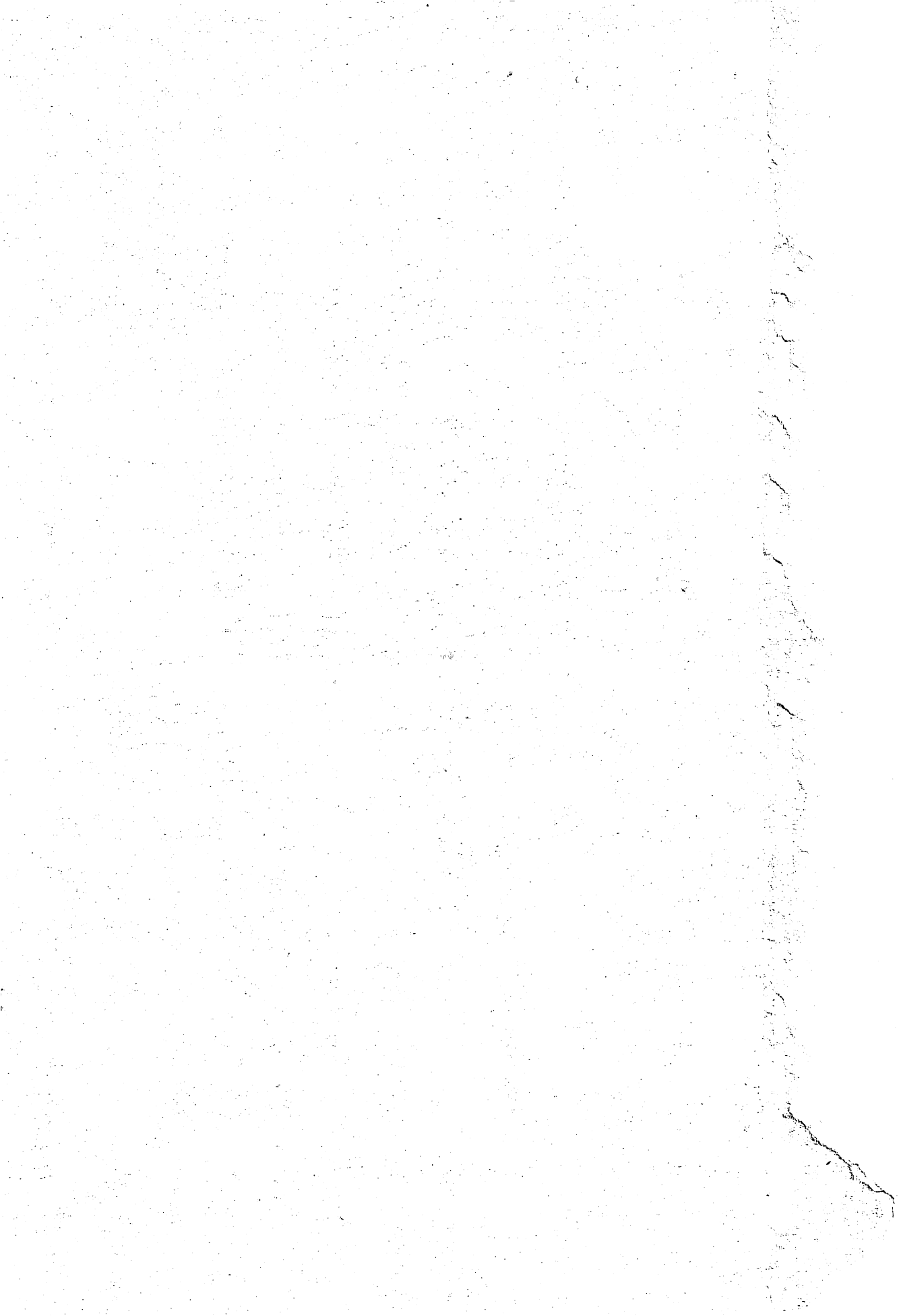


津山郷土博物館紀要第四号

津山松平藩町奉行日記一

津山郷土博物館



はじめに

津山松平藩町奉行は、江戸時代の津山城下三十三町の民政、警察、裁判など町政全般をつかさどる津山藩の役職で、町奉行日記とはその町奉行が日々の処置事項をつづった公用の日記です。松平藩政中期の宝暦四年（一七五四）から末期の慶応二年（一八六六）までの九十四冊分が現存しております。内容は喧嘩・訴訟・登記など町民の日常生活の断面が克明に記されており、当時の津山城下町や庶民生活を理解するための必須の史料といえましょう。この町奉行日記は、他の膨大な藩政史料とともに、現在本市の所有となっており、津山郷土博物館で保管、公開しているところです。

本市では、このような町奉行日記の豊富な内容を広く一般の方々に理解していただくため、釈文による出版を計画し、現在までに第一集から第五集を刊行し、まもなく第六集を世におくる予定であります。何分膨大な分量のため全巻完結までにはなお多くの時日を要する見込みですが、鋭意努力してまいりたいと思えます。本書はその町奉行日記の第一集として、平成四年三月に刊行したのですが、幸いに多くの読者に迎えられ、数年前から品切れとなっていたものです。今回再刊を望む多くの方々の声に答えて、若干の誤字脱字を訂正して刊行するものです。史料集としてご活用いただくとともに、これからの津山の町づくりをすすめていく上での何らかの参考となれば幸いです。

なお、本書の刊行は故高木基世子さんのご遺志にもとづく寄付金によるものです。高木さんは津山郷土博物館開館以来の古文書講座の熱心な受講者でしたが、平成八年十一月に病没されました。つつしんでご冥福をお祈りするとともに、歴史資料の保護活用と生涯学習講座の一層の充実をはかることをご厚志に報いたいと思えます。

平成十年三月一日

津山市教育委員会教育長

松尾康義

解 説

「町奉行日記」は、愛山文庫に含まれる、「国元日記」をはじめとした膨大な量の日記類のひとつで、宝暦四年（一七五四）から慶応二年（一八六六）まで、九十四冊が保存されている。寛政期までは欠年時が多いが、津山の城下町の様子を知る根本資料としてその価値は高い。

愛山文庫には、その他に町奉行日記に関連したものとして、「日記書抜」十二冊、「日記頭書」十四冊がある。これらは、町奉行日記からの抜き書きで、「日記書抜」は数年時分の日記から、必要な内容を項目別にまとめたものである。項目は二十項目余りになる。「日記頭書」は、記事の書き始めの言葉によって項目別にまとめてある。

町奉行日記は一年分が一冊に綴じられており、表紙に年号・表題・奉行名が記されている。表題は宝暦から寛政初年までは「御用日記」、それ以後は「町奉行御用日記」となっている。

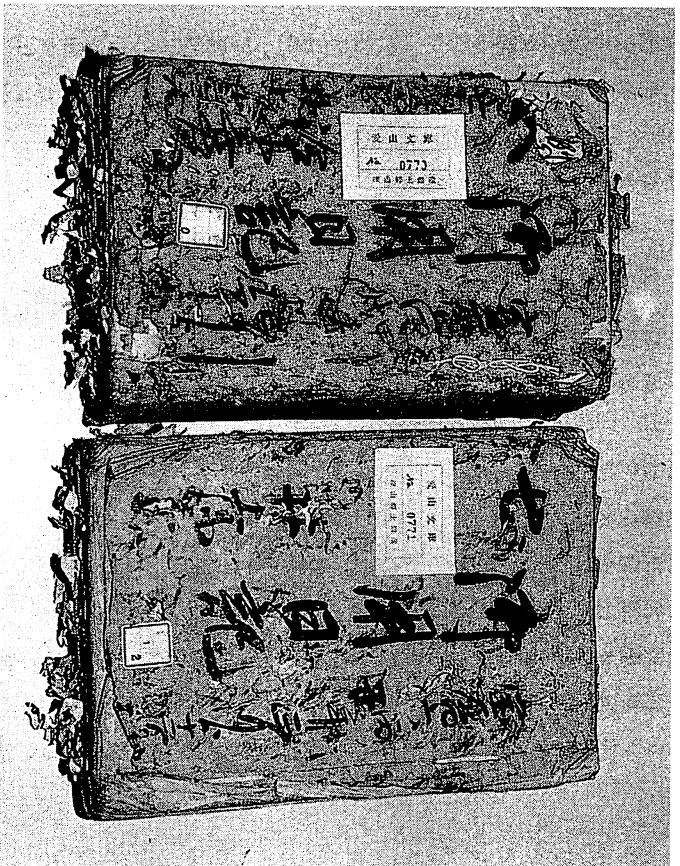
日記の中には清書してあるものと、下書きのまま綴じたものがあるようで、清書していない場合はかなり読みづらい。文章表現には一応の様式があるように思われるが、それも町奉行の人物によって個人差があり、丁寧で分かりやすいものから、ひとりよがりな表現の曖昧なものまで様々である。

森藩時代には町奉行は二人制で、それぞれの受持ち区域が決まっていた。松平藩に替わっても当初は二人制であった。それが、後には一人となり、さらには勘定奉行や郡代の兼任となっていたのである。

こうした変化は、所領の半減による藩政機構の縮小や、財政難からくる理由も考えられるが、結局は町奉行による城下町支配が軽視されていることにつながる。これは、町奉行の権限の範囲とも関わる問題であるが、城下町経営の重要な部分である経済政策に関して、町奉行がほとんど独自の権限を有していないことが、その原因と思われる。もちろん、財政に関しては勘定奉行がいるわけだから、当然といえば当然なのだが、津山藩における民生面の軽視が知れる。

日記から窺われる町奉行の職務は、前例の繰り返しと、御用所への伺いがほとんどであり、町奉行自身の決済権限がほとんど見られない。かなり些細な事項と思われることでも、藩の重役である御用所へ伺いの後でなければ決定できていない。

財政的な不安はあっても、一応の安定を得ている時代において、藩政機構は「前格」すなわち前例のみを重んじる風潮に満ちていたのである。



宝暦4年、同6年の町奉行日記

凡例

- 一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」宝暦四年および同六年正月〜六月分を収録した。
 - 一、本文の表現法は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。
 - 1 平出・欠字は、省略した。
 - 2 漢字は、原則として当用漢字および現行活字体に改めた。
 - 3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。
 - 4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

てい	ひかえ	あつかう	か	けんか	いんもつ	きびしく	またぞろ	ふと	やがて	おろし
躰	扣	嚶	欺	喧嘩	音物	稠敷	又候	与風	聽	風
 - 5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）は、小活字で示した。

一（より）は、例外として残した。
 - 6 虫損・破損は、「」でその状態を示した。
 - 7 日記の表紙・奥書等は、その部分を「」で囲み、（表紙）のように注記した。
 - 8 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。
- 一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

津山松平藩町奉行日記一

「宝曆四甲戌年 正月〆

十二月ニ至

御用日記

(表紙)

鈴木喜右衛門

七月廿八日〆井上弥三兵衛」

正月

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 村山半八

元日 大年寄玉置忠兵衛

- 一 例年之通諸士登城御帳付早而町奉行勘定奉行御郡代御用席ニ罷出御祝儀申上夫〆表ニ而先格之通御家老中ニ掛御目年頭御祝儀申上
- 一 諸月番居残り七間廊下ニ而大目附村山半八被申聞候者御前様旧臘十八日御着帯被遊候此段相知せ候様ニ被仰渡候旨被申聞

正月二日

- 一 今日御用初ニ付登城町奉行初日參御役人相揃御用席ニ罷出御祝儀申上早而於七間廊下例年之通御吸物御酒被下置大目附所ニ罷越御礼申上

- 一 下紺屋町作人佐太郎旧冬出火仕候ニ付追込申付置候処今日迄三日ニ相成候間明三日〆差免可申哉之旨相伺候処先格之通差免候様ニ被仰付

一 大年寄共三人并太布屋太郎一私宅へ罷越候而例格之通盃事いたし候事

正月三日

- 一 下紺屋町作人佐太郎追込差免候段大年寄へ申渡ス
- 一 同心組石名左五兵衛佐太郎一所罷有致出火候ニ付慎申付置候処今朝差免候段小頭ニ申付候

一 今日例格之通大年寄共宅ニ年礼罷越盃事いたし候事

正月四日

- 一 旧冬江戸表ニ召連罷越候東新町半兵衛儀道中無滞去月十九日江戸着伝馬町旅籠屋へニ遣候由去同廿二日曲淵豊後守殿ニ而一通り吟味有之何分事輕ク可相濟様子之由江戸大目附中并御留主居中〆返書到来尤差添罷越候同心組兩人御使組兩人去月廿四日江戸表出立申付候旨申来ル

一 西川大久保出羽守殿代官柳井雪内小形伴左衛門〆年始書状到来及返書

正月五日

正月六日

正月七日

正月八日

- 一 今日御用日ニ付御出席有之登城
- 一 例年之通惣町左儀長触差出ス
- 一 来ル十二日御用席御退出之節大年寄共御逢被下候儀相伺候処例格之通御逢可被成候由ニ附御門出入之儀中奥目附中へ申達ス尤十二日登城いたし候様ニ大年寄へ申付
- 一 来ル十四日大般若御退出之節御用達三人御蔵元兩人御逢被下候儀

相伺候処例格之通申付候様ニ被仰付尤御門出入之儀中奥目附中へ申達十四日登城いたし候様ニ可申付之旨大年寄へ申渡ス

一 当所虚無僧組頭二三年已前迄ハ豊屋喜平次仕候処致病死其後組頭無之方一虚無僧入組候儀^改出来仕候時分外ハ申付候而ハ難相用前々之取計難致ものニ御座候其上備前岡山御扶持人之内組頭いたし候もの有之津山表之虚無僧之儀^改備前組頭之手下付ケ候様成模様ニ^改相見へ候方一左様ニ相成候而者弥取計難致候間当所ニ而組頭之儀当町針医三角良甫^江虚無僧組頭被仰付候様致度候尤京都本寺明暗寺^江罷越候入用金式兩程被下候へハ相濟申候儀ニ候旨良甫^改右之通申事ニ御座候由大年寄ハ申出候ニ付其段御用番伊達与兵衛殿^江委細申上候処此已後年々被下候儀ハ難相成候へ共此度京都本寺^江罷越候程之儀ハ可被下候間御領分町在之虚無僧組頭可申付之旨被仰渡右良甫大年寄玉置忠兵衛宅^江召呼組頭可申付之旨申渡候尤大目附中へ者申達ス

一 今日於私宅御用達并御藏元其外惣町年寄共逢候事

正月九日

一 旧冬東新町半兵衛神戸村甚次郎院庄村利兵衛差添江戸表へ差遣候同心組川端又六中山市左衛門御使組寺坂甚六井汲金八旧冬廿四日江戸表出立今日暮前時罷帰申候ニ付其段御用番并大目附中^江御届申達ス尤江戸御留主居中ハ書状到来先達而申来候通何之相替儀無之

正月十日

一 久世預り所并上助左衛門ハ年始状并去西年中錢相場書之儀例年之

通相頼来ル

正月十一日

正月十二日

一 御具足御祝儀諸士頂戴ニ付登城

一 御用席之御方并芥子之間衆中芥子之間ニおゐて御祝儀頂戴御奏者

大目附町奉行宇治橋之間ニ御祝儀頂戴

一 御用席之御方御退出之節中之口ニおゐて大年寄三人罷出御逢年始

御祝儀申上ル尤拙者名披露いたし相濟

一 例年之通乃并野ハ錢相場書之儀相頼来ル

正月十三日

一 今日御用所御出席無之

正月十四日

一 今日大般若御執行有之例之通登城宇治橋之間相詰大般若相濟御奏者

大目附町奉行一所ニ御用席^江罷出大般若無滞相濟恐悦之段申上

一 今日御用席之御方御退出之節御藏元御用達御逢年始御祝儀申上ル

尤姫路屋甚五郎直屋市郎左衛門当病断ニ付其段大目附中^江申達御

藏元熊野屋善兵衛御用達嶋屋三右衛門福永屋藤左衛門右三人罷出

中之口ニおゐて拙者名披露いたし御祝儀申上ル

一 旧冬同心組兩人江戸表へ就御用罷越跡人少ニ候ニ付申立御使組ハ

加人高橋伊兵衛与申者罷越相勤候処同心組兩人江戸表ハ罷帰致出

勤候ニ付加人ニ罷越候御使組高橋伊兵衛明十五日ハ差戻し申候旨

大目附中^江手紙ニ而申遣し伊兵衛^江も其段申渡ス

正月十五日

一新魚町魚屋忠右衛門旧臘廿九日村立切手八升拾イ断出候処今以落し主不申出候ニ付拾イ主忠右衛門江差遣し候旨申渡候様ニ大年寄へ申遣ス

一福渡町宮内屋勘八後家伴文太郎儀此度徳守宮社内下山大膳方へ養子ニ差遣申度旨願出承届

一此度被仰付候虚無僧組頭三角良甫本寺江罷越路用金式両請取証文大年寄差出拙者致奥印差遣ス

正月十六日

正月十七日

一江川町坂口屋半右衛門願出候者久米南條郡^(マ)井和境村小谷琳昌与申醫師娘よし私養女貫申度旨願出承届

正月十八日

一今日御用日ニ付御出席有之登城

一当所町大年寄三人歳暮之御祝儀酒肴一種「」差上候旨先達而江戸表御奏者中へ披露之儀相頼差遣候処遂披露候候御喜色ニ思召候旨申来其段大年寄へ申聞ス

正月十九日

正月廿日

一東新町半兵衛召連江戸表江罷越年寄肥後屋清右衛門并組頭右半兵衛今日無滞罷帰候由断申出候ニ付其段御用番并大目附中江御届申達ス尤江戸表御勘定御奉行所ニ而濟口証文被仰付左之通

差上申一札之事

松平越後守領分

作州津山林田町

半兵衛申口

西何才

右同人領分

同国西々条郡神戸村

甚次郎申口

西何才

右同人領分

同国同郡院庄村

利兵衛申口

西何才

森对馬守御預り所

同国久米北條郡宮尾村

与平次申口

西何才

善右衛門申口

西何才

源助申口

西何才

平右衛門申口

西何才

喜太郎申口

西何才

酒井雅業頭領分

播州姫路町

治兵衛申口

西何才

右九人之者共申上候私共儀去々未十一月中御制訓之廻り筒博奕仕候ニ付御預り所森对馬守殿御役所ニ而段々御吟味有之候趣不相隠有躰可申上旨被仰聞委細承知奉畏候未十一月廿一日院庄村利兵衛方五姫路町治兵衛罷越一宿仕候処津山町半兵衛其外之者共落合酒杯給申候処夫六皆々与風存付右博奕仕候ニ付宿利兵衛申候者御制訓之儀如何ニ付相止候様ニ再応申聞候へ共何れ改承知不仕一時計仕候ニ付利兵衛儀ハ夜も更候故申捨仕ふセリ負勝候様子不奉存候然ル処同廿三日宮尾村平右衛門方五又々右之者共罷越式時計博奕仕尤其節ハ甚次郎利兵衛ハ不罷越候段申之候且其夜平右衛門まけ半兵衛かち右まけかち之儀大そうに御預り所口書ニ申上此段如何哉与御尋ニ御座候先達而も申上候通華竟式十文三十文掛ケ錢之儀御座候へ者負勝之儀も中々以大そう之儀曾而無之候此段御聞濟奉願上候事

一半兵衛治兵衛与平次三人之もの共五被仰聞候ハ其方共儀御制訓之博奕仕剩平右衛門方五罷越平右衛門五手疵負候仕未重々不埒ニ被思召上候段蒙御吟味一言可申上様無御座候へ共子細有躰可申上旨奉畏候前書ニも申上候通廿三日夜半兵衛儀右博奕にてかち候段其席ニ而右取やり不相濟依之及催促申候へ共平右衛門不相濟候ニ付右三人之者共廿四日あたこ山五參詣帰りニ平右衛門方五右乍催促

三人つれ立罷越申候処折節平右衛門方ニ而もあたご山神酒有之私共五振廻申夫六段々事おこり及口論半兵衛差罷有候脇さしをぬき平右衛門五切付候へハ平右衛門そはに有之候さいまきを持受留メ申ニ付不覺又切付申候へハ平右衛門にけ出し同村名主是助方五にけ込申候ニ付半兵衛をはしめ治兵衛与平次跡六追かけ罷越申候処私共三人宮尾村庄屋是助方ニ而被捕森对馬守殿御預所五被相割段々御吟味ニ御座候処不相濟依之此度当御奉行所様へ被召出再応御せんさく之上有躰可申上旨被仰聞候へ共前書申上候六外ニ可申上子細無御座候勿論平兵右兵門疵負候与いへともかたわにも不相成候上ハ此上之濟方相願申段御聞届被為成候且又残六人之もの共右喧嘩之場所へ不罷越と申せとも初発一席ニ而御制訓之廻り筒博奕仕候上ハ一躰不埒ニ被思召上候段被仰聞奉畏候一言之儀可申上様無御座候幾重ニも御聞濟奉願上候前書之趣少も相違不申上候為後日双方口書証文差上申所仍如件

宝曆三酉十二月廿二日

御奉行所様

前書九人之名前

森对馬守御預り所

宮尾村庄屋

是助

与頭

代助

松平越後守領分

津山町庄屋

清右衛門

与頭

長次郎

右同領同国神戸村庄屋

彦兵衛

与頭

利八

右同領同国院庄村庄屋

平八

与頭

伝助

酒井雅楽頭領分

播州姫路町庄屋

三右衛門

与頭

九兵衛

前書之趣被仰聞委細承知奉畏候私共儀平日申付方おろそか故右躰御制訓之博奕仕其上及口論候段重々不埒被思召上段御尤至極仕候自今右躰之不埒無之様此上急度可申付由是又奉畏候依之為後日奥書印形奉差上候所仍而如件

西十二月廿二日

前書名書印形

同十二月廿五日松平玄蕃頭様於御内寄合曲淵豊後守様御立合御評

定被仰渡候趣あらまし上ケ証文被仰付如此御座候由申出ル

半兵衛

与平次

治兵衛

右三人之者共儀御制訓之博奕仕其上宮尾村平右衛門五手疵負候

段重々不埒ニ候然レ共平右衛門かたわにも不相成候ニ付ゆう免

を以老人ニ付過料錢五貫文宛申付之

吉右衛門

源助

平右衛門

喜太郎

甚次郎

利兵衛

右六人之もの共儀平右衛門と喧嘩およひ候節立会不申候といへ

とも御制訓の博奕仕候段不埒ニ付銘々過料錢三貫文宛申付之

宮尾村庄屋

是助

与助

代助

平右衛門申付方おろそか事おこり剩御法度之博奕仕殊ニ村方宿為致右仕末不埒候向後相慎可申候依之しかりおく

津山町

清右衛門

長次郎

神戸村

彦兵衛

利八

院庄村

平八

伝助

姫路町

三右衛門

九兵衛

東新町

半兵衛江申渡

其方儀去々未年宮尾村におゐいて御法度之博突いたし其上及喧嘩平右衛門江手疵負せ候段重々不届至極候依之御領分追払申付候此以後立帰候ハ、召捕曲事可申付候

右之通申渡河部御境目迄送り遣ス且又町年寄清右衛門伊右衛門伝七并組合共半兵衛親吉右衛門追込申渡右之段御用番大目附中江手紙ニ而御届申達ス

正月廿六日

向後右躰之儀無之様猶又急度申付候様被仰渡候奉畏候尤右過料錢三日之内伊奈半左衛門様御役所江可相納旨若及遲滞申候ハ、曲事ニ可被仰付旨奉畏候為後日御請証文差上申所仍如件
右之通ニ而半兵衛過料錢五貫文相納罷帰候旨申出ル

正月廿一日

正月廿二日

正月廿三日

一今日御用日ニ付御出席有之登城

正月廿四日

一御用番与兵衛殿合呼来罷越候処大目附村山半八立会ニ而被仰渡候者東新町半兵衛儀明廿五日御領分追込可申付候尤町年寄組合共追込申付候様ニ被仰渡

正月廿五日

一昨日与兵衛殿合被仰渡候通左之通申渡ス

一林田中之町土手ニ三拾歳計之女行倒相果居候旨注進申出候ニ付段々

致吟味候処小性町彦兵衛与申者方宿ニ仕二三日已前右彦兵衛方罷越候由ニ相聞ヘ右彦兵衛ヘ女之出生承候処備前国加賀戸ト申出之者之由兼而承候ヘ共親兄弟之名ハ存不申候由申之候ニ付親兄弟名相知レ不申候而者申遣シ候事ニ難相成候ニ付為檢使組之者差遣見改申付候処惣身疵ニ無御座病死之様子ニ相見ヘ候由見改罷帰候ニ付其旨御用番江申上右宿彦兵衛ヘ取埋可申付哉之旨相伺候候成程左様ニ申付可然旨御申ニ付右彦兵衛取埋仕候様ニ申付尤追而国元ニ尋来候儀哉可有之哉ニ付桶ニ成共入ふかく掘埋印シニ而も仕置候様ニ申付右之段大目附中へ手紙ニ而申達ス

正月廿七日

一桶屋町清水友三願出候者備中国水谷信濃守様御領分阿賀郡小坂部村宮崎彦兵衛娘私妻ニ貫申度旨願出承届

一同人願出候者私借屋いなはや和助祖母養子ニ久米北條郡中北村庄

屋兵右衛門役介新吾与申者右和助祖母養子ニ仕度旨願出承届

正月廿七日

一 只今迄林田土手御組中村輪八殿長屋ニ居申候市平与申者家内三人
橋本町山田屋半七借屋ニ差置申度旨願出承届

正月廿八日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

正月廿九日

正月晦日

一 先達而京都虚無僧本寺明暗寺江罷越候三角良甫今日罷帰本寺表無
滞相濟虚無僧之儀御領分取計相勤候様ニ被申付罷帰候由申出ル

二月

御用番 佐々木内膳殿

大目附 市村番右衛門

朔日 大年寄藏合孫左衛門

二月二日

二月三日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

二月四日

二月五日

一 東新町年寄并組合且又吉右衛門追込差免候様ニ被仰渡今朝差免候
段申付候

二月六日

二月七日

二月八日

一 勝間田町かとかや太郎右衛門願出候者播州加東郡三木町形壳利兵衛
与申者先年〆罷越宿仕候処六七年罷越不申候然ル処右之倅与兵衛
与申者罷越申度旨申越候由願出承届ル

二月九日

一 一宮千五十年ニ付神事有之并神心寺ニ開帳有之神主并神心寺〆向
大番所横建札之儀寺社取次中〆被申聞昨日御用席相伺橋本町西今
町へ申付ル

二月十日

一 林田中之町年寄三室屋宇左衛門儀病身罷成候ニ付役儀願差出吟味
之上願之通年寄役差免シ跡役倅忠四郎江申付ル
一 境町年寄三津屋平次右衛門儀病身罷成候ニ付役儀願差出候ニ付吟
味之上願之通役儀差免跡年寄役倅忠七江申付ル
一 旧冬不受不施御吟味之節年寄役取上ケ「」候跡役不申付候ニ付
左之通年寄役申付ル

下紺屋町

山形屋

豊兵衛

同町 大工

仁右衛門

上紺屋町

熊屋

源左衛門

材木町

大工

文左衛門

伏見町

正木屋

八右衛門

西新町

高「」屋

平「」

右之通年寄役申付ル

一 船頭町御制札かけはつし之儀同心小頭ニ而「」差遣シかけはつし仕候哉先格之儀大目附市村番右衛門尋ニ付致吟味候処同心小頭罷越かけはつし仕候儀無御座候只今迄かけはつし之儀者御作事ニ罷越船頭町年寄ニ其段知せかけはつし被致候儀之由尤船頭町年寄御制札預リ与申ニ而ハ無之候へ共町内ニ有之候御制札之儀故年寄へハ知せ被申かけはつし御作事ニ被致候先格之由相聞候ニ付其段市村氏へ申達此度かけはつし有之右之通取計相濟候事

二月十一日

二月十二日

一 例年之通惣組御給米今日相請取

二月十三日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

一 下紺屋町大庭屋九右衛門并不受不施之出家日は戸川町三輪屋伊助諸道具家屋敷払代日は所持之金銀旧冬闕所被仰付取上今日御金蔵江左之通相納ル

覚

一 銀札七百貳拾四匁七分〔宋書〕銀ニ而五拾八匁七分替銀歩包賃等差引如此

引如此

是ハ日は所持之金子拾貳兩壹歩兩替如此

一 同四百七拾三匁貳分壹厘〔宋書〕銀歩包賃差引如此

是ハ同人所持之銀四百六拾九匁八分兩替如此

一 同貳拾壹匁貳分五厘〔宋書〕歩包賃等差引如此

是ハ同人所持之錢貳拾壹匁貳分兩替如此

一 同六匁貳分四厘〔宋書〕備前札壹匁ニ付三十五文通用ニ而津山札ニ引替如此

引替如此

是ハ同人所持之備前札拾三匁引替如此

一 同九拾四匁八分

是ハ同人所持之銀札

一 同七百貳拾四匁六分

是ハ大庭屋三輪屋日は諸道具払代

一 同六百拾九匁五分六厘

是ハ大庭屋家屋敷払代

合銀札貳貫六百六拾三匁七分六厘

右之銀札今日御金蔵江相納御金奉行中請取書取之有之

一 鍛冶場前横渡し舟破損御繕願書差出候ニ付今日御用席江差上ル

一京町北側藤田屋喜兵衛家屋敷表口六間裏行拾七間但シ壹軒役也東隣ハ作人之丞家也西隣ハ宮嶋屋新六ニ而御座候右之家屋敷上紺屋町富士屋久米三郎取次ニ而質物ニ書入銀札五百七拾匁当二月ハ来ル十二月迄利足式割ニ而借用仕度旨願出承届ル本証文差出ス
一当春井口村長法寺見せ物清閑寺ニおゐて有之候ニ付安岡町米屋重右衛門下紺屋町原田理兵衛世話仕度旨願出承届

二月十四日

一明十五日御子様方八出辺ハ被遊御出被遊候由宇津木弥右衛門ハ申来例之通御道筋掃除且又御先払罷出候様ニ申付ル

二月十五日

一今日御子様八出辺ハ御出掃除先払等申付晚方無滞御帰相済

二月十六日

二月十七日

一ニ階町塚屋伊右衛門願出候者大坂平野町式丁目和泉屋又四郎与申者塗物懸銀取ニ前々罷越候処近年罷越不申候右又四郎甥右同所ニツ井戸高津下ニ罷有候松屋利兵衛与申者塗物類商売罷越申度旨申越候ニ付此以後宿仕度旨願出承届

二月十八日

一今日御用日ニ付御出席有之登城

一小性町七左衛門後家まつ儀珍敷長寿ニ付去春米被下置此以後存命之内ハ可被下置候由被仰渡候ニ付当春茂其段大目附中へ申達勘定奉行中江其趣申達八木五俵之渡り差紙相請取大年寄召呼右差紙相渡シ大年寄ハ前ニ而八木請取相渡候様ニ申付ル

一去年東新町半兵衛神戸村甚次郎院庄村理兵衛江戸表へ被召呼候ニ付同心組式人使組式人差添遣候処姫路并乃井野出合之儀道中入用等茂可有之骨折候ニ付組之者壹人ハ鳥目壹貫五百文ツ、都合六貫文御酒代被下置候旨大目附中ハ被申渡同心組兩人ハ申渡ス御使組兩人儀茂右御用ニ罷越候者ニ候間此方ニ而申渡可然勘定奉行中被申聞此方へ一所ニ召呼申渡ス

川端又六

寺坂甚六

同心組

御使組

中山市左衛門

井汲金八

右四人ハ申渡ス

二月十九日

二月廿日

二月廿一日

一橋本町西側難波屋嘉七家屋敷表口式間裏行拾三間半但シ半役也南隣ハ吉野家勘六北隣ハ山形屋源三郎家ニ而御座候右之家屋敷代銀札百目相極同町大工平左衛門ハ売渡申度旨願出承届ル本証文差出ス

一ニ階町さかい屋伊右衛門願出候者播州姫路倭町大谷屋惣兵衛与申者黒丸子売前々罷越候処近年不勝手ニ付罷越不申候右惣兵衛弟備前岡山野田屋町岡本屋新兵衛与申者元結卸売罷越申度候由申越候ニ付此以後宿仕度旨願出承届ル

二月廿二日

二月廿三日

一今日御用日ニ付御出席有之登城

一 大坂瓦屋町播磨屋伊兵衛与申者之当所林田町鍵屋源左衛門同安左衛門右兩人年賦銀滞候ニ付三度目之訴状大坂御奉行所ニ差出御渡被成候由ニ而大坂表之爰元へ廻廻り候ニ付急度相濟候様ニ可申付之旨右訴状之写式通御渡被成則大年寄召呼右兩人へ可申付之旨申付ル

一 下紺屋町原田屋利兵衛家屋敷表口六間裏行拾七間但シ本役也右之内表口六間裏行八間半御役半役之所東隣ハ大工五大夫西方者通り横丁右之家屋敷代銀札三百式拾五匁五分ニ相極細工町灰屋喜平次借家紙屋長七ニ売渡申度旨願出承届ル本証文差出ス

一 下紺屋町原田屋利兵衛家屋敷表口六間裏行拾七間但シ本役也東隣ハ作人五大夫西之方横町ニ御座候右之内裏之方表並六間裏行八間半但シ半役之所代銀札三百式拾五匁五分ニ相極上紺屋町灰屋善右衛門借家豆腐屋畏子右衛門へ売渡申度旨願出承届ル本証文差出ス

一 伏見町作人甚之丞伯父忠助与申者備前岡山紙屋町并筒屋宇兵衛与申者方江当戊二月之来ル子ノ十月迄三ヶ年之間奉公ニ罷越申度旨願出承届ル

一 新職人町瀧元屋定六親平四郎妹右兩人吉野郡田殿村忠吾与申者私兄ニ御座候ニ付引請養育可仕候由申候ニ付右兩人差遣申度旨願出承届

一 京町藤野其針悴源藏与申者此度大坂高麗橋筋八百屋町岡田松庵与申者方へ医道稽古のため当戊年之卯年迄六ヶ年之間逗留仕度旨願出承届ル

二月廿五日

二月廿六日

一 齊藤十五郎儀京都西本願寺内増田忠大夫方へ用事御座候ニ付来ル廿八日罷立往来四十日計逗留ニ而差遣申度旨孫右衛門之願出候ニ付銀札場差支無之候ハ、勝手次第罷越候様ニ申付ル

二月廿七日

一 若殿様去ル十六日御髮置之御祝儀無滞被為濟候旨申来明廿八日御悦之御帳付候間御奏者中へ廻状到来ニ付大年寄共明日御悦相勤候様ニ申遣ス

二月廿八日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城御悦御帳付

一 本山寺来春十五年忌観音開帳仕候ニ付東宮川端江建札仕度旨地藏院之申出候由社取次中被申聞今日御用席相伺候而橋本町江申付ル

一 井口村長法寺見世物徳守清閑寺ニおゐて執行有之右建札東西大番所橋江建申度旨社取次中被申聞是又相伺橋本町西今町江申付ル

一 橋本町渡部玄哲娘英田郡海内村百姓井上鹿之助妻ニ貫候ニ付差遣申度旨願出承届ル

一 中之町佐野屋吉兵衛伴伝吉儀先達而御願申久世村三原屋七郎右衛門方へ奉公ニ罷越候処又々当戊二月之子ノ二月迄居成奉公仕度旨願出承届

一 戸川町油屋甚七願出候者私親植月幸七儀御使組相勤罷有候処去月廿五日相果申候ニ付右番代ニ私罷出相勤申度奉存候尤私家屋敷戸

二月廿四日

川町南側表口四間裏行拾七間但シ壹軒役也西隣ハ桶屋久左衛門東隣ハ和氣屋長右衛門家ニ而御座候右之家屋舖私弟首三郎江相譲り申度旨願出承届ル本証文差出ス

一 林田町作人林内借屋九郎兵衛兄治郎兵衛与申者当戌四十八歳罷成候当正月頃病氣ニ而氣分逆上仕候而罷有候処昨夜半与風罷出相見へ不申方々相尋候処八出村分百間土手外川中ニ流掛り相果居申候旨断出候処郡代中申合双方の檢使差出見申付候処惣身疵無之何之疑敷儀^茂相聞へ不申候由ニ付死骸取埋勝手次第いたし候様ニ申付尤在中并林田町の一札差出候取置

檢使 郡代中下代

日下左助

同心部屋目附

神田権兵衛

二月廿九日

一 右流死御届夜前夜更候ニ付今朝御用番并大目附中^江手紙ニ而御届申達ス

一 〔丁〕目重屋忠空ハ儀新田村分二宮原筋違橋脇大川縁ニ水車半輪仕度旨先達而相願郡代中^江御用席^江被申上場所吟味有之候処何之故障も無御座候由ニ而願之通御許容被仰付候由郡代中^江被相知尤当役所^江茂郡代所同様願書差出候へ共聞届迄ニ而相濟

二月晦日

壬二月

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 村山半八

朔日 大年寄齊藤孫右衛門

後二月二日

後二月三日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

一 二宮村武左衛門借屋ニ罷有候小兵衛与申者夫婦此度林田中之町楨屋伝兵衛引請町宅仕らせ申度旨願出郡代中申合双方承届

一 新魚町年寄姫路屋甚五郎印形致紛失候ニ付相改候由断書差出ス

後二月四日

一 目明シ七左衛門去冬致病死候ニ付右之代り二階町堺屋伊右衛門借屋太兵衛与申者吟味之上今日目明し召抱尤老入半扶持差遣ス

一 今般若殿様御髮置御祝儀座当共頂戴仕度旨配當場申出候ニ付相伺候処先格有之候哉と御尋ニ付其段配當場致吟味候所御先格者無御座候へ共備前播磨備中^江而^茂御嫡子様ニ者御髮置御祝儀頂戴仕候事ニ御座候旨申出候ニ付其段今日御用番与兵衛殿^江委細申上候処左様ニ候ハ、御祝儀可被下候間其段申渡候様ニ被仰渡則大年寄へ其趣申渡ス

後二月五日

一 安岡町材木屋庄右衛門与申者方^江去ル朔日之夜盗人這入繰綿壹本盗取右之盗人昨四日召捕候段申出候ニ付其段御用番^江申上明日詮儀仕弥盗取候旨及白状候ハ、入牢可申付之旨申上ル

後二月六日

一 安岡町材木屋庄右衛門方へ這入繰綿盗取候盗人庄吉召出シ致詮儀

候処生国ハ備中松山ニ而御座候十九歳之時親ニ勘当ニ逢近国徘徊仕候而去ル朔日之夜庄右衛門方へ這入繰綿壹本盜取候ニ相違無御座候右之綿同町古手屋左助方へ売候由申之候ニ付右同町古手屋左助致詮議候処毛頭覺不申候段申之詮議相濟不申候ニ付右盜人庄吉儀入牢申付古手屋左助儀ハ組合江預ケ置追々致詮議候筈其段御用番并大目附中へ手紙ニ而御届申達ス

一古手屋左助方ハ繰綿買取候哉又ハ預り候ハ、可申出且又難見届者ハ繰綿買取候ハ、早速申出候様ニ惣町触書差出ス

後二月七日

後二月八日

一今日之御用席相延明九日御用席有之筈

後二月九日

一今日御用席有之登城

一御役替左之通

〔只今迄御持頭〔朱書〕

大目附役

〔只今迄勘定奉行〔朱書〕

御使番

〔只今迄寺社取次〔朱書〕

大番組頭

〔番外只今迄御代官〔朱書〕

銀札場奉行

廣瀬半助

御持頭

永井源蔵

大山久太夫

天野郡太

〔只今迄御使番〔朱書〕

御持頭

〔只今迄大番組頭〔朱書〕

御代官

〔只今迄礼座奉行〔朱書〕

中奥目附

〔只今迄御番方〔朱書〕

寺社取次

村山平学

二橋六郎

山本文右衛門

山岡与左衛門

一此間盗人吟味之趣申上大目附中江申達ス

一先達而八木被下置候小性町七左衛門後家まつ夜前病死仕候由申出御用席江御咄申上ル尤当年百貳歳ニ相成候事

一河面村清瀧寺三月八日同十八日開帳有之東西大橋建札仕度旨大年寄共迄相願来其段御用席相伺大目附中江申達承届候旨大年寄

へ申遣ス

一若殿様御髮置御祝儀今日惣座当共相渡シ先格之通小頭部屋目付罷出相渡ス

銀札六百貳拾四匁 惣座当 百九拾五人

内 貳拾匁 配當場兩人役判

拾匁 筆墨紙書役代共

右無滞相渡候旨御用番并大目附中江手紙ニ而御届申達ス

壬二月十日

一今日於牢屋盗人再吟味ニ小頭部屋目付遣ス然ル処右盗人庄吉申候者先日繰綿壹本盜取候段申上候へ共私儀ハ盜不申候尤古手屋左助へ売候偽りニ而御座候外々ニ而鋏鎌等を盜申候へ共わた之儀ハ盜不申候先日被捕候節何改す、められ盜取候段申候様ニと被申候ニ付盜候と申上候へ共私盜候儀ニ而ハ無御座候由申其段口書取罷帰ル依之捕候節詮議いたし候安岡町之者共明日吟味いたし候様ニ申付ル

一近々清閑寺地内見セ物有之見物ニ罷越候儀御停止之御触書到来則惣組牢番三軒屋番相触候様ニ小頭江申付ル

壬二月十一日

一清閑寺地内見せ物明十二日顔見せ仕候ニ付今夕ハ惣町太鼓打相廻り候旨申出候ニ付其段御用番大目附中江手紙御届申達ス

壬二月十二日

一安岡町李太夫善兵衛且又新田村富吉政平作右衛門喜兵衛儀盗人詮議之趣口書取之

壬二月十三日

一今日御用日ニ付御出席有之登城

一此間盗人詮儀之趣委細申上ル

一於牢屋今日盗人致詮儀候様ニ小頭部屋目附差遣ス右盗人庄吉申候者只今迄ハ段偽り申上候ヘ共御詮儀之上有躰申上候右繰綿盗取候儀私老人ニ而ハ無御座三人仲ケ間有之候久世辺ニ居申候四ツ竹市重はぬけ幸助私三人ニ而盗取久世之方ヘ持参り売申候由及白状其段御用番与兵衛殿ヘ申上ル

壬二月十四日

一元魚町玉嶋屋安右衛門娘久米北條郡上福田村百姓平十郎方江養女差遣申度旨願出承届ル

一小性町瓜生原屋宗兵衛致所持候古醬油桶拾式本備前岡山小嶋屋長右衛門方ヘ差遣申度旨願出承届

一戸川町分北側作人伝兵衛家屋敷表口式間裏行四間但シ巻歩役也西隣ハ作人市右衛門東隣ハ福永屋藤左衛門家ニ而御座候右之家屋敷代銀札四拾匁相極作人市右衛門ヘ売渡申度旨願出承届ル本証文差出ス

壬二月十五日

壬二月十六日

一安岡町岡屋左助同町古金屋太兵衛西今町古金屋吉助儀盗もの鍬鎌牛鍬等買取候由ニ付伺之上今日追込申付尤大年寄宅小頭差遣呼出し申渡ス

一清閑寺地内見せ物今日ハ本狂言相初メ尤同心組之者別段差出し不

申昼廻りハ直ニ見せ物之場所江罷出候様ニ申付ル

一当春一宮神心寺輕業見せ物世話下紺屋町原田屋理助仕候由断出ル

壬二月十七日

壬二月十八日

一今日御用日ニ付御出席有之登城

壬二月十九日

壬二月廿日

壬二月廿一日

壬二月廿二日

壬二月廿三日

一今日御用日ニ付御出席有之登城

一先日追込申付置候安岡町岡屋佐助同町古金屋太兵衛西今町古金屋吉助追込差免可申哉之旨相伺今日差免ス尤大目附中江申達ス

一本覚寺別時有之東西橋ニ建札仕度旨取次中被申聞相伺候上西今町橋本町江申付ル

壬二月廿四日

壬二月廿五日

壬二月廿六日

一今日不時御用席有之登城

一坪井町吉田屋多吉致所持候古道具取売株勝間田町岡本屋善四郎江相譲り申度旨願出願之通承届ル

壬二月廿七日

一大坂南瓦屋町播磨屋伊兵衛方ヘ可相払小間物代年賦銀林田町鍵屋

源左衛門同安左衛門右兩人滯有之先達而伊兵衛方〆三度目之訴狀付候ニ付急度相払候様申付置候処此度兩人共病氣斷書差出右之段御用席へ申上大目附中へ申達拙者致奥書大坂広瀬義平中井伊右衛門宛ニ相認町便ヲ以大坂表へ差遣ス

壬二月廿八日

一昨日御用所有之候ニ付今日御出席無之

壬二月廿九日

一戸川町年寄去冬邪宗門之節三人共ニ取揚ケ跡役致吟味候処相動候相応之者無之先仮年寄ニ而差置候処永々仮年寄ニ而改難相落然レ共右仮年寄申付置候者共直ニ本年寄ニ改難申付者共ニ御座候ニ付三丁目平野屋惣五郎并筒屋惣十郎儀戸川町分ニ家屋敷致所持罷有候ニ付右平野屋并筒屋兩人江戸川町年寄役五六ヶ年之間先相動候様ニ今日可申付候旨大年寄へ申付ル

一中之町年寄三室屋忠四郎儀宇左衛門与改号仕度旨願出承届

一河原町年寄戸屋岩右衛門判形相改候由断出印鑑差出ス

一福渡町道具屋半大夫後家願出候者鉄砲町地子居与六俣林内与申者養子ニ仕度旨願出郡代中承合双方承届ル

三月

御用番 佐々木内膳殿

大目附 市村番右衛門

朔日 大年寄月番玉置忠兵衛ニ候処当分齊藤孫右衛門相

勤ル

一宮千五十年ニ付今日〆来ル七日迄神事有之候ニ付大勢人入込可申候間□□非人共加廻り申付候様ニ大年寄へ申付尤目明し共心掛ケ鳥散成者追払候様ニ可申付旨小頭江申渡ス

三月二日

一目明し平七儀夜前致病死候由小頭申出ル

三月三日

一今日節句故御用所御出席無之

三月四日

一今日御用所御出席有之登城

一拙者儀頭痛氣ニ付当病御断申達不參

一拙者母病氣相勝不申今日看病願差出引込御用向郡代中江可申合候旨被仰渡

一宮脇町真木屋利右衛門家屋敷北側ニ而表口五間裏行拾老間但シ五

歩役也東隣ハ松屋伊左衛門西者田町江之通り筋ニ而御座候右之家

屋敷代銀札式貫五百匁相極坪并町福江屋伝右衛門江壳渡申度旨願

出承届ル本証文差出ス

三月五日

三月六日

三月七日

一鹿田御代官石黒小右衛門殿手代庵原弁右衛門〆添状ヲ以申来候者

鹿田村与十郎与申者〆切手米百石林田東新町坂口屋長助方へ三貫

三百目之質ニ入仕此節元利相添請返し申度旨申候処兎哉角申埒明

キ不申候ニ付御願申候由与十郎〆願出右願書写被差越候ニ付相応

ニ返事認差遣則右坂口屋長助へ急度埒明ヶ候様ニ可申付之旨大年寄江申渡ス

一 船頭町今津屋伊右衛門願出候者醬油古瓶四本当川筋積下シ備前西大寺へ差遣申度旨願出承届ル

一 下紺屋町傘屋善右衛門借屋源兵衛与申者家内三人佐藤平太長屋へ引越申度旨願出承届ル

三月八日

一 今日御用席有之拙者儀御断申不能出

三月九日

一 一宮神心寺地内ニおゐて近々見せ物有之右之場所江罷越候儀御停止之旨御触書到来ニ付組之者牢番三軒屋番へ相触候様ニ小頭へ申付ル

三月十日

一 今日於直様院庄御茶屋江被為入候ニ付町分御通り掃除申付御先払差出ス

一 一宮神心寺見せ物明十一日夕相始候ニ付今晚夕惣町太鼓打相廻り候旨申出候ニ付其段御用番并大目附中江手紙ヲ以御届申達ス

三月十一日

一 一宮神心寺見せ物今日夕相始候ニ付同心共差出ス

一 戸川町重屋家守宇兵衛儀不勝手ニ付此度大庭郡久世村松本屋七右衛門方へ当戌三月夕来亥ノ二月迄奉公ニ罷越申度旨願出承届ル

三月十二日

三月十三日

一 今日御用日ニ付御出席有之拙者儀御断申不能出

一 宮脇町榎屋理右衛門家内四人大坂鈴木町和勢屋藤七与申者方へ引請申候ニ付引越申度旨願出願之通承届今日郡代中相頼御用席江申上大目附中へ申達ス

一 清閑寺地内見せ物今日切無滞相仕廻同心共見届罷帰ル尤相濟候段何方へも御届者不申達右役者町方ニ致宿罷有候ニ付早速引払候様ニ可申付之旨大年寄へ申付ル

三月十四日

一 先達而入申付置候似せ札仕候甚蔵儀少々申上度儀御座候旨牢番迄申候へ共去年詮儀以後間夕茂有之儀如何ニ存候へ共左様申候儀捨置候而ハ又々如何ニ候故其段御用番へ清水覚右衛門ヲ以相伺候上今日小頭部屋目附牢屋へ差遣致詮儀候処甚蔵申候者先達而御詮議之節右之板行私夕幸三郎へ相渡申候様ニ申上候へ共夫ハ間違ニ御座候私夕ハ長尾之源蔵へ相渡源蔵手前夕幸三郎江相渡申候此段御聞置被下候様ニ申之候へ共何之申訳ニ相成候程之儀ニ而も無之候へ共其通口書取之清水覚右衛門ヲ以御用番江及御沙汰候事

三月十五日

一 一宮神事ニ付当町中非人共加廻り申付候儀最早相濟候間加廻り差免候様ニ申付ル

一 伏見町南側砌屋権太郎家屋敷表口四間裏行式拾六間大溝切但シ半役也東隣ハ柄巻屋六右衛門西隣ハ河嶋龍庵家守松井屋善六ニ御座候右之家屋敷代銀札四百式拾匁相極元魚町倉敷屋太兵衛江売渡申度旨願出承届ル

三月十六日

三月十七日

三月十八日

一 今日御用日ニ付御出席有之拙者儀御断申不能出

一 郡代井上弥三兵衛ハ来候者就御用明日津川御林見分ニ罷越二三日逗留仕候旨申来候ニ付拙者儀引込罷有ニ而者両役共御用差支可申哉ニ付明日ハ出勤可仕候旨大目附中ハ手紙ニ而申遣ス

三月十九日

一 拙者儀今日ハ出勤

一 先達而入牢申付置候似せ札諦賢甚平甚蔵再吟味仕候様被仰付今日於牢屋呼出し致吟味候処先達而申上候通相違無御座候旨申之其通口書取罷帰候

三月廿日

一 今日夜ニ入四ツ半時勘定奉行清水寛右衛門被參被申聞候者西在中大庭郡辺ニ而似せ札仕候者有之銀札場ハ尋ニ差遣召捕来候由申越候而其段御用番江申上候間迎ニ同心組差遣候様ニ被申聞尤御用番ハ其段手紙ニ而申来候ニ付同心組兩人安岡町迄差遣候所似せ札仕候者式人召連来夜ニ入候儀故いつかたニ茂難差置候故牢番共江今夕ハ預ケ置候様ニ申付牢屋ハ召連罷越ス

三月廿一日

一 夜前似せ札仕候者兩人召連来牢番ハ預ケ置候段御用番并大目附中ハ手紙ニ而申遣ス

一 拙者儀牢屋ハ罷越右似せ札仕候源六ハ申者召出し致詮儀候処生困

(マ)

ハ雲州出当郡戸屋村之者ニ御座候八年已前雲州罷出当国江罷越真嶋郡栗原村ニ紺屋手間仕罷有候五ヶ年已前午之年似せ札仕候ニ相違無御座候段及白状下河内村市之丞召出致詮儀候処右似せ札仕候源六儀私方ハ罷越宿仕銀札板行彫り銀札仕立申候私儀茂仲ケ間ニ相成割合等取申候段相違無御座候旨及白状右兩人人口書取之御用番内膳殿江致持參委細申上ル尤右兩人今日入牢申付ル

三月廿二日

三月廿三日

一 今日御用日ニ付御出席有之

一 似せ札仕候下河内村市之丞ハ申者久世支配之者故松平勝五郎殿預り所久世役所江一通り届書状差遣可然旨今日相伺申候処左様仕可然旨御用番御差図ニ付左之通書状相認差遣ス

一 筆致啓上候各様弥御堅固御勤役可被成珍重奉存候然者当所銀札之儀先年窺相濟其已来致通用候然ル処近来似せ札有之候ニ付承合候様ニ町方之者江兼而申付置候処雲州戸屋村源六ハ申者当国真嶋郡辺致徘徊當時同郡栗原村紺屋手間致罷有候右之者并其御預り所大庭郡下河内村市之丞ハ申者申合似せ札致候由去ル廿日右兩人之者召連来候ニ付致吟味候処似せ札致候段相違無之由及白状候ニ付入牢申付置候尤追而法式ニ可ハ申付候間左様御心得可被成候右之段可得御意如此御座候恐惶謹言

三月廿四日

井上助左衛門様

野崎新右衛門様

鈴木喜右衛門

右之通相認明日致持參候様ニ御使組へ申付ル

三月廿四日

一拙者母養生不相叶致病死候ニ付定式之通服忌請引込候旨大目附中

江手紙ニ而相届ル

三月廿五日

(44)

一昨日久世表へ差遣候使組罷帰返書左之通

御札致拜見候弥御堅固被成御勤役珍重奉存候然者其御地銀札之

儀御窺之上致通用候処近来似せ札有之ニ付承合候様ニ町方之者

江兼而被仰付置之所雲州戸屋村源六与申者真嶋郡辺致徘徊當時

同郡栗原村ニ紺屋致手間罷有候右之者并御領所大庭郡下河内

村市之丞与申者申合似せ札致候由去「廿日右両人者被召捕御

吟味被成候所似せ札ニ相違無之由及白状入牢被仰付候旨尤追而

御法式ニ被仰付候旨委細御紙面之趣致承知候早速村方吟味之上

異変も御座候者従是可得御意候所ニ寄候ハ、江戸御勘定所江茂

御届申上ル儀も可有御座候左様御心得可被成候右御報迄如此御

座候恐惶謹言

三月廿四日

井上助左衛門

鈴木喜右衛門様

右之通返書到来則郡代中相頼御用番江申上ル

三月廿五日

三月廿六日

一江戸表今大熊六左衛門殿就御用御越今日御着候ニ付不時御用席有

之候由

三月廿七日

一久世役所今左之通書状到来

一筆致啓上候弥御堅固被成御勤役珍重奉存候然者先達而被仰聞

候当御預所大庭郡下河内村百姓市之丞与申者其御方様通用銀札

致似せ候ニ付御吟味之処及白状候旨入牢被仰付候由被仰聞ニ付

早速下河内村役人呼出し致吟味候処同村百姓市左衛門与申者俸

ニ相違無之由申出候然ル所其御方様今御吟味之節市之丞与致白

状候由右名前之儀者若名唯今ニ而ハ武助与致改名候旨申出候

一右被仰聞候通相違無御座候ニ付武助親市左衛門儀村預ケ足留メ

申付置右趣江戸御勘定所江早速申上候間左様御心得可被成候此

段為可得御意如「御座候恐惶謹言

三月廿七日

井上助左衛門

鈴木喜右衛門様

右之通來書ニ付返書左之通

御札致拜見候弥御堅固被成御勤役珍重奉存候然者先達而得御意

候通其御預所大庭郡下河内村市之丞与申者当所通用銀札致似せ

候由ニ付及吟味候所弥相違無之段及白状候間入牢申付置追而法

式ニ可申付之旨得御意候処下河内村役人中御呼出し御吟味被成

候処同村百姓市左衛門与申者之悴ニ相違無之由右市之丞与申名

前「若名只今ニ而ハ武助与致改名候由「旨被仰聞早速

再吟味申付候処當時武助与致改名候由申之儀ニ御座候

一先達而得御意候通相違無御座候ニ付武助親市左衛門儀村預ケ

足留メ御申付置被成候由御念入候儀ニ御座候右等之趣江戸御勤
定所江被仰上候由委細御紙面之趣致承知候右御答可得御意如此
御座候恐惶謹言

三月廿七日

鈴木喜右衛門

井上助左衛門様

右来書之趣郡代中相頼御用席江申上ル尤江戸此方御留主居中江兼
而右之「御知せ置被下候様ニ申上ル

三月廿八日

一今日御用日ニ付御出席有之

一御用番佐々木内膳殿ハ奉書ヲ以拙者忌御免被成候間明廿九日ハ出
勤可仕之旨申来

一晩方大目附市村番右衛門ハ手紙ニ而申来「者其元忌明日ハ御免
候処急御用筋候間今七ツ時伊達与兵衛殿ハ御宅江可罷越旨申来七
ツ時罷越候処大目附市村番右衛門立会ニ而町奉行郡代中江被仰渡
候者御才覚之筋不調ニ付当時江戸表御差支ニ候近年町在共ニ困窮
之儀者兼而及承候へ共可被成御手立無之候ニ付町在江御借り銀「
被仰付候員数之儀者勘定奉行江可承「尤銀札場引替之儀当分
御差留御蔵正米渡之儀被差留候由被仰渡ル

一右御借り銀札之儀并銀札場御蔵被指留候趣一通り大年寄召呼申渡
ス御借り銀札員数之儀者追而可申渡之旨申聞ス

三月廿九日

一左之通御触有之

御蔵正米例格之通可相渡候処御指支ニ付当分正米相渡候儀被指

留候然共御家中扶持方米之儀ハ以割合可被相渡候間右之通相心
得割合之儀「御蔵奉行へ承合候上請取可被申候

一右ニ付銀札場引替当分被指留候「追而引替被仰付候迄金銀

錢銀札勝手次第致通用候様ニ被仰付候此旨可被得其意候

右之通廻状ニ付諸組之者へ申触候様ニ小頭江申付ル尤惣町江相触
候様ニ大年寄江申付

四月

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 広瀬半助

朔日 大年寄蔵合孫左衛門

一今日不時御寄合有之於御用席与兵衛殿ハ被仰渡候者先日粗申渡置
候通當時御差支ニ付御借銀札被仰付町方ハ銀札百貫目在方ハ銀札
五拾貫目御借被成候間其段可申渡候尤出方割合之儀者宜敷可申付
之旨被仰渡候ニ付大年寄共三人召呼右之趣申渡ス尤正金銀御貸り
被成候ニ而者無之候而銀札ヲ以可差出候旨申渡ス
一御家中銘々家人別書相認御蔵奉行へ可差出候組付之面々者支配
頭江差出候様大目附ハ廻状到来

四月二日

四月三日

一御用日ニ付御出席有之登城

一二階町大工善左衛門御堀江足代おろし申度旨断出其段御用席へ申
上大目附中江申達承届ル

四月四日

一 御借銀札惣町見付割ニ仕可然旨大年寄申之割合ヲ以申渡ヌ割合名書之儀ハ奥へ出ス

四月五日

一 左之通伊達与兵衛殿宅ニ而被仰渡候

今般引替被指留置候銀札之儀當時銀札場差支ニ付追而手操次第半減ニして引替可被仰付候間右之趣を以金銀錢銀札無差支可致通用候

右之趣被仰渡則惣町相触候様ニ申付ル尤惣組之者へ相触候様ニ小頭江申付ル

四月六日

一 松平勝五郎殿預り所久世役所井上助左衛門ヲ以飛札来候者預り所村々銀納相納候積リニ而諸色売払候代当所通用銀札ニ仕致所持候処此度銀札場引替当分相止候ニ付銀納差仕致難義村々願出候ニ付右願書并銀札之書付差「銀札場御引替急ニ被仰付可被下候旨添状ヲ以申来候ニ付御用番与兵衛殿へ罷越右之」申上右返答之儀者銀札場請前役筋御座候儀ニ御座候間請前役筋返答有之候様仕度旨申上候処勘定奉行坏致相談左様取計候様ニ被仰渡其段勘定奉行へ及相談候上拙者申遣候者委細御紙面之趣致承知候右銀札之儀者請前役人有之候間拙者右之段申達御返答之儀者右役人追而可得御意候間左様御心得可被成候旨久世表へ返事相認差遣相濟尤銀札場奉行中委細之返事有之候筈也

四月七日

四月八日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

一 銀札場引替之儀久世申来候委細返答之儀明日銀札場奉行中被致候筈之由勘定奉行咄ニ而承之尤右銀札引替之儀者追而手操次第領内並ニ引替書可差遣候旨申遣候

四月九日

四月十日

一 御用御借銀札今日追々札場江相納候由

四月十一日

四月十二日

四月十三日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

一 御勘定奉行清水覚右衛門被申聞候者当町錢相場之儀只今迄ハ銀札場有之候ニ付銀札場ニ而相極相触申候へ共銀札場改当分留り居申候故錢相場相極不申候間先格之通大年寄共方ニ而承合相極惣町相觸可然之旨被申聞候ニ付其趣大年寄へ申渡候処七拾式文通用相極惣町相觸候段申出候ニ付其旨御勘定奉行清水覚右衛門へしらせ差遣尤御用番并大目附中へ手紙ニ而申遣ヌ

一 去西ノ十月小性町飼葉屋甚右衛門質物書入候家屋敷此度元利相払家請返し申候「甚右衛門并取次人二階町堺屋伊右衛門断書印形いたし差出ス依之先達而差出候質入証文相返ヌ

四月十四日

四月十五日

四月十六日

四月十七日

四月十八日

一久世松平勝五郎殿預り所役所井上助左衛門ハ以飛脚申來候者書狀左之通

一筆致啓上候然者先達而及御文通候当御預り所大庭郡下河内村百姓武助儀其御分通用銀札致似セ候由ニ付御吟味之上入牢御申付追而其御方様御法式ニ可被仰付旨被仰聞候ニ付早速村方致吟味候ハ右武助下河内村之者ニ相違無御座候ニ付早速御勘定所江御届申上候段及御文通置則御届申上候ハ御勘定御奉行中ハ被仰渡候者御料所百姓之儀其御分ニ而御吟味入牢被仰付候儀有之間敷儀ニ思召候依之右武助儀其御方様江申達早速此方江請取候而致吟味相同候様ニ被仰渡候此儀表立候而者不宣筋ニ候間当御役所ハ及御内談取計候様ニ一色周防守殿ハ江戸詰役人共江被仰渡候旨申越候右ニ付明十八日右武助儀為請取役人可差進候左様御心得其節御引渡被成候様ニ致度存候右之段為可得御意如此御座候恐惶謹言

四月十七日

井上助左衛門

鈴木喜右衛門様

右之書狀今早朝夜の内飛脚致持參候ニ付早速御用番与兵衛殿江罷越委細申上如何及返答可申哉之旨御伺申上候ハ与兵衛殿被仰候者此方ニ而者前々右之類刑罪共何方ハも相断申儀無之取計來候既ニ先年因州御預り所西々條郡中谷下村百姓伊右衛門同郡□□□□

□村穢多六助才吉儀當領下田野村山伏中之坊方へ這入致盜召捕入牢申付置其節之久世役人大口權九郎堀喜七郎へ郡代鈴木喜右衛門ハ再応及文通此方ニ而ハ右等之類只今迄何方ハも御断不申達法式ニ取計來候旨申遣候所久世役所江戸御勘定所御届申達候ニ付御勘定所御尋書勝五郎殿御留主居へ相渡此方様御留主居へ被差越候左之通 中谷下村百姓伊右衛門□□□□村穢多六助才吉三人儀者松平越後守方ニ而国法之仕置申付候之旨申來候由如何越後守方ハ相伺仕置申付候事ニ候哉最早右三人之者仕置者相濟候事哉江戸役人迄被聞合否相知次第可被申聞候事

三月

右三人之者去辰十一月晦日之夜御領分下田野村中坊与申山臥之宅江這入衣類等盜取候ニ付被召捕入牢被仰付候由御郡代鈴木喜右衛門殿より作州此方役人共方江御掛合有之候一件ニ付被仰出候右之通勝五郎殿内大塚休大夫ハ此方御留主居へ申來候ニ付返答附札左之通 右三人之者共儀先達而及御挨拶候通古來より致し来り之通何方様江御届申儀無御座任古格去冬十二月廿六日左之通申付候旨申來候

辰十二月廿六日

左之三人遂詮儀候ハ盜賊ニ候得共此度者助命申付領分追払候

西々条郡中谷下村百姓 伊右衛門

同郡□□□□村穢多 才吉

同郡山城村出生宿なし 仁助

右之通附札いたし遣又々別紙附札左之通

先達而御預り所郷御役人中江鈴木喜右衛門御掛合申候書面ニ者右盜賊三人之内同郡□□□□村穢多六助才吉与有之候所右仕置申付候段申越候書付ニ者右之通同郡山城村出生宿なし仁助与申来候右六助事再応詮儀之上仁助与申候哉若又六助儀者三人之中ニも子細有之未入牢仕置不申外ニ同罪之者仁助与申者有之同時ニ仕置申付一紙ニ書込申来候義ニ御座候哉此段不分明相尋申越候得共答未申来候

右之通付札いたし差遣候処其後何之御尋^成無之相落候ケ様之儀も有之前々致来り之事ニ候へ者左様ニ申来候迎相渡し差遣候儀も難致候間江戸表相伺候上ニ而相渡候様ニ御差^成候ハ、不及是非候間相渡候様ニ可致候間急ニ江戸表へ申遣相伺候様ニ可致候間其通及返答候様ニ被仰付返書左之通

昨十七日之御札今朝相達致拜見候然者其御預り所大庭郡下河内村百姓武助儀当所通用銀札致似せ候ニ付吟味之上入牢申付置候段先達而得御意候ニ付其趣江戸御勘定御奉行所へ被仰達候^成御料御百姓之儀ニ御座候ニ付其御手ニ而御吟味之上御申上候様ニ被仰付候間右武助儀御渡可申由被仰聞委細御紙面之趣致承知候此方^成茂江戸表相伺候上追而從是御案内可得御意候右御答如此御座候恐惶謹言

四月十八日

鈴木喜右衛門

井上助左衛門様

追而得御意候右一件其表^成御内談之上御取計候様一色周防守殿

被仰渡候旨被仰聞右御内意も有之候儀又々得御意候^成如何奉存候へ共先年其御預り所西々條郡中谷下村百姓伊右衛門同郡□□□□村穢多六助才吉儀当領於下田野村ニ致盜賊召捕入牢申付置候段御先役大口権九郎殿堀喜七郎殿へ得御意候尤其節江戸御勘定所へ申達候^成御座候ニ付一応江戸表相伺候上追而從是可得御意候右之段役人共申付候間如此御座候以上

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

一 御用番与兵衛殿被仰聞候者右久世掛り合之一件今晚仕廻御飛脚ヲ以江戸表江申遣候間其元^成右久世贈答共委細書写御留主居岡村多仲方へ可差遣候尤先年之一条委細多仲方吞込居候間此度之一件可申遣候旨被仰渡候ニ付久世^成之来書此方^成之返書委細書写書状相添岡村多仲方へ差遣ス

一 今晚方七ツ時久世^成下河内村武助為請取役人西原庄兵衛野田才次郎与申徒格之者之由兩人罷越夜前井上助左衛門^成飛札ヲ以得御意候通下河内村武助儀為請取拙者共罷越候御案内次第請取候様ニ致度旨手紙差越宿船頭町今津屋方ニ罷有候由依之同心組小頭石名平大兵衛返答なと差遣為申候者今朝井上助左衛門殿^成御状被遣右武助御請取可被成候旨被仰聞候^成此方^成茂江戸表相伺候上追而從是御案内可申由及御返答候間左様御心得可被成候旨申達候^成右同人申候者委細被仰聞候趣致承知候達而相請取罷帰可申^成申^成而^成者無之候へ共御勘定御奉行一色周防守殿御内意之趣^成有之候水戸様ニ御領分ニ而^成茂主^成教有之水戸様へ御召捕被成候へ共御代官所之者

故御代官所へ相請取以仕置被仰付候様成儀も有之候由周訪守殿御咄ニ而御念入御内意之趣筆談ニ難書取候ニ付拙者共罷越委細御御申候様ニと助左衛門申付候由被申聞小頭平太兵衛罷帰申聞候ニ付其段御用番与兵衛殿へ罷越委細申上候処念入候儀ニ御座候旨能々及挨拶可申候兎角江戸表伺ニ而從是御案内可申由及挨拶相返し候様ニ被仰聞又々小頭平太兵衛差遣右之挨拶いたし相濟

四月十九日

一久世々々々來書左之通

昨十七日以飛札得御意候処御返書相達致拜見候然者大庭郡下河

内村武助儀其御分似せ銀札吟味之儀於此方ニ遂吟味相伺候様ニ

御勘定御奉行中々被仰渡ニ付其旨得御意候処委細御承知被成候

へ共其御方様改江戸表江御伺之上追而御案内可被成旨致承知

候猶又御返答之趣江戸御勘定御奉行中江此方も可申上候

一右之趣表立候而ハ不宜相聞候ニ付御奉行中御内意之趣得御意候

処是又御承知被成候へ共先年当御預り所西々條郡中谷下村百姓

伊右衛門同郡□□□□村六助才吉儀御領分下田野村ニおゐて

致盜賊候ニ付其節被召捕入牢御申付置候段先役大口権九郎堀喜

七郎江被仰達候由尤其節江戸表御勘定所江被仰達候詎も御座候

ニ付一応江戸表江御伺之上追而可被仰聞候趣是又致承知候右先

役共取計之儀差掛り候儀故詳ニ者難得御意御座候然ル所其節改

此方も御勘定所江相伺御下知不相濟内其御方様御仕置相濟少々

間違ノ様ニ御聞取被成候趣及承候此度右武助儀其御方様も一応

御伺改被成候儀故御法式御取計御延引者勿論ニ存候へ共此方も

改御書返之趣相伺候間再御下知御座候迄御仕置等御延引被成候様致度存候此段為念猶又得御意候恐惶謹言

四月十八日

井上助左衛門

右之通飛脚ヲ以申來候ニ付則御用番与兵衛殿江申上候而返書左之通

為御再報御札致拜見候然者大庭郡下河内村武助儀当所通用銀札

似せ仕候儀其御手ニ而被遂御吟味御伺被成候様ニ御勘定御奉行

中々被仰渡候ニ付御請取被成度旨昨日被仰聞候処先年中谷下村

伊右衛門□□□□村六助才吉取計之節御勘定所江申達候詎改

御座候ニ付一応江戸表へ御伺之上追而從是御案内可得御意候旨

及御返答候御承知被下候由尤江戸表伺相濟候迄ハ法式取計候

儀可致延引之旨被仰聞被入御念委細致承知候右之趣猶又役人共

可申聞候右御答如此御座候恐惶謹言

四月十九日

鈴木喜右衛門

追而先年之一件御勘定所江御伺御下知不相濟内此方ニ而仕置筋

相濟候ニ付少々間違候様ニ御聞取之趣御承知被成候由左様之儀

此方へ者委細相聞へ不申候其節此方江戸役人共江御尋之趣ニ御

座候所前々々右等之筋何方江御届仕候儀無御座法式ニ取計來

候由申達候処其後何之御沙汰改無御座相濟候右之趣共御座候ニ

付此度も一応御伺不申上候而者難得御意右之通及御状候儀ニ御

座候追而伺相濟次第從是御案内可得御意候以上

右之通返書相認御用番五委細申上返書差遣ス

四月廿日

一ノ宮市町七八人連無さいりん世話安岡町米屋平右衛門仕度旨願
出承届ル

四月廿一日

一御用番与兵衛殿暮時呼来罷越候処被仰聞候者去ル十一日出之御飛
脚只今罷越候江戸表御勘定御奉行一色周防守殿御内意之趣松平勝
五郎殿江戸詰役人大塚丈左衛門六此方御留主居へ被申聞候者勝五
郎殿御預り所大庭郡下河内村武助儀久世役所五引渡可然之旨演說
有之候旨申来候尤道中大井川満水ニ而四日計逗留いたし及延着候
兎角江戸六之書面相考候処早々相渡可然由ニ相聞候只今迄之取計
来りとハ相違ニ候へ共江戸表六申来候儀ニ候間引渡可然候尤其旨
久世役所明日飛脚差遣候様ニ被仰付

四月廿二日

一今日久世表へ飛札差遣差之通

一筆致啓上候然者先達而被仰聞候其御預り所大庭郡下河内村武
助御引渡之儀去ル十一日差立候飛脚今曉致到来江戸表六申越候
者一色周防守殿六御内意之趣去ル十一日其御方様御役人大塚丈
左衛門殿此方留主居共五御演說之趣越後守承早々御引渡可申旨
申付越候依之武助儀御報次第從是差遣御引渡可申候間左様御心
得可被成候右之段可得御意如此御座候恐惶謹言

四月廿二日

井上助左衛門様

鈴木喜右衛門

追而得御意候丈左衛門殿委細被仰聞候之趣致承知即日飛脚差立
申越候之処道中大井川其外川々差支相滞延着ニ付先日被仰聞候
節爰元六も相伺候而申越候様ニ即刻江戸表五申遣依之右否申越
候上從是御案内可申旨及御報候儀ニ御座候何分御報次第召連罷
越候様申付候以上

右之通御用番五伺之上飛脚差遣ス

四月廿三日

一今日御用日ニ付御出席有之

一江戸表六御飛脚到来去ル十三日從而御丸為御上使三好勝之助殿徳
永平兵衛殿御越御暇被仰出例之通御拝領物被遊候依之御悅御帳今
日付登城尤其段大年寄共へしらせ遣ス
一久世表五之飛脚罷歸返書左之通

御飛札致拜見候然者先達而及御文通候当御預所大庭郡下河内村
武助御引渡之儀於江戸表此方役人大塚丈左衛門其御方様御留主
居中五一色周防守殿御内意之趣致演說候ニ付其段越後守様達御
聽早々御引渡被成候様ニ江戸表六申来候ニ付右武助其御方様六
御差越可被成候旨致承知候左候者明日中御差越被成候様致度奉
存候其節御案内次第於当表早速請取可申候右御報迄ニ如此御座
候恐惶謹言

四月廿二日

井上助左衛門

鈴木喜右衛門様

右之通返書飛脚之者今日八ツ半時分罷歸只今六武助差遣候へハ夜
ニ入候ニ付難差遣之旨御用番相伺候処明日者公儀御精進日ニ候間

明後廿五日差遣可然左候ハ、其段以飛脚又々久世へ申遣候様ニ被仰付左之通申遣ス

昨廿二日以飛札得御意候御報今ハツ半時相達致拜見候然者其御預り所大庭郡下河内村武助御引渡之儀今日中御請取可被成旨被仰聞致承知候然ル処右武助只今ハ差立候へハ夜分罷越候様ニ相成無心元奉存候明日ハ御日柄ニ茂御座候間明後廿五日差遣御引渡可申候間左様御心得可被成候右之段可得御意以飛札如斯御座候恐惶謹言

四月廿三日

鈴木喜右衛門

井上助左衛門様

右之通相認久世へ差遣ス尤使組者人并挑灯持中間者人差遣ス挑灯らうそく共ニ割場ハ差出ス

四月廿四日

一久世差遣候飛脚罷帰返書左之通

御飛脚致拜見候然者昨廿二日御報今ハツ半時其御地江相達候旨依之今日下河内村武助御引渡之儀及遅時候ニ付左候へハ夜分ニ茂相成候間無御心元思召明日者御日柄ニ茂御座候条明後廿五日御差越御引渡可被成候旨御紙面之趣致承知候左候ハ、明後廿五日御勝手次第御差越可被成候右心得ニ而可罷有奉存候

一昨廿二日其御地御飛脚七ツ時過到来ニ付其節相尋させ候者直ニ罷帰候ハ、即刻御報可相渡旨申聞候処直ニ歸り候由申之ニ付左候得者今日御渡し可相成旨存候ニ付右之段得御意候処今朝承り合セ申候処別宿止宿致シ今朝罷帰り候由ニ相聞へ候右ニ付御報

及遅滞候様ニ奉存候此義少々間違も有之今日御引渡被成候様ニ得御意候義ニ御座候左様御心得可被成候右御答迄ニ如此御座候恐惶謹言

四月廿三日

井上助左衛門

鈴木喜右衛門様

右之通返書到来委細御用番江申上候処左候ハ、弥明廿五日差遣可然候尤同心組小頭者人平組兩人可差遣候旨被仰付其用意申付ル外ニ目明シ者人小頭召連候町人足者人并合羽持町人足者人武助乗申候駕籠者日用頭へ申付差出させ尤駕籠之者式人坪井迄之次人足日用頭ハ差出候様ニ申付ル小頭着御貸シ絹羽織小紋大文字付者人平組兩人着絹黒大文字付羽織式ツ勤者中ハ請取致候筈且又小頭者人平組式人并目明シ者人旅籠代トして壹貫五百文内貸御金藏ハ今日請取

一御用番与兵衛殿ハ御手紙ニ而申来候者明日武助召連罷越候節同心小頭并平組可差遣旨相達候処相考候へハ御徒目附者人差添差遣可然候間其段申付候委細御徒目附ハ聞合可有之候間致通達候様ニ申来ル

一先達而被仰付惣町御借銀札百貫目今日迄ニ不残皆納仕候旨ニ而銀札場当分預り大年寄致持參請取置右皆納仕候段御用番并大目附中江申達ス

一林田中之町篠屋茂右衛門後家所持之家屋敷南側表口三間裏行拾七間但シ半役也東隣者桜屋平三郎西隣者鳥羽屋吉兵衛ニ而御座候右之家屋敷代銀式百目相極同町鳥羽屋吉兵衛江売渡申度旨願出承届

ル本証文差出ス

四月廿五日

申之丞事

一 下河内村武助今朝呼出し先達而詮儀口書読聞候処弥相違無御座候
由申之ニ付爪判取候上其方儀今日久世表江引渡候様ニ被仰付差遣
候間罷越候様ニ申渡差遣ス附添罷越候人数左之通

御徒目附 中沢曾右衛門

同心小頭 石名平太兵衛

同 平組 神田権兵衛

右同断 金嶋段七

目明し 太兵衛

人足式人 合羽持共ニ

駕籠人足式人 是ハ坪井迄

次人足也

右之通差遣ス尤先達而吟味之口書書写平太兵衛江為持差遣ス久世
へ左之通書状差遣ス

一 筆致啓上候然者大庭郡下河内村武助儀今日御引渡可申旨一昨
日以飛札得御意候処御承知被成候由被仰下則召連差遣候御引渡
之儀御案内可申候間御勝手次第為御請取候様ニ御申付被下度存
候右之段可得御意如此御座候恐惶謹言

四月廿五日

鈴木喜右衛門

井上助左衛門様

尚々昨日御報御端書之趣致承知御念入候儀ニ御座候以上

右之通相認差遣ス無滞差立候段御用番并大目附中へ手紙ニ而御届

申達ス

四月廿六日

一 昨日久世表へ差遣候大庭郡下河内村武助昨廿五日久世役人野口佐
左衛門野田才次郎江無滞引渡今日八ツ時何茂罷帰ル久世井上助左
衛門へ返書左之通

御札致拜見候然者大庭郡下河内村武助儀先達而及御答候通り今

日御引渡被成則御役人中沢曾右衛門殿被召連此方役人共御立会

申無相違請取申候左様御心得可被成候右御報迄如此御座候恐惶

謹言

四月廿五日

井上助左衛門

鈴木喜右衛門様

久世へ返書右之通無滞引渡罷帰候段御用番江罷越御届申上大目
附中江手紙ニ而相届ル

四月廿七日

一 大年寄申出候者虚無僧本寺京都明暗寺へ伴僧橋仙与申者差越大年
寄へ逢申度旨申候ニ付逢申候処当春〇外形江当御領分虚無僧取計
被仰付候由弥上へ被仰付候儀ニ御座候哉与申候ニ付成程左様ニ御
座候喜平治致病死候以後無之候ニ付〇外形江当領分取計被申付候
旨及挨拶候然ル処其後右伴僧へ以使僧申越候者弓削村龜跳与申者
并当所外形右両人江美作一國取計申付候間左様御心得可被成候旨
申越候ニ付右之段申上候由申出ル

四月廿八日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

一 於対談之間ニ町奉行郡代江御用番与兵衛殿被仰渡候者此度御差支ニ付町在御用銀札被仰付候処早速調達相濟大年寄大庄屋共出精いたし候此段可被致称美候各方ニも辛勞故相濟恐悦之事ニ候此段大年寄大庄屋共江可申聞旨被仰渡則大年寄三人召呼右之段申渡ス尤御札相勤ニ者及申間敷由申聞ス

一 先達鹿田石黒小右衛門殿手代庵原弁右衛門之添状ニ而申来候鹿田村与十郎方之切手米三百俵東新町坂口屋長助方へ質物入銀札三貫三百匁借り請候処請返し可申由与十郎方之先達而申候へ共相滞候ニ付与十郎之訴状差出添状ヲ以申来候ニ付稠敷申付置候処此度右問銀差遣手札取房し双方出入無之由濟口一札取置申候段坂口屋長助方之断書差出候ニ付右断書写ニ拙者添状相認鹿田石黒小右衛門殿手代庵原弁右衛門方へ差遣ス尤坂口屋方之飛脚差立鹿田江差遣候様ニ申付ル弁右衛門之致承知候旨返書到来

一 大目附之廻状ニ而申来候者藤堂大学頭様御嫡御名斧千代様与称申候右斧之字附候名可被致遠慮旨申来則右之趣相認惣町相触候様ニ大年寄へ申付ル尤惣組相触候様ニ小頭江申付ル

一 鍛冶場前横渡し舟損シ候ニ付又々御繕被仰付被下候様ニ断書差出則御用席へ差上ル右御繕之内御船奉行中預り馬舟御貸し被下候様ニ大目附中江申達候処大目附中御船奉行中江通達有之借用相濟

一 林田町鍵屋源左衛門安左衛門江大坂南瓦屋町播磨屋伊兵衛之年賦銀滞四度目之訴状相廻り御用席之御渡被成候ニ付源左衛門安左衛門江急度申渡候様ニ大年寄へ申付ル

四月廿九日

一 河原町藤田屋惣左衛門借家甚藏儀去ル十八日於宮川ニ小嶋此母下女打擲いたし法外之致方ニ付小嶋利助之被申聞追込申付候処町内弘可申付之旨御用席へ相伺候処左様取計候様ニ被仰付今日大年寄宅へ小頭并平組兩人差遣申渡シ町内弘申付其段御用番并大目附中江手紙ニ而申遣ス

一 安岡町桶屋三九郎願出候者真嶋郡福田村長八与申者由緒御座候ニ付家内四人引請渡世為仕度旨願出御用席へ申上承届ル

一 京町菊屋清左衛門願出候者越中富山板屋理兵衛梓安右衛門与申者例年之通召抱当十月迄差置売葉為仕申度旨願出承届

四月晦日

一 新魚町南側野田屋孫三郎家屋敷表口四間式步半裏行拾五間但シ七步半役也東隣ハウを屋久四郎西隣者野田屋三右衛門ニ而御座候右之家屋敷元魚町河内屋善左衛門取次ニ而質物書入正銀百目当十月切利足巻ケ月式步ツ、ニ而借請申度之旨願出承届本証文差出ス

一 福渡町道具屋半太夫後家梓林内儀此度濕美権左衛門方へ出入奉公仕度旨願出承届

一 元魚町嶋本屋喜兵衛梓嘉兵衛儀三年已前相願備前兒嶋町茶屋甚次郎方へ奉公ニ差遣候処此度同所小橋町伏見屋藤右衛門方へ養子ニ差遣申度旨願出承届

五月

御用番 佐々木内膳殿

(大目附) 村山半八
五月廿日之當番持

朔日 大年寄玉置忠兵衛

五月二日

一 川水相増鍛冶場前船渡相止之段御用番并大目附中江手紙ニ而御届申達ス

五月三日

一 鍛冶場前船渡し今朝ハ仕候由注進申候ニ付其段御用席へ申上大目附中江申達ス

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

一 惣町御用銀札差出候人数書付仰達与兵衛殿へ掛御目候事

一 於御用席御用番内膳殿被仰渡候者銀札之儀正米ヲ以御引替ニ遣候間来ル十五日迄之内札元方江差出引替候様ニ惣町相触可申候委細之儀者勘定奉行江承合可申旨被仰渡勘定奉行江承合候処正米之相場銀札ニ而六拾五匁相場ヲ以引替遣候由被申聞右之趣大年寄召呼

申渡惣町相触候様申付ル

(朱書)

「右米相場ニ而相考候へハ正銀与銀札六歩差リン余引替

ニ相当り候積り也」

一 関播磨守殿此度御在所江御帰ニ付来ル七日勝間田御泊翌八日当所御通行中須賀屋御休之旨先触到来尤継馬式拾七疋人足拾六人差出候様ニ申来ル

五月四日

一 一宮市町例年之通今日切ニ付例之通惣町江触書差出ス并非人頭江申付候様ニ別紙触書大年寄江差遣ス

一 関播磨守殿来ル八日当所御通行先触夜前到来之旨御用番へ手紙ニ而申上ル并大目附中へ其旨申遣尤御通之節御使者宿斉藤孫右衛門

宅ニ而相勤候且又在中寄馬之儀御郡代中へ被仰達可被下候旨申遣ス

一 右御通りニ付在中寄馬七疋御申付被下候様郡代中江申遣ス

一 右御通行ニ付先格之通惣町触書差出ス

一 右御通行ニ付当日在宿医師三人并御使者案内之もの老人可申付旨

大年寄へ申付ル且又東西渡し場江御蔵元老人船頭町年寄老人ツ、罷出候御蔵元之儀御船奉行中ニ而被申付候船頭町年寄罷出候事者

御船奉行中ハ申来次第当役所ニ而申付候事尤東西へ年寄式人罷出候事

一 右御通行之節先払式人并馬次之場江同心式人先格之通罷出候様ニ是又小頭江申付ル

一 一宮市町今日切ニ而組之者共差出何之滞り茂無之市町引払候由見届罷帰尤何方江御届者不申達

五月五日

五月六日

一 船頭町今津屋伊右衛門醬油古瓶五本備前国西大寺肥後屋市左衛門方差遣申度候川節通り手形之儀願出承届手形裏書致印形遣ス

五月七日

一 明八日関播磨守殿当所御通行之節御使者宿江被罷出候御使番石田平六被相勤候由平六ハ知せ来り其段御使者案内之者江申聞せ置

一 於江戸表去ル廿八日御前様御安産被遊御男子様御誕生被遊候依之明後九日為御悦御帳付候間登城可仕候旨御奏者中ハ廻状到来ニ付

右御悦明後九日相勤候様ニ大年寄へ申遣ス右御安産之旨惣組并三

軒屋牢番共へ相知せ候様ニ小頭江申付ル

五月八日

一 関播磨守殿当所御通行今日無滞相濟万端先格之通申付ル

本馬式拾六疋

内拾八疋 町馬

七疋 在馬

人足式拾八人

在宿医師

有本宗的

渡部玄輪

岡村又針

御使者宿

芥藤孫右衛門宅

御使者案内

若松屋

善左衛門

馬次之場江

同心組式人 尤部屋目附兩人也

先払

同 式人

（船頭町年寄式人東西渡シ場へ罷出ル

外ニ御藏元式人右東西へ罷出ル

東西渡シ舟并御藏元罷出候儀者
御船奉行中ニ而被申付候事船頭
町年寄罷出候儀ハ御船奉行中
申来り次第当役所申付候事

右先格之通申付無滞相濟其段御用番并大目附中江手紙ニ而御届申
達ス

一 今日之御用日明日江相延ル

五月九日

一 今日御用席有之

一 御安産御悅御帳付登城

一 高田村塚谷屋市郎右衛門米切手式千三百俵余致所持候処此度正米
相渡り不申候ニ付鹿田役所へ願出石黒小右衛門殿手代庵原并右衛
門之添状ヲ以願書写到来ニ付御用番江罷越相同申候所先達而銀札
之儀久世表之申来候節之通致返書差遣候様ニ被仰付候間拙者返答
ニ者右藏米切手之儀ハ請前役筋之者御座候間從拙者致通達右願書
写相廻し可申候尤右役筋之者之追而可及御返答候旨并右衛門へ返
事認差遣相濟且又并右衛門之来書市郎右衛門願書写者勘定奉行
中へ相廻ス

一 町馬改今日大年寄宅ニ而小頭部屋目附罷越相改帳面差出ス

一 御帰城御道筋町分下見分小頭大年寄罷出見分相濟相替戊無之

五月十日

五月十一日

一 河原町南側板屋清右衛門後家家屋敷表口五間裏行拾間但シ巷軒役
也東隣ハ左官七左衛門西隣ハ福田屋半兵衛ニ而御座候右之家屋敷
代銀百五拾匁相極同町作人定七江壳渡申度旨願出承届候本証文差
出ス

一 中之町福居屋市兵衛借家今屋猶右衛門願出候者備中関播磨守殿御

(マ)
領分哲多郡熊谷村百姓友助弟儀兵衛儀由緒御座候ニ付此度養子ニ
仕度奉存候旨願出承届

一 二階町白銀屋四郎右衛門只今迄致所持古道具取売相止申候ニ付右
之跡美濃職人町財布屋平七古道具取売仕度旨願出承届

五月十二日

五月十三日

一 今日御用日ニ付御出席有之登城

一 松平勝五郎殿久世役所野崎新右衛門左之通書状到来

一 筆致啓上候然者先達而同役井上助左衛門江被仰聞候其御領分
通用銀札似せ有之ニ付兼而町之方者江御尋被仰付置候由然ル所
当御預所大庭郡下河内村へ入込武助儀其御領分江御召捕被成候
節右町方之者ニ有之由被仰聞致承知候然ル所右召捕ニ罷越候節
当久世町長七源八与申者も下河内村江罷越候由ニ付遂吟味候処
其御地目明シ原田屋理助与申者相頼候ニ付罷越候由申之候其上
源八儀者元来津山町之者之由ニ付右利助源八方へ罷越其表右
召捕被仰付候由申之候且又右源八義其御地桶屋町根帳之由申之
候右両様左様ニも御座候哉勿論下河内村入込武助召捕候者其御
方様御役人中ニ而ハ無之段致承知候へ共此度下河内村入込武助
被召捕候一件委細可申上旨江戸御勘定所へ被仰渡候ニ付此段為
念得御意候右両様之訳被仰聞可被下候此旨為可得御意如此御座
候恐惶謹言

五月十三日

野崎新右衛門

鈴木喜右衛門様

右之通書状到来委細御用席申上尤致吟味追而從是可得御意候旨一
通り返書認候而飛脚之者差戻ス

五月十四日

一 御奏者中今廻状ニ而殿様去ル六日江戸表御発駕被遊御滞無之候へ
ハ来廿二日御城着被遊候間例之場所江罷出候旨廻状到来

一 勝間田町薬屋善七郎借屋居申候七六家内三人林田弓町御城代組小
森文内屋敷江引越申度旨願出承届ル

一 只今迄妙願寺長屋ニ居申候八兵衛与申者夫婦戸川町藤屋甚助借屋
江引越申度旨甚助願出承届ル

五月十五日

一 此間久世申来候返書之儀昨今段々念入御用番江相伺申候先達而
久世江罷越居申候松尾屋源八儀桶屋町致吟味候処只今ニ而ハ桶屋
町人別之者ニ而者無之由申出候得共当所人別之者ニ而ハ無之段拙
者今久世へ申遣候へハ久世表ニ而右源八甚料重ク相成候由相聞申
候此度此方様之御用相勤候者ニ候へハ其段ハ致了簡当所人別之者
旨申遣候様ニ仕度旨勘定奉行清水寛右衛門御内意申上候ニ付左
候ハ、当所人別之者旨申遣シ可然旨御用番内膳殿御差図ニ付右之
通相認ル且又先達而原田屋理助下河内村へ差遣候儀銀札場申付
差遣候儀ニ候へ共似せ札板行取揚来候様ニ申付遣シ候処似せ札仕
候源六武助召連来候元来銀札場ハ似せ札仕候者召連来候様ニハ
不申付候へ共右理助儀此度之御用相勤申候者故此段相改致吟味
候而者不宣候ニ付何分銀札場似せ札仕候者共ニ相知レ候ハ、召

連來候様ニ申付由喜右衛門ハ久世ハ返書有之候様ニ仕度旨清水寛
右衛門ハ御内意申上候ニ付右之通認差遣候様ニ内膳殿被仰付左之
通相認内膳殿ハ御覽ニ入ル

一筆致啓上候御堅固被成御勤珍重奉存候然者先達而井上助左
衛門殿ハ及御文通候当所通用銀札似せ有之候ニ付承合候様ニ町
方之者ハ申付置候然ル処大庭郡下河内村武助ハ申者召連來候間
致吟味候処弥似せ札致候ニ相違無之段及白状右一件御吟味之上
委細可被仰上之旨江戸御勘定所ハ被仰渡候由依之右武助召連來
候節之訳可得御意之旨此間被仰聞致承知候

一右武助召連來候節当所原田屋理助ハ申者久世町源八方ハ罷越候
而申候者右之似せ札仕候者召捕來候様ニ申付候旨申之候由元來
右武助召連來候趣意ハ大庭郡辺似せ札致候者有之由沙汰候ニ付
様子聞繕似せ札之者相知レ候ハ、召連歸候様ニ申付候并板行茂
有之候ハ、取揚ケ來候様ニ原田屋理助ハ申者ハ申付差遣候儀ニ
御座候然ル処理助罷越承繕候処源六武助似せ札仕候由申之候ニ
付板行之儀相尋候処最早焼捨申候由ニ付右兩人召連來候儀ニ御
座候尤久世町長七源八儀者右理助ハ相頼致同道罷越候由申之候
一源八儀元來当所桶屋町根帳之者之旨申上之候由被仰聞候ニ付致吟
味候処桶屋町人別之者ニ御座候然ル処三ヶ年ハ已前ハ為渡世相断
罷越候儀ニ御座候右等之趣此間之御挨拶可得御意如此御座候恐
惶謹言

五月十六日

野崎新右衛門様

鈴木喜右衛門

右之通相認内膳殿ハ御覽ニ入候処成程此通相認差遣候様ニ被仰付
明朝罷越様ニ御使組申付ル

五月十六日

一今朝久世表ハ飛脚差遣ス

一御帰城前町方御書先例之通相認差出ス

五月十七日

一今日御道筋見分罷出無滞相仕廻罷歸ル

一久世ハ返書到來何之相替儀無之則御用番ハ御覽ニ入

一鍛冶場渡船御繕出来今日ハ相用候旨申出候間先達而貸り置候馬船
相返し候御船奉行中ハ手紙差遣ス

五月十八日

一今日御用日ニ付御出席有之登城

一今般御出生様久松様ハ御名被遊候右之御名指合候名可相改之旨被
仰出候由大目附中ハ廻状到來ニ付惣町相触候様ニ大年寄ハ触書差
出ス右之趣小頭申付惣組牢番三軒屋番ハ相触候様ニ申付ル

一宗旨奉行中ハ例年之通宗旨改案詞帳指越被申当年ハ別段ニ寺院
方別証文一町切ニ取之町々年寄奥書并大年寄奥書ニ而差出候様ニ
被申聞則案詞被差越大年寄召呼右之段申渡し且又左之通口達申付
ル

五月十九日

一御帰城前ニ付今日ハ御用所日々御出席有之

一茅町作人文右衛門粹文次郎儀大坂嶋之内疊屋町紀伊国屋喜兵衛方
ハ当戊ノ年ハ子年迄三年之間奉公ニ差遣申度旨願出承届

五月廿日

一 大目附中御用向当番を被取計

五月廿一日

一 例年之通御迎馬之儀土居勝間田を相頼来今朝差遣ス

町馬式拾五疋

寄馬 五疋

ノ三拾疋

内式拾五疋 御迎ニ差遣ス

式疋 用心馬ニ差遣ス

三疋 津山ニ残し馬

右之通割合ニ而差遣在中寄馬五疋ニ而相済

五月廿二日

一 御機嫌好今日九ツ半時御帰城被遊拙者儀例之通町端江罷出御目見

申上無滞相仕廻罷掃直ニ登城御用席江御悦申上御用所御即出迄相

詰ル 組之者共役割

小頭老人平組式人御先払

平組式人御掃除見分

同 老人京町人留

同 三人供

内老人玉琳江御着之旨御城江注進申付

同 老人屋敷番

五月廿三日

一 例年之通橋々ニ而涼候儀并火之用心触差出ス

五月廿四日

一 大坂請酒仕候榎野屋文右衛門音羽屋和助池田屋七郎左衛門願出候

者大坂表酒直段大分高直罷成申候ニ付大坂請酒直段相応ニ上ケ壳

申度旨願出申候ニ付今日御用席江申上候処請酒之儀大坂表直段上

ケ候ハ、夫ニ応上ケ壳候様ニ被仰付其段三人之者共江可申渡旨大

年寄へ申渡ス

五月廿五日

五月廿六日

一 先達而安岡町材木屋庄右衛門方へ這入繰綿老本盜取候盗人庄吉儀

助命追払可申付之旨被仰付申渡古城村御境目へ送り遣ス尤追払申

付候段御用番并当番大目附中へ御届手紙申遣ス

一 西今町信野屋弥四郎借屋ニ居申候松谷屋貞十郎所持仕候他国請酒

株当戌歳合三ヶ年之間小性町田刃屋嘉七借請申度旨願出承届

一 林田町北側小山屋源助家屋敷表口式間裏行拾六間但シ七步役也東

隣者作人彦八西隣ハ山本屋伝吉ニ而御座候然ル処右源助病死仕跡

相続仕候者無御座候ニ付同町小山屋善四郎娘百へ相譲り申候旨源

助病中遺言仕候ニ付引請申度旨一家之者共并組合合印形願出承届

本証文差出ス

五月廿七日

五月廿八日

五月廿九日

六月

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 当番持

朔日 大年寄齊藤孫右衛門

一御痛氣故今日御目見無之

六月二日

一今日御出有之御用所御出席無之

六月三日

一今日御帰城後初メ而御目見被為請候ニ付諸士登城拙者儀^茂表^江相廻り御目見申上ル先格之通内山下ハ相廻り不申

一東新町年寄玉屋伊左衛門儀近年病氣ニ罷成候ニ付役儀御免被下候様ニ願出候ニ付致吟味候処相違無之ニ付願之通役義差免候様ニ大年寄へ申付ル

一京町宮嶋屋源助中買株小性町吉田屋喜八江相譲り申度旨願出願之通承届ル

一伏見町正木屋八右衛門願出候者因州鳥取二階町百足屋清左衛門後家并娘老入右兩人内縁之者ニ御座候間此度引込申度旨願出承届ル尤御用席へ申上大目附中へ申達ス

六月四日

一伏見町吉田屋平十郎後家倅半三郎儀此度大坂江戸堀五丁目湊屋平兵衛与申者方へ当戌ノ六月ヨ来ル子ノ十二月迄三ヶ年之間奉公仕らせ申度旨願出承届

六月五日

一御川狩之節御船着^江ともし申候高挑灯左之通今日勤者中ヨ預り置

御紋付高挑灯 貳張

大文字付高挑灯 壹張

生蠟 四挺

牛蠟 二挺

右之通拙者預り手形相認勤者中へ差遣手前預り置挑灯台之儀者追廻し割場ニ有之候筈

一御城着後大年寄共先格御目見被仰付候旨御席之節被仰付被下候様ニ御用席^江申上御聞置被成候由并御奏者中^江右大年寄御目見之儀御用席^江申上候段及噂候事

六月六日

一安岡町南側岡屋佐助家屋敷表口三間裏行七間但シ三步三厘役也東隣ハ湊屋源三郎西隣ハ作人弥右衛門ニ而御座候右之家屋敷同町久米屋清八方へ質物書入当六月ヨ来ル十月迄利老割ニ而銀子貳百目借り請申度旨之旨願出承届ル本証文差出ス

一下紺屋町玉性院願出候者来ル七日同十四日迄祇園前江燈明施主御座候ニ付御戸開「」断出候ニ付承置尤寺社奉行中ニ而聞「」濟候由尤夜廻り組之者共先格之通氣ヲ付候様ニ申付ル

六月七日

六月八日

六月九日

一惣町溝見分昨今小頭部屋目附右兩人并大年寄罷出先格之通見分いたし夫々悪敷場所相直し候様ニ申付ル

六月十日

六月十一日

一 同心組笹井榮八儀此間相煩候処養生「不申相果候由小頭断出ル

六月十二日

一 銭相場七拾式文通用相触候由大年寄申「大目附中并勘定

奉行中へ手紙ニ而申遣「

一 東新町鍛冶屋八郎兵衛後家倅仁兵衛儀当閏二月十六日与風罷出相

見へ不申其「申上候処相尋候様ニ被仰付方々相尋候処亦相見へ

不申候ニ付町内人別御差除キ被下候様ニ仁兵衛後家断出承届其

段御用席へ申上大目附中へも申達ス

一 去冬町分追払申付候元魚町西屋平六中買株林田町福吉屋平七江相

譲り申度旨惣中買仲ケ間合相願出承届ル

六月十三日

一 髪結頭伝九郎先達而致病死候ニ付跡役致吟味細工町文助与申者実

躰成ものニ御座候ニ付髪結頭可申付哉之旨大年寄合伺出候ニ付吟

聞「人柄等宜敷実躰成ものニ候ハ、右文助「大年寄へ申

聞ス

一 河原町上ミ之土橋損シ候ニ付御断申上候由河原町大年寄共合書付

差出其段御用席申「書付差出ス

六月十四日

一 下紺屋町玉性院祇園戸明キ今夕切無滞相濟

一 徳守夏祓今夕の相初例年同心組別段ニ差出候へ共当年者組之者病

人有之人少ニ付夜廻り合罷出候様ニ申付ル

六月十五日

一 御痛氣ニ付今日御目見御延引被成「

一 林田町鍵屋源左衛門安左衛門大坂播磨屋伊兵衛江可差遣小間物年

賦銀出入先達而四度目之訴状御渡被成稠敷申付置候処又々兩人共

「断書差出し候ニ付今日御用席へ申上拙者奥書致印形大坂御役

人広瀬義平中井伊右衛門迄拙者添状ヲ以差遣ス

六月十六日

一夜ニ入大目附市村番右衛門合呼来罷越候処林田鉄炮場之内小屋掛

ケ有之右之内ニ年頃五拾歳余之男首く、り罷有并大隅鳥居之辺ニ

ざる籠雜物品々入尤鳥目四尺計も有之帳ニ津山孫七与有之候ニ付

檢使ニ者御從目附下目附差出見改申付候処何之疑敷儀も不相見へ

候右之者西新町正寿院与申者方ニ罷有候処屋称もり候由ニ付橋本

町喜助与申者方へ罷越宿仕候由沙汰有之候間致吟味可申達候旨市

村氏被申聞候ニ付早速大年寄齊藤孫右衛門呼右之段申聞致吟味明

朝迄ニ可申出候旨申渡ス

六月十七日

一 昨晚之孫七儀西新町正寿院方致吟味候処正寿院申候者旅籠屋平嶋

屋太兵衛儀致病死正寿院儀ハ右太兵衛与由緒有之候ニ付其儘正寿

院儀旅籠屋仕罷有候右孫七儀四月末日罷越五月中旬迄罷有折節在

中江罷越商売等仕候儀御座候由申之候橋本町旅籠屋喜助儀申候者

私方江改罷越病氣ニ付五六日も逗留為仕候段不調法奉誤候段申出

候惣而旅籠屋之儀ハ一夜泊りハ格別二夜泊り候へハ奉行所へ相断

候上可差留候定法ニ候処無断差留置候段不届ニ付其段大目附市村

氏江申達西新町平嶋屋橋本町旅籠屋喜助右両人の死骸取埋仕候様
ニ可申付哉之旨申達候処市村氏江御用席相伺被申候処其通り可申
付之旨御差図之旨被申聞候ニ付平嶋屋并喜助右両人の死骸取埋仕
候様ニ可申渡候旨大年寄へ申付ル

六月十八日

六月十九日

一 徳守夏誠今夕無滞相済尤何方江茂御届者不申達

六月廿日

六月廿一日

一 堺町年寄三津屋忠七印形相改候由断出ル

一 下紺屋町成就院借屋ニ罷有候作人喜助家内三人此度村上清太夫長
屋江引越申度旨願出町内人別差除ケ承届ル

六月廿二日

六月廿三日

一 西新町平嶋屋太兵衛預り旅籠屋株此度不埒有之候ニ不株王小性町
牛窓屋茂兵衛方へ取戻し候様ニ申付ル

六月廿四日

一 柴山源蔵長屋ニ居申者之由茂八与申者宿なし長兵衛与申者をしは
り昨廿三日暮方西新町山伏正寿院方江罷越茂八申候者此長兵衛与
申もの私女房を召連爰元ニ泊り候由右女房何方へ差遣シ候哉差出
し候様ニ茂八江正寿院へ段々申候へ共正寿院儀ハ右之女ハ存不申
由申之わけ立不申其内大勢人立有之候ニ付町内年寄ハ茂八をしか
り長兵衛召連罷帰候様ニ申聞候処合点仕長兵衛を召連茂八罷帰候

処又々追「」長兵衛を召連茂八罷越申候者私旦那申候者兎角右長
兵衛儀正寿院ニ預ケ置候様ニ被申候間又々召連罷越候間預ケ申候
由申捨ニ仕茂八罷帰候段町内申出候ニ付今朝柴山源蔵方へ組之
者差遣茂八与申者御長屋ニ居申候哉と相尋候処源蔵返答ニハ手前
長屋ニ差置候者ニ而ハ無御座候只今長屋罷有候者心安御座候ニ付
折節罷越申候へ共長屋ニ者差置不申由申来候ニ付右茂八儀も宿な
しニ御座候然ル処又々今朝も西新町へ茂八罷越候而年寄中ニ逢申
度由申之候ニ付申上候由申出候間弥難捨置然レ共茂八長兵衛ハ宿
なし之儀正寿院儀者町人別与ハ乍申山伏之儀ニ候ニ付其段委細寺
社取次神崎猪助江申達候処猪助ハ大目附中へ被申立候由然ル処御
用席ニ而拙者へ被仰渡候者正寿院儀者取次之方ニ而吟味可有之候
茂八長兵衛儀者宿なし之儀ニ候間町奉行方ニ而可致詮儀之旨被仰
付今日召出詮儀口書左之通

茂八申口

一 私出生里公文之者ニ而御座候三年已前罷出戸嶋村江養子ニ罷
越夫ハ去八月頃御当地江罷出細井兵治様御長屋ニ居申候処先
月末右兵治様御いとま被遣其以後ハ何方を宿与申儀も無御
座候然ル処長兵衛与申者ニ私申分御座候ニ付兼而心かけ居申
候処昨廿三日不図出合申候ニ付林田土手ニ而長兵衛をとらへ
手をくゞり川向江召連罷越致詮儀候処委細之儀ハ正寿院存居
申候由長兵衛申候ニ付正寿院方へ召連罷越相尋候へ共委細之
儀相知不申候それ故互ニ声高ニ罷成大勢人立仕候ニ付年寄
中ハ右長兵衛召連罷帰候様ニ被申候ニ付早速召連入道坂迄罷

帰候処心底ニ落不申候ニ付差懸り当惑仕又々入道坂の土手
方へ相廻り正寿院方に罷帰右長兵衛ヲ預捨ニ仕罷帰申候夫
今朝又々正寿院方へ罷越つれ帰り可申与申候へ共年寄中の
御渡不被成兎や角申内御上沙汰ニ罷成申候

一私昧之長兵衛をとらへ繩をかけ候段御城下与申「上を不憚
致方不届思召候段申訳無御座候

一柴山源蔵様御長屋ニ居不申処源蔵様御長屋ニ居申候与御名を
出し候段不届ニ思召候よし此段申訳無御座候

一私昧にて右長兵衛儀正寿院へ預ケ候段有之間敷儀重々不届思
召候段申訳無御座右三ヶ条共ニ奉誤候「此上何分御慈悲奉
願上候

長兵衛申口

一私儀細工町ニ罷有候処七年已前欠落仕御当地を立さり所々俳
徊仕折節御城下に罷越西新町正寿院方ニ折々一夜ツ、泊申
候一昨廿二日之夕先達而茂八いとま「候女房を召連正寿院
方ニ泊り申候翌廿三日朝私儀者用事有之候間罷出追付罷帰り
可申候間其内女房を預ケ置候段正寿院「挨拶仕候内茂八罷
越用事有之由にて土手筋へ同道いたし罷越私ハ用仕罷有候処
不存寄うしろの取懸り私手をくり川向に召連罷越茂八申候
者右女房何方へ召連參候哉其方存可申与申散々打擲仕候それ
故委細之儀ハ正寿院方ニ而相知レ可申「私申候へハ正寿院
方へ私をつれ「兎や角申合候へ共訳ケ立不申候然ル処大勢
人立も御座候ニ付年寄中のつれ帰候様ニ被申候ニ付夫「

茂八私を柴山源蔵様へ召連罷越門之外うで木にくり付茂八
内へ這入早速罷出又々正寿院方へ私ヲ召連罷越源蔵様の預ケ
候様ニ被仰候由にて正寿院方へ預ケ捨ニ仕茂八者罷帰候

一右之女房茂八手前しかく不相濟内其方召連正寿院方ニ一
所

ニ「不届に思召候段御尤至極ニ奉存候此「茂八さり状御
座候ニ付御覽ニ入「当町五里四方ハ障「有「処右之
女召連御当地ニ罷有候段不「思召候よし此段申訳無御座奉
願上候

右之通詮儀兩人共ニ口書取之兩人共ニ手錠打西新町に預ケ置番人
付候様ニ申付ル且又正寿院儀も寺社取次中ニ而詮儀今日有之筈ニ
候正寿院に番人之「山伏仲ヶ間の付候様ニ被申付候筈也

六月廿五日

一今日今朝の御出有之御用所御出席無之

一先日宿なし孫七与申者数日逗留為致候橋本町紀伊国屋徳三郎并旅
籠屋頭元魚町「屋彦十郎追込今日申付ル且又橋本町年寄并紀伊
国屋組合呵申付ル申渡「帳面有之右兩人追込申付候趣御用番
并大目附当番に手紙ニ而届申達ス

一宮脇町徳守宮地子居作人伝助与申者只今迄日蓮宗西寺町妙法寺地
中顯妙院旦那ニ御座候処此度真言宗ニ改宗仕西寺町福泉寺旦那ニ
寺替仕度旨願出宗旨奉行聞届相濟候由此方に同様ニ願書差出候

六月廿六日

一昨日茂八長兵衛詮儀仕候趣今日御用席に口書ヲ以申上尤大目附
中に申達ス

一於御用席被仰渡候者茂八長兵衛儀今日御領分追払可申付之旨被仰付

一 大目附広瀬半助被申聞候者正寿院儀「追払被仰付候間同心組寺社取次宅へ可差」候寺社取次神崎猪助宅ニ而申渡有之候筈「且又右正寿院跡家屋敷家財闕所之儀者町奉行方取計可申付之旨被申聞則同心小頭正寿院跡へ差遣闕所申付ル追而入札ニ仕候筈且又仏具之分ハ安閑院方ニ追而相渡候筈

一 同心組病人多御座候ニ付御使組加入三人差出し被下候様ニ大目附中申立三人加入罷越

一 右茂八長兵衛追払申付候旨御用番与兵衛殿当番大目附中へ御届申達ス

六月廿七日

六月廿八日

一 西新町山伏正寿院跡家財之内寺社取次中印形木札有之差出候ニ付取揚ケ則寺社取次神崎猪助方へ為持差遣ス

六月廿九日

一 京町米屋市郎右衛門願出候者私儀只今迄天台宗大円寺旦那ニ御座候処此度同宗井口村長法寺江寺替仕度旨願出宗旨奉行江願出聞届相済

一 京町類族并東新町西新町類族別条無「候旨書付差出ス

一 西田部村文右衛門并母右兩人此度戸川町源太郎方へ引請申度旨願

出承届

七月

御用番 大熊六左衛門殿

大目附 当番持

朔日 大年寄藏合孫左衛門

一 御痛所御勝レ不被成候ニ付今日諸士御目見無之

一 於御用席伊達与兵衛殿被仰渡候者今般銀札相改致加印明後三日通用被仰付候間万端無差支致通用候様銀札札元兩人可申渡候旨被仰付則齊藤十五郎藏合孫左衛門招呼其旨申渡ス委細之儀者其筋勘定奉行并銀札場奉行可及差圖候旨申渡ス

一 於御用席伊達与兵衛殿被仰渡候者銀札通用明後三日被仰付候間惣町其旨可相触候旨被仰付左之通

今般銀札相改明後三日通用被仰付候間勝手次第引替無差支可致通用候尤当分ハ金銀錢交遣可致候追而金銀錢交遣御停止可被仰付候

右之通被仰渡惣町中相触ル且又大目附中右之通廻状ニ付惣組相触候様ニ小頭申付ル

七月二日

一 同心組笹井栄八儀先達而致病死番代之儀只今迄伊達与兵衛殿ニ相勤罷有候吉井金内与申者相願出候ニ付願之通申付今日「申付ル尤名字笹井与相改ル

七月三日

一 惣馬持共例年之通拝借大豆之儀願候ニ付其旨勘定奉行江及内談御用席申上候処御聞届ニ付其段大年寄申渡ス

一 先日追込申付候橋本町紀伊屋徳三郎追込差免可申哉之旨御用席
相伺候処勝手次第差免候様被仰付其段大目附中ニ申達大年寄召呼
右徳三郎追込差免候尤旅籠屋株可取上者ニ候へ共其段乞用捨候然
レ共右徳三郎旅籠屋いたし罷在候而者不宜候間相對ヲ以右旅籠屋
外ニ相譲り候様ニ申付ル

七月四日

一 栄八番代金内儀今日ニ出番

七月五日

七月六日

一 齊藤孫右衛門来ル九日罷立湯原ニ入湯仕度尤往来十五六日逗留仕
度願出其段御用席ニ申上御聞届ニ付勝手次第罷越候様ニ申付候大
目附中ニ其段申達ス

一 船頭町惣船持共例年之通当秋船賃米之内拝借仕度旨願候ニ付当年
之儀者御蔵も人別渡被仰付候程之儀船持共願之筋如何ニ存候ニ付
勘定奉行中ニ念入及相談候処先達而御積りニも入レ有之候間願之
通御用席ニ申上候様ニ被申候ニ付今日御用席ニ相伺候処願之通拜
借被仰レ旨被仰渡其段大目附中ニ申達大年寄召呼願之通申付
ル

七月七日

一 御痛所未御勝不被成候ニ付今日御目見無之御帳付候ニ付諸士登城

七月八日

一 京町北山修斎役介みね儀一方村植月与左衛門妻ニ貫申候ニ付差遣
申度旨願出郡代中申合双方承届

一 例年之通盆中御触書到来則惣組之者共相触候様小頭ニ申付ル
一 惣町例年之通盆中触書相認大年寄へ差遣ス
一 近来釘大分大坂ニ差遣当所ニ而不自由レ付左之通申渡ス

一 近來鍛冶町ニ釘大分他所ニ差遣候由ニ而殊外釘不自由其上直段
前々ニ高直ニ相成候向後他所ニ過分ニ差遣候儀致間敷候尤当所
ニ而致売買候直段随分致下直ニ何方ニ調ニ来り候共差支無之様
ニ可致候右之趣相背者於有之者吟味之上急度可申付候其旨東西
鍛冶屋共ニ念入可被申渡候

右之通申渡ス

七月九日

一 大坂瓦屋町播磨屋伊兵衛方ニ当所林田町鍵屋源左衛門鍵屋安左衛
門ニ小間物代年賦銀滞有之伊兵衛ニ先達而四度目之訴状差出其段
而鍵屋ニ申付置候処鍵屋源左衛門儀者取扱相済申候而濟口証文取
之候由断出申候ニ付其段御用席ニ申上追而レ次第一大坂御役人中
ニ可申遣之旨申上尤大目附中へも其旨申達ス鍵屋安左衛門儀未夕
取扱相済不申候ニ付追々取扱可申由申付置

七月十日

一 倉敷御代官藤本甚助殿ニ直状ニ而申来候者拙者御代官所勝南郡岩
見田村幸右衛門与申者御蔵米買請罷有候処渡方相滞候ニ付此節致
難義候レ添状相願出申候可相成儀ニ候ハ、早速相渡候様ニ御取
計可被下候旨申来候間其旨御用席ニ申上先達而鹿田ニ申来候節之
通返書差遣可申哉之旨相伺候処左様可仕之旨被仰付ニ付拙者返事
ニ者委細承知仕候右蔵米請方役筋之者有之候間其段申通追而右役

筋之者御手代中迄可得貴意候旨返事認差遣ス尤右来書者勘定奉
行中「」差遣ス尤大目附中江茂申達ス

一久世松平勝五郎殿預り所野崎新右衛門之書狀到来申来候者其表通
用銀札似せ仕候雲州源六御吟味之節申口之儀江戸御奉行所ニ而御
承知被成度旨此方江戸役人江御内意有之申越候尤表立候儀ニ而者
無之候へ共右御吟味書御写被遣被下候様ニ致度旨申来候間則其段
御用席へ相伺候処左候へ、右吟味書写差遣候様ニ被仰付候ニ付源
六吟味書「」写相心ニ「」認差遣ス

七月十一日

一於御用席伊達与兵衛殿被仰渡候者先達而御差支ニ付御蔵米渡方差
留置候勘定奉行色々勘弁いたし候へ共此節米相渡候儀難相成候間
町方米切手致所持罷有候者来ル十八日迄「」御蔵江切手差出可申
候追而筋立候様ニ可被仰付「」此段惣町江申渡候様ニ被仰付大年
寄召「」右之趣申渡ス

一西新町山伏正寿院先達而御領分追払被仰付跡家財家屋敷關所被仰
付候処此度山伏門中願出候者正寿院親養法院直弟子吉祥坊与申
山伏京町ニ罷有候親養法院法脈之儀右之弟子吉祥坊へ被仰付右家
財神具家屋敷被下置候へ、難有可奉存候旨門中願出候ニ付願之
通被仰付候間右神具家財家屋敷所持之畑吉祥坊へ引渡候様ニ大目
附広瀬半助被申聞則「」大年寄へ「」旨申渡今日最早院立「」
ニ而吉祥坊へ西新町年寄共引渡「」

七月十二日

七月十三日

一例年之通今日者御用所御出席無之

一河原町宮内屋勘八古道具取売株此度元魚町沢野屋伝六江相讓申度
旨願出願之通承届

七月十四日

一今夕町廻り例年之通可仕之旨御用席江御伺申上大目附中江茂申達
無滞町廻り相仕廻御届者不申上

一於江戸表藤堂大学頭様去ル六日御卒去被成候ニ付来ル十六日迄鳴
物高声御停止之旨御触書御徒目付持參則「」認惣町相触候様ニ大
年寄へ申付ル尤惣組之物共へも相触候様ニ小頭江申付ル

七月十五日

一例年之通今日御目見無之尤御痛氣ニ^(マ)被成御座候ニ付旁御目見無
之

一今日者鳴物停止之内ニ候へ共日參御役人并諸番所共ニ戻子肩衣着
用登城

七月十六日

一例年之通今日御用所御出席無之

七月十七日

一御子様方今夕燈籠御見物御出被遊候御道筋京橋口門西江通り丁
御見物御先払差出町分掃除申付ル

七月十八日

一今夕^茂燈籠御見物御道筋田町御門「」町夫銀札場前東へ通
り筋西新町大隅前上之町通り御掃御先払差出掃除「」付

七月十九日

七月廿日

一藏合孫左衛門忰今朝相果候由断出候ニ付忘中引込候旨御用席へ申上大目附中へ申達ス

一伏見町田野村市兵衛裏塀覆損シ申候ニ付御堀江足代おろし申候旨断出御用席へ申上大目附中江申達ス

七月廿一日

一今日五ツ時御供揃ニ而地藏院泰安寺妙法寺へ御帰城後初而御仏詣被遊例之通七間廊下ニ而御通り掛ケ御目見申上ル

一大坂南瓦屋町播磨屋伊兵衛方へ林田町鍵屋「年賦銀取扱ヲ以相払濟口証文取之候」申出其節御用席へ申上今便大坂広瀬「中

伊右衛門方へ其旨申遣尤先達而被相廻候訴状写四通差返ス

七月廿二日

一橋本町虎屋清吉所持之旅籠屋株西今町出雲屋太兵衛方へ去ル已歳去西之歳迄五ヶ年之間預り置申候処又々当戌歳寅之歳迄五ヶ年之間太兵衛方へ預り申度旨追願差出ス承届ル

七月廿三日

七月廿四日

七月廿五日

一齊藤孫右衛門夜前湯湯仕候由届出候ニ付其段御用席江申上大目附中へ申達ス

一新田村長雲寺ニおいて来月七日今愛染「開眼供養いたし候ニ付両大橋建札」神社取次申聞其段御用席相伺并大目附中へ申達シ大年寄へ申付ル

一筑前国塩原村源藏与申者病氣ニ而因州奥早野村亀屋の送り出し当所林田村の東新町江送り来候由断出候ニ付其段御用席へ申上大目附中へも申達シ一方村の方へ送り遣シ候様ニ申付ル

七月廿六日

一今日六ツ半時御供揃ニ而加茂川辺江御出被遊御道筋京橋御門の御出甘山芳庵前が鍛冶場ニ而御船ニ被為召候旨中奥目附の昨日申来候ニ付町分掃除御先払申付ル尤林田中之町之土手が百間土手迄之内御先払いたし候様ニ申付ル

一右御出ニ「御用所御出席無之

七月廿七日

一藏合孫左衛門此間忌中引込罷在候而御用向差支候ニ付其段御用席江相伺候処差免候様ニ被仰付其旨大目附中へ申達明廿八日申出動いたし候様ニ申遣ス

一京町藤田屋喜兵衛家屋敷先達而上紺屋町藤屋久米三郎方へ質入ニ仕候処此度元利相払家請返し候由久米三郎印形之上喜兵衛の断書差出ス

一戸川町若狭屋儀右衛門忰忠次郎儀大坂会所町松屋甚兵衛世話ニ而右同所塩町二丁目西河屋小兵衛方へ当戌年寅歳迄五ヶ年之間奉公ニ差遣シ申度旨願出候届ル

一京町北側藤田屋喜兵衛家屋敷表口六間裏行拾七間但シ老軒役也東隣ハ作人作之丞西隣ハ宮嶋屋新六ニ而御座候右之家屋敷代銀札老貫目相極ニ二階町平野屋治兵衛江売渡申度旨願出承届ル

一西新町作人六郎兵衛願出候者私借屋ニ居申候吉田屋文八与申者親

英田郡倉敷御代官藤本甚助殿支配所勝南郡西吉田村治左衛門与申者右文八父ニ而御座候右吉田村治左衛門儀病身ニ罷成候ニ付介抱之ため文八家内六人当成歳ウチノトシ迄三ヶ年之間吉田村へ罷越介抱仕度旨願出承届

一 大目附当番市村番右衛門ウチノ呼来致登城候処銀札只今迄金銀錢交遣候処来月十五日切十六日ウチノ交遣御停止被仰出候旨ウチノ御書付ヲ被申聞則其段触書相認大年ウチノ相渡惣町相触候様ニ申付ル且又右御触書大目附中ウチノ廻状到来ニ付惣組中相触候様ニ小頭江申付ル

七月廿八日

一 拙者儀今日御用之儀有之候間登城可仕之旨御年寄中連名之奉書昨日到来今日大目附役被仰付跡被仰付候迄郡代井上弥三兵衛江御預ケ

七月廿八日 当番 中山市左衛門

一 鈴木喜右衛門大御目付役被仰付候
一 拙者儀於御列座大目付立会御月番ウチノ被仰渡町奉行当分兼役被仰付候旨

一 大年寄三人小頭石名平太兵衛へ右之旨為知申遣

一 大年寄三人組者不残相出逢及挨拶候

一 町奉行所諸道具目録平太兵衛持參請取之候当分入用物計道具受取残分ハ喜右衛門殿へ預置候

一 二階町鳥屋左助岡山へ罷越候願申出承届ル三十日計之逗留

一 越中外山反魂丹壳宿手形差出入右同人申出承届ル

一 町廻り室井作右衛門石名左五兵衛

七月廿九日 当番 朝 中山市左衛門

夕 川端亦六

一 町廻り藤森権六室井作右衛門

七月晦日 当番 朝 金嶋団七

夕

一 玉置忠兵衛罷出宗門帳宛所之義承合有之先役喜右衛門宛所相濟候旨及差函候

一 類族宗門改居所改帳式冊忠兵衛持參受取置候

一 御奏者番市村数馬ウチノ手紙到来明朔日先格之通大年寄三人御目見被仰付候間辰中刻登城候様可申渡旨申来候ニ付大年寄三人江切紙奉書ニ而申遣ス

八月

朔日 御用番 佐々木内膳殿

大目附 番持

大年寄

月番 玉置忠兵衛

一 大年寄蔵合孫左衛門齊藤孫右衛門玉置忠兵衛今日御目見被仰付辰中刻登城ウチノ三十枚宛持參惣御札相濟跡ニ引続松之御縁縁ニ而御目見申上ル是ハ御帰城後被仰付候前格ニ而今日被仰付候指上物ハ小勤者中へ相頼代納ニ仕候御門出入之義大目付中申達無滞様中奥目付中へ申達ス

一 二階町嶋屋藤吉願播州加古川私弟五郎三郎市右衛門上下式人十二

月中旬迄逗留ねちわく細工手伝為仕候由願出ル五郎三郎不快ニ付
市右衛門計罷越候五郎三郎義ハ追而罷越可申旨右承届ル

一岩佐孝碩湯郷^五入湯候願六日ニ罷立十三日程逗留可致候由承届ル

一浜野屋宗助大坂本町小橋屋四郎兵衛方へ商売之義ニ付罷越申度
旨承届ル

一漆町惣左衛門大坂右同所へ罷越度願承届ル

一惣町宗旨帳出来三拾三冊并別紙一札三十三通惣目録帳巻冊差出ス
宗旨案詞帳返納いたし候

一京町類族きし儀夫花屋惣兵衛諸共同町久米屋新助借屋ニ住居仕罷
在候旨別紙添書一札差出ス 宗旨奉行へ遣ス二日「」

一 夜五半時吹屋町土手通り出火ニ付早速駆付惣町年寄人足罷出消留
申候下火しめり候而尅丁切ニ見届夫々御用番内膳殿へ御申上罷帰
ル

八月二日

一吹屋町出元致吟味候処木屋七兵衛家守十蔵借屋庄兵衛与申火元ニ
而類火同借屋基助三平致類焼候右之趣御用所へ申上庄兵衛儀慎申
付置候家主重蔵呵申渡候様大年寄ニ申渡ス旨申上ル尤大目附所へ
も申達ス

八月三日

一 大坂御役人広瀬義平中井伊右衛門^六七月廿九日付ニ而先頃之返
状到来林田町かき屋源左衛門小間物代銀滯大坂播磨屋伊兵衛出入
相済訴状御番所返上相済申候由申来ル

八月四日

一福渡町重屋次右衛門^六舟頭町舟本屋坂之丞へ持油道具売払候代銀
四百匁之内式百五拾匁六分私ニ相渡シ残而百四拾九匁四分引込相

払不申候相払候様被仰付可被下旨願書差出ス右大年寄持参候

一 下紺屋町玉性院不動院と改号致候旨寺社方へ相願候故願出承届ル
八月五日

一 吹家町火事逢火本作人庄兵衛慎之義先格「」四日夜ニ而御免被成
候旨御用所へ御伺申上候処指免候様ニ被仰付大年寄玉置忠兵衛へ
申遣ス

八月六日

一 福渡町重屋次右衛門持油道具代滞之義舟頭町舟本屋坂之丞^五致方
不届ニ候来廿日迄ニ次右衛門方相払可申旨大年寄ニ而可申渡之旨
玉置忠兵衛へ申渡ス

一 町医師岩佐孝碩湯郷へ入湯願書出ル

八月七日

一 御用向無之候

八月八日

一 小性町西川屋重三郎宿切手指出候備前岡山山西大寺町熊崎屋源兵衛
手代久六元結売ニ罷越候宿仕候由

一 拙者儀就不快病氣御断申達不致出勤候

八月九日

一 元魚町江崎屋市右衛門断出候先達御断申上置候明見村茂右衛門病
氣ニ付罷越居申候夜前相果申候且那寺妙法寺へ葬申度旨申出ル
一 登城不致候

八月十日

八月十一日

一 大年寄玉置忠兵衛罷出申聞候配当座当共申出候公儀御造納之御祝儀先格通頂戴仕度旨座頭共申出候享保十六亥年当公方様御祝儀頂戴仕候由来ル十八九日ニ爰許^レ座頭相集候旨申出候近日御用所可申上候事

一 式丁目福永屋藤左衛門家守戸川町市兵衛断出候御先組嶋田新八殿私借屋貸申度旨申出ル承届ル

一 下紺屋町紺屋勝助願出候私方小四郎義四年已前未年千ヶ寺へ参罷不申候日延之御断申上置候兄小右衛門義当春病死仕候私相続仕罷在候小四郎義当暮迄之内ニ罷帰リ不申候ハ、御断可申上ニ而其節人別御除被遊可被下旨申出ル
(この簡案の上に横書あり)
七月十四日小四郎罷帰候由申出

一 西今町福場屋利兵衛願西今町北側表口五間裏行町並拾五間有来之土蔵共ニ町内永田屋伝七取次ニ而質物書入当八月今来亥九月切銭壹貫三百目借用申度旨承届ル

一 西今町福場屋利兵衛願出候美濃職人町北側ニ而私家屋敷表六間裏行十七間代銀六百匁相極ニ丁目福永屋加右衛門^レ売渡シ申度旨承届ル

一 安岡町茅町西今町宮脇町坪井町^レ五町願出候銀札通用ニ被仰付諸色代少々宛之銭請取申儀町内無人^レ多難儀仕候西今町ニ而暫之内御小売場被仰付被下候様奉願候旨勘定奉行中^レ及相談伺之上被申付候筈御用所ニハ不申上候

一 在中御年貢米切手替外払御停止之旨例年之通御書付御渡被成候玉置忠兵衛惣町中無残相触候様申渡ス

一 林田町鍵屋安左衛門^レ大坂播磨屋伊兵衛^レ年賦銀滞并小間物売懸ヶ滞銀五百五拾五匁式分壹厘五度目之訴状差上候之由大坂御番所^レ相渡候之由御用所^レ御渡被成候大年寄^レ申渡近日埒明候様申付ル今度病氣断相立不申候間御定日ニ限相済不申候得共名代ニ而も差登可申段申渡ス

八月十二日

一 西今町福場屋利兵衛質入本証文差出ス

八月十三日

一 拙者気分快今日^レ出勤
一 座頭共相願候公儀御造納之御祝儀被下物之義御用所へ申上候処先格も有之外々ニ而も頂戴之義候ハ、可被下旨被仰渡候大年寄へ其段申渡ス勘定奉行清水氏右銀子之義相頼候

一 玉置忠兵衛娘病氣ニ付播州加古川医師松野一学与申者被越^レ西三日逗留之義願出ル御用所ニも御沙汰申置候 十五日ニ罷帰候由申出ル

八月十四日

八月十五日

一 小性町西川屋重三郎方へ勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄左衛門と申者形壳ニ罷越例年通宿候旨宿切手出ス

一 美濃職人町北側ニ而西今町福場屋利兵衛家屋敷式丁目福永屋加左衛門^レ売渡候本証文今日指出ス

一 下紺屋町年寄大工伊右衛門昨十四日致病死候之旨断書指出ス
一 吹屋町土手通り木屋長兵衛家先日焼失致候所只今迄表ハ五六間も
引込建候得共今度表並ニ家作いたし度旨大年寄齊藤孫右衛門罷出
申聞候町絵図等相改候所不苦敷趣故勝手次第ニ及差図候

八月十六日

一 米相場書付中買共ハ差出ス

一 御蔵米三拾九匁五分町米三拾六匁五分

一 銀札小売場先達而西町五町ハ相願出ニ付勘定奉行中へ談置候所昨
日銀札場五も書付出候様札元ハ申越五町ハ書付指出候処今日西今
町坪屋勘助五小売場銀札場ハ被申付候旨ニ而勘助案内罷出ル

八月十七日

一 三ヶ家番人中村善兵衛ハ注進申出候

御城山之内風折木長三間計式尺廻り枝折罷在候旨申出候ニ付大目
付所へ申達御作事ハ取除候様ニと被仰付下候旨申達候

八月十八日

一 座頭共相集申候ニ付御祝儀頂戴仕度由申出候旨配當場ハ申出候大
年寄ハ申出候明日相渡候様申渡ス小頭部屋目付明日罷出候見届候
様ニと申付候

八月十九日

一 京町類族とよ夫木村勘助病気候処養生不相叶相果候由玉置忠兵衛
相届承置候

一 座頭警女五被下候銀札高今日相渡配当いたし候旨見届小頭部屋目
付書付持参

一 五百五拾五匁

君分座当百拾七人

一 三拾式匁五分

但老人ニ付五匁宛

一 七拾三匁七分五厘

打懸座頭拾三人

一 七拾三匁七分五厘

但老人ニ付式匁五分ツ、

一 七拾三匁七分五厘

初身座頭五拾九人

一 三拾六匁

但老人ニ付壹匁式分五厘ツ、

一 三拾六匁

寿名警女式拾四人

一 五匁

但老人ニ付壹匁五分ツ、

一 五匁

小警女四人

但老人ニ付壹匁二分五厘

ノ七百式匁式分五厘

一 式拾目

配當場兩人役料

一 拾匁

筆墨紙書役代金

都合七百三拾式匁式分五厘

右者大納言様御造納祝儀被下置候配当右御用所へ申上候大目付所
申達候

八月廿一日

一 小性町田戸屋宗十郎断出候紀州在田郡箕崎浦腕屋五兵衛手代勘右
衛門権吉兩人腕折敷壳罷越候宿仕候由書付出ス

一 右同人断出ル紀州海士郡日方浦比谷町善四郎手代彦三郎新吉兩人
腕折敷壳罷越宿仕候旨書付出ス

一 三町目佐和屋重右衛門借屋新職人町願主坂本屋源兵衛願出候福渡
り町古道具屋長兵衛取売仕候不勝手ニ付相止申候右跡私取売仕度

旨請人下紺屋町成屋伝十郎右承届ル

一中ノ町鳥羽屋吉兵衛断出候林田上ノ町上野屋右衛門屋敷居申候字
塚加兵衛後家私借屋へ差置申度旨承届ル

一中ノ町三宝屋宇左衛門断出候去ル西九月御断申上候私手前召仕申
候播州揖東郡井原村九兵衛義当八月罷帰シ申候筈届之処来亥ノ八
月迄召仕申度承届ル

一戸川町伊勢屋長兵衛断出候小嶋此母長屋居申候甚助年六十悻喜兵
衛式十五右両人私引請町住宅仕申度旨願出承届ル

一西新町作人六郎兵衛私家屋敷南側表口式間小半裏行拾五間但シ式
歩半役東隣ハ神屋嘉平次西隣ハ豊屋甚右衛門ニ而御座候代銀札百
式拾目相極同町神屋長十郎へ売渡申度旨承届ル本証文出ス

八月廿二日

一京町鍵屋与平次断出候奈良今井町岡崎忠兵衛手代源助与申者老人
例年通墨壳ニ罷越私宿仕ニ付宿切手差出申候

八月廿三日

一去ル十九日座頭警女江被下候銀札七百三拾式弍分五厘取証文
差出候ニ付致奥書印形大年寄齊藤孫右衛門為持參候

一藏合孫左衛門継祖母此間病氣候候今日相果申候ニ付届申出ル尤忌
懸リニ而無之ニ付一兩日病氣分引籠候由忌懸り無之故御用所へハ
不申上候

八月廿四日

一下紺屋町土橋破損仕候旨町内ハ断書付指出示明日御用所可申上候
事

一鹿田石黒小右衛門殿ハ佐久間主計殿江飛脚文箱參宿塩屋新兵衛ハ
先格之通相届宿賄等ハ申付候由

一宗旨改今年別而念入申候ニ付人別銘々寺証文取指指候様先達而申
付有之候右証文大年寄三人ニ而相改疑敷義無之候旨一札差出申候
様申渡ス

一古道具名前帳印形無之分印形取之被差出候様ニと緒右衛門申談ル
一宗旨帳面付紙之通直し出候ニ付致奥書致印形隅田様江為持遣候

八月廿五日

一於直様於秀様八出辺江御出被遊候旨宇津木弥右衛門被申聞候例之
通林田上ノ町ハのそき渡場へ御懸り被遊候由町分之内御先払差出
候暮前ニ御帰り被遊候

八月廿六日

一九時御供揃末田堤二宮辺江御鷹野河向江被遊御帰候由依之御先払
かち場へ罷出候様申付舟渡江高灯燈持出候是ハ夜入横渡灯燈出候
先格も無之候得共夜入横渡御渡被遊候古格も無之ニ付灯燈出候様
申付ル尤御古舟ニ而被遊御帰候格之通ニ申付ル御「」江俄ニ
相成り御先払罷出五ツ時前御帰被遊候大番所脇迄相動ル

一野伏非人大分致徘徊候ニ付追払候様大目付村山半八被申聞大年寄
へ申渡「」非人共追払候様申付候様申聞候

一米相場中買共ハ書付差出候

御蔵米三拾八匁五分町米三拾五匁五分

一勝間田町かと屋太郎右衛門宿切手差出ス播州加東郡三木町紺屋形
売理兵衛悻与兵衛与申者老人例年之通宿致候由

- 一 牢屋扶持内貸り米三俵小頭平太兵衛受取証文ニ奥判いたし遣ス
- 一 上り屋目今賄銀三拾目内貸り小頭平太兵衛請取証文ニ奥書印形致遣ス

八月廿八日

- 一 坪井町金小売場之願書高砂屋安右衛門被仰付被下候様ニと申出ル尤銀場へも願出候
- 一 新魚町金小売場願書出ス尤銀札場へも願書出候由九月朔日清水覚右衛門へ申談置候

八月廿九日

- 一 玉置忠兵衛罷出候町方木綿買共銀借不自由ニ而難儀之趣申聞候九月朔日清水覚右衛門へ申談置候追而銀札場前々之通齊藤十五郎請込ニ而被申付候由申出ル

九月

朔日

御用番 伊達与兵衛殿
大目附 当番持

町大年寄月番

玉置忠兵衛

九月二日

- 一 下紺屋町年寄仁右衛門相果候ニ付跡役年寄倅佐助申付度旨大年寄相伺候ニ付申付候様申渡今日申渡候旨申出ル

- 一 御蔵元熊野屋善兵衛病氣付申候ニ付跡役倅理左衛門江願出候ニ付

勘定奉行及相談今日御用所へ御伺申上候処吟味之上勝手次第ニ被仰付候右理左衛門御蔵元申付候旨玉置忠兵衛へ申渡候様申遣ス右理左衛門林田中ノ町西屋清右衛門倅今度善兵衛養子ニ貫候上願

「」

先役

一 似せ札致候締賢源六等之儀御尋有之鈴木喜右衛門へ承合委細於対談間御用番与兵衛殿江申上ル

一 宗旨別証文残分致奥書印形「隅田様江為持遣候

九月三日

一 熊野屋善兵衛病氣養生不相叶昨「相果申候旨同役姫路屋甚五郎申出」大年寄申出ル

九月四日

一 於直様八ツ時杉山江被遊御出候御道筋京橋御門かち橋渡江御通り被遊候旨宇津木源右衛門申聞候大年寄へ組者「申遣候御先払差出ス

一 かち場渡御用高灯燈差出候事大目付鈴木喜右衛門江相尋申候所殿様御通り被遊候「ニ指出可然旨被申聞候横渡殿様夜「御通り被遊「格も相見不申得者必竟闇御座候而ハ相濟「役所ニ受取置候御紋付高灯燈出可申候左候ハ、川向在分方ニハてまちな無之いてニ「候旨申達候所式ツ之内巻つハ川向江ともし巻つハ御上り場へともさせ候而可然旨被申聞候ニ付左之通ニ大年寄蔵元へ申付燃させ候様申渡ス

九月五日

一夜八ツ半時材木町河内屋伊右衛門居宅裏木部屋申出火早速火本罷

出候処類火無之静り申候ニ付町々人数引取故見届候上罷帰ル掃懸御用番伊達与兵衛殿江御届申上ル

九月六日

一出火吟味書玉置忠兵衛致持参候今日御用所江申上候尤河内屋「」大法之通「」可罷有旨申渡候

九月七日

一鍛冶場土橋懸候旨御役人中郡代所案内有之候舟渡相止候様町分江申達ス御用所大目付中へ申上ル

一惣町宗門改寺々証文人別銘々相改寺差出候様先役被申付候ニ付不残取集大年寄手前ニ有之指出可申哉之旨伺出候間各方ニ預り置大年寄三人之一札差出候様申達候処今日玉置忠兵衛一札持参

当戊歲惣町宗門帳ニ相添差出候寺手形念入一々相改させ私共手前ニ預り置申候処仍而如件年号月日大年寄三人奉行所宛

一伏見町大工武助願出候私家屋ノ北側ニ而表口式間半裏行拾三間但御堀切半役也西隣作人甚之丞東隣売主武助家ニ而御座候代銀札式百目相究町内作人長藏へ売渡申度奉存候旨願之通承届ル本証文差出ス

一米相場書差出候御蔵米三拾九匁五分町米三拾六匁五分

九月八日

一御用所江御伺申上候近来町方酒売切レ不自由ニ付値段ノ以之外酒悪敷致候而売候由ニ相聞不埒之義御座候故直段相心之酒売出候様可申付奉存旨申上候処尤之義ニ間其段申渡候様被仰候大目付所右之趣申達候大年寄玉置忠兵衛呼出申渡候左之通

近来町方酒不自由無敷相成候由ニ而直段ノ殊之外ニ酒悪敷水大分入売申候由不届之事情急度可申付候得共仮役之義ゆへ其分ニ致候此度直段相心ニいたし売可申候酒改候者ともへ急度申渡遂吟味酒聞各とも立会急度相考酒相心ニ直段ニ代物相極爲売可被申候地酒下直候得共下り酒も下直ニ売候様可罷成候清酒屋も右之段申聞ノ鹿妹ニ可被申付候

一材木町致出火候河内屋伊右衛門慎之儀今日ノ差免候向御随分之念入可申候旨申渡ス右御用所へ御窺申上候相済大年寄申渡ス大目付中へ右之段申達候

一西今町直屋惣七郎断出候今日私見世前ニ而野井乃御預所久米北条郡南方中村勘兵衛与申者牛病死仕候旨断書出ス牛主ノ勝手次第ニ取片付候様申渡ス尤掃除場定り之穢多へ取除可申付候旨直屋ニも病死ニ相違無之段一札取之可申旨申渡

一平太兵衛ノ申聞候三軒屋番所明家江御作事方道懸江半兵衛致借家罷在候処勝手不宜候ニ付林田江引越申度旨申出候旨勝手次第旨申渡ス右者明日大目付所ニも及沙汰置可申事

九月九日

一諸士登城重陽之御札被為請候例之通七間廊下ニ而御通り懸ケ御目見申上ル

一大隅宮祭礼ニ付町方江為警固同心組差出候先格之通権兵衛作右衛門段七左五兵衛四人差出候祭礼無滞相済何方江も御届者不申先格也

九月十日

一 油屋与一郎今段出候備前岡山西屋松右衛門上下式人今日私方へ参
逗留仕候由

九月十一日

一 玉置忠兵衛罷出此間盗人中須賀刃参候由致沙汰候ニ付非人共四人
随分相廻り候様可申付之旨申出候右之様子御用所へも及御沙汰
一 乃井野今村又右衛門岡村十左衛門の書状来ル例年之通御預所大戸
村塚角村栗子村の願出候ニ付此方様御登せ米川下之砌例年之通川
下候内御積せ被下候様申出候趣申来ル勘定奉行及相談先格之通致
返事候

一 坪井町高砂屋安右衛門案内申出候錢小売座銀札場を被申付候由申
出ル

一 三す屋理左衛門大坂登釘願之内意玉置忠兵衛の申出候ニ付かち町
者吟味候様及挨拶候

九月十二日

一 牢屋番の牢内御修履之場所断書差出ス御用所申上候御作事見分御
座候様申上候

覚

一 惣牢北之方堀履矢切痛申候

一 右同所穢多番所の百姓牢之間堀履矢切痛申候

一 揚り屋廻り堀履痛其外所々痛申候

一 去年御断相済申候御吟味場次之畳四畳表替被仰付可被下候

一 所々もりさし被仰付可被下候

以上

九月十三日

一 明日大般若御修行有之候得共私兼役故右之場所へハ相詰不申旨大
目付中へ申達候処御同役中御相談有之後刻相詰ニ不及旨村山半八
被申聞候

一 美濃職人町三好屋三郎兵衛借屋右手屋くら願出候倉敷御代官所英
田郡倉敷數谷屋伊兵衛悻清七廿六歳罷成候私養子ニ願之通承届ル本
証文指出ス

九月十四日

一 大般若御修行有之本役ニ無之故出席不致候

一 坪井町桔梗屋忠左衛門断出候高野山万生院使僧快方と申僧上下三
人例年之通且那廻り罷越私宿仕候由宿切手差出ス

九月十五日

一 東新町加治屋甚六願出候私借屋へ林田村次兵衛借屋ニ居申候伊兵
衛家内式人差置申度旨願之通申付ル尤地方へも願出候由承合候

一 先達而内意申出候木綿買申候者共銀札場を出し油屋取次之銀札借
用致度候旨銀札場へ願出候ニ付当役所へも申出候ゆへ勘定奉行清
水覚右衛門へ内意申遣置候処昨日の借付御座候由難有候旨大年寄
申出ル

九月十六日

一 徳守宮祭礼之節警固場ニ相用候御幕老張請取書相認改印形小頭平
太兵衛へ相渡ス

九月十七日

一 戸川町坂口屋半右衛門林田中之町佐野屋吉兵衛同町福田屋吉兵衛

万人構願差出ス

一御用達町人共拾壹人万人構願書指出ス右兩様御用番与兵衛殿^江御内意相伺候追而御差図可有之旨

一 二階町ニ罷在候性順去申歲町追払被仰付候当時勝間田^江罷越居申候病氣大切ニ相煩居申候ニ付前々五人組者共^ハ帰住宅之義願出候是又与兵衛殿へ御内意申上置候

一 德守宮祭礼警固者例年之通同心組差出申候段大目付当番^江申達ル

九月十八日

一 德守警固小頭平太兵衛権兵衛作右衛門市左衛門権六罷出ル

一 宇津木弥右衛門^ハ手紙明十九日御子様方德守祭礼被成御覽候間四ツ時過内山下^江相廻候様ニと申来候小頭平太兵衛大年寄月番へ為知遣ス

一 元魚町海老屋長右衛門断出候京都四条通烏丸東入町二文屋清兵衛手代彦兵衛同治兵衛右式人呉服物并扇子壳ニ參候ニ付例年之通宿仕候由申出ル

九月十九日

一 德守警固平太兵衛又六権六市左衛門金内罷出ル

一 雨天ニ付内山下へ祭礼入申候義御役人関十次^江承合申候処雲晴候ハ、何分登御覽被遊度様ニ思召候処九ツ時祭礼出申候由警固組者共^ハ案内致申候ニ付其段関十次へ申達候御供揃次第下御殿跡^江子供様方被遊御出候旨祭礼出候中少々見合御供揃候由案内有之次第ニ祭礼出候筈ニ十次へ申合候押付御供も揃申候故八ツ時祭礼出ル尤内山下通り暮時相濟候

九月廿日

一 藏合孫左衛門^ハ中女彦人備前岡山舟ニ而遭申候ニ付小桁木知原番所通り切手差出候故裡書致印形遣ス且又町奉行兼役ニ付木知ヶ原江見拾右衛門添状遣ス

一 明廿一日鹿田御代官石黒小右衛門殿中須賀^ハ舟ニ而罷下候ニ付大年寄^江為知申遣ス

一 德守警固番所幕指戻シ請取書戻ル

九月廿一日

一 林田町かき屋安左衛門^江大坂南瓦屋町八幡屋惣助借屋播磨屋伊兵衛^ハ小間物代壳懸年賦銀滞候ニ付五度之訴訟八月四日日付ニ而大坂御番所へ差上猶爰許御用席八月十一日ニ被成御渡候ニ付安左衛門へ申渡銀子相濟候歟無左候ハ、九月中ニ名代者差登候様申渡置候今日願申出候大坂豊後町源郷屋太兵衛相頼段々嚶大形濟寄候得共銀子今少才覚相調不申難儀仕無抛病氣為名代花屋半兵衛相頼差登候用意致候所半兵衛俄相煩申候故今暫日延之儀出申候ニ付先格も有之哉ニ遂吟味候処延享四卯年林田町沈香屋権右衛門大坂桜井屋庄三郎^ハ訴訟付病氣断乃数度名代者申来名代者又々病氣御座候而病氣断書申出候故致奥書大坂御役人へ指越候先格有之候依之右かき屋安右衛門名代病氣断之義御用番与兵衛殿^江御伺申上候得ハ先格之通取計遣候様ニ被仰渡右願書致奥書印形大坂御役人広瀬義平中井伊右衛門差遣ス

一 鹿田御代官石黒小右衛門殿川筋舟ニ而被下候ニ付先格之通先払組者式人申付差出ス

九月廿二日

一 鍵屋安右衛門名代病氣断願書明日立御飛脚便ニ大坂御役人中ニ添状差遣ス

九月廿三日

一 鹿田御代官石黒小右衛門殿当町通行ニ付先格之通先払組者兩人町分へ差出ス

一 京町菊屋清左衛門方へ被立寄屋支度等有之由ニ付先格之通大年寄玉置中兵衛罷越宿清左衛門迄御用事候ハ、可被仰付旨申渡候由

九月廿四日

一 船頭町今岡屋善七断出候阿州坂野郡成瀬村曾右衛門同手代紋右衛門以上式人小藍玉壳ニ罷越例之通宿仕候旨断書出ル

九月廿五日

一 今日六半時御対面所へ被遊御出候ニ付御用所出勤無之候

一 大神楽打彦太夫と申者朝元屋へ致一宿候処今日御対面所召罷越候由大年寄申出ル尤関十次取計候由

一米相場書差出御蔵米四拾壹匁町米三拾八匁

一 銭相場今日拾壹匁ニ七拾三文通用ニ罷成候由大年寄申案内有之候

九月廿六日

一 諸月番被召而被仰渡七間廊下ニ而大目付市村番右衛門被申渡候御書付左之通

一 御勝手向御不如意之儀兼而存候通ニ候処打続米下直ニ付御借物追々相増今年ニ至至極之御指支ニ而此上才覚可相調筋無之至而御難渋之時節ニ相成候依之万端御直方相改何卒御取続相成候様ニ可

取計之旨格別重キ思召を以被仰出候得共是迄勘定奉行種々手繰ニ而取計候上々儀最早手段無之不被及是非兼而困窮之御家中ニ候得共御国勤之もの物成給米四五ヶ年之内只今迄之上五步通御借米被仰付候役料「」等当分被召上候一統難儀之段甚御苦勞ニ被為思召種々懸評議候得共可致様無之無抛時節ニ候間随分尽艱難何様ニ取続御奉公可相動候

右早而物成米月渡ニ被仰付候間左様相心得御蔵米借米手「」付等之借物迄右年数之間「」指引不致様被仰付候旨被申聞候

一 牢舎人四人者ひとへ物ニ而罷在候綿入候着物調遣候様ニ致度之旨御用所へ申上候窺之通相濟大目付中へ其段半助へ申達ス

右相濟候ニ付調遣候様小頭平太兵衛へ申渡ス

一 二階町堺屋伊右衛門断出候備前岡山野田屋町岡本屋新兵衛元結壳ニ參候宿致候旨断書出ス

一 右同人断出候備前岡山中之町五明屋八郎兵衛手代次兵衛元結壳參候断出ス「」

九月廿八日

一 大年寄玉置忠兵衛罷出候内意申聞候在中借米元居ニ御代官今断致候様被仰付候之通承知仕候借取者共迷惑仕候何「」元分相渡被具候様被仰付被下候ハ、借シ込ミ之儀之無滞差出可申候手形ニ而も指出置候様可仕候依之右之趣御代官所ニ相願候ニ付願書写ヲ以内意申候

一 大目付鈴木喜右衛門被申渡候岩佐孝碩御扶持方三人扶持之内一人扶持今度御勝手向就御難渋「」り「」此「」可申渡旨被申聞候玉

置忠兵衛呼出右之段申渡ス

一 大久保出羽守殿役人柳井鳥内小頭伴左衛門の三步一銀納ニ相用候
当十月中平均之相場申遣吳候様ニと申来ル

一 京町ミと屋理右衛門下紺屋町高瀬屋勤兵衛の願出候大坂登釘私共

「一」一下一「一」鉄山五手寄御座候故下直成一「一」鉄ニ而も先銀ニ
而も鍛冶屋へ相渡登釘一「一」私共請込申度候左候ハ、釘直段下直ニ

罷成候旨委細之願書指出候故鍛冶屋共方致吟味故障ニも無之哉と
相尋申候様大年寄へ申付候処へ東西鍛冶屋共の歎書差出候殊之外

難儀之段申出ル依之大目付市村番右衛門殿へ今一「一」及内談候御作
「一」釘下直相成候趣ニ御座候故申付度一「一」惣かち屋共一統甚迷

惑かり申候様子故難申付存候旨申談候

九月廿九日

一 別事無之候

十月朔日

御用番 大熊六左衛門殿

大目付 当番

町大年寄月番

齊藤孫右衛門

一月並之御礼無之候廻状為知有之候

十月二日

一 五時の御対面所被為入御鷹野有之候御用所御出席無之

十月三日

一 小性町銅葉屋五兵衛願出候私所持家屋敷表口三間裏行拾間但シ六

步役也西隣灰屋惣三郎東者往来横町御座候尤裏座敷共ニ舟頭町藤
屋瀬助取次銀札式百五拾目当戌九月の同十月切ニ五步式朱利足質

物ニ入借用仕候旨申出ル承届ル本証文差出ス

一 玉置忠兵衛願出候悴太郎市儀兵庫塩屋六左衛門方へ往来十日計之
逗留差遣申度旨承届ル

一 材木町米屋市太郎願私母御中間六平与申仁五差遣申度候町内人別
御除可被下候承届ル

十月四日

一 明五日四時於直様林田高福寺辺五被遊御出候北口門の上之町通大
隅前の町分へ御通被成候宇津木弥右衛門の被申聞候ニ付大年寄へ
申遣ス御先弘小頭平太兵衛へ申付ル

一米相場御蔵米四拾式匁町米三拾九匁中買共の申出ル

一 万人構願御用達姫路屋かしの屋荒物屋の願書出ス於対談間六左衛
門殿五御内意申上ル

一 於対談間内膳殿五申上ル先達申上置候大笹西村逐電仕候庄屋勤四
郎尋候儀追々取計趣申上候奥津村へ町分ニ而其筋切者成頼差遣わ
せ申候旨申上置候

一 惣社村正観寺来十八日ニ入仙供養仕候依之東西之橋五建札致度旨
申出候由御用番五御窺申上候而相濟大年寄へ申渡ス

十月五日

一 今日於直様御出御延所々へ申遣ス

一 二階町鳥屋佐助願出候八幡尽蔵坊使者舜完与申僧上下式人例之通

宿仕候断出ル承届ル

十月六日

一 今夕亥猪ニ付昼之御出席無之候

一 先達申遣候林田町かき屋安左衛門江大坂播磨屋伊兵衛江五度之訴訟到来病氣罷在候ニ付名代登申来候然処名代者罷登候用意致候所俄病氣候由申出候名代病氣断書差出去月廿二日大坂表へ指遣候所去月廿七日ニ御番所江中井伊右衛門被致持參被差出候得ハ名代者病氣断之先格無之ニ付断書御戻し被成候噫之相濟取急ニ名代者所者差添登候様広瀬義平中井伊右衛門江申来ル依之大年寄呼出シ右之段申渡候。豊後町源郷屋太兵衛相頼。五百五拾五及式分寄屋内。内々噫相濟銀子二二百五拾五遺候而濟候筈ニ相極め申候故先ニ銀差登扱相濟可申旨申渡又明日飛脚罷立候旨申出候広瀬義平中井伊右衛門江右返状旁右之趣申遣又大目附所江申達ス御用所へ明日可申上事

一 亥猪之御祝儀被下置諸士登城尤六半時ハ御祝儀始ル無滞相濟御用所へハ不罷出候

一 京町ミと屋理右衛門下紺屋町高瀬屋勘兵衛江先達而願出候大坂登釘鼠釘之儀右兩人ニ請込被仰付被下候ハ、鉄元へ入候儀致下直ニ鉄相調相渡候得ハ釘直段下直罷成候御作事其外世上為ニも宜事之由願出候ゆへ鍛冶町故障無之哉致吟味候様大年寄玉置忠兵衛へ申付候所かち町ハ歎書指出申候右之通被仰付候而ハ甚難儀仕候由申出候故右兩人願書差戻願之儀今度ハ難承届候旨齊藤孫右衛門へ申渡スかち町へハ否之義不申渡候書付此方ニ留置候此已後不筋ニ釘直段上ケ申候歎又ハ登釘過分致候様成候事ニ候ハ、其節ニ至及評

儀可申左不申渡ハ不致候右願之義大目付市村番右衛門へハ御作事方請込ニ付御作事釘直段之儀ニ付申談願書并から町江出候書付も被見申候御用所へハ右之通之指支有之故一向御沙汰不申上候

一米相場御藏米四拾三匁町米四拾目

十月七日

一 勝間田町かち屋太郎右衛門摂州堺墨筆売喜兵衛手代武兵衛与申者例年之通罷越宿仕候由断書出ス

十月八日

一 大笹西村先庄屋勘四郎与申者先達不屈有之村方致遂電郡代所江所々尋被申付今日尋出入牢被仰付候旨御精進日ニ付夕方入牢尤弥三兵衛兼役故証文一所ニ相濟シ候

一米相場四拾三匁五分町米四拾匁五分中買江申出ル

一 伏見町小油屋緒三郎後家屋敷表口三間裏行式拾四間大溝切組半役

也東隣者さやし与左衛門西隣ハ小坂屋善兵衛右家代銀札四百五拾目相極美濃職人町花野屋七郎兵衛売渡申度旨承届ル

十月九日

一 於直様林田江御出御延引御先払引取候様ニと申遣ス

一 宮川御払地入札之儀書付之通町方へ相触候様大年寄へ申遣ス

一 桑原村彦右衛門御年貢不納ニ付入牢於郡代所申付入牢証文兼役ニ付一所相認候而差遣ス

十月十日

一 倉敷御代官藤本甚助殿手代高橋権蔵江書状到来御料所三歩一銀納直段相用候津山町十月十五日江同晦日迄之上中下米日々相場書持

參致奥印例年之通差越候様申来ル向後鹿田倉敷隔年ニ可申遣之旨申来ル

一 明十一日林田村高福寺へ於直様御出被遊候旨弥右衛門被申聞御先
私申付ル町方へ遣ス

一 西新町美濃屋次助願出候私所持之家屋敷西新町南側表口七間裏行
拾十三間但し土手切老軒半役也去西十二月高松屋平兵衛取次ニ而
当成ノ十一月切ニ質物ニ書入老貫八百目仕申候処元利相濟請返シ
申候ニ付御断申上候

本証文差戻ス

一 京町若松屋善左衛門願母儀大坂今橋老町目山本三四郎手前ニ相勤
罷在候私弟次兵衛方へ罷越來亥十月迄逗留為仕度奉願旨承届ル

十月十一日
一 今日五時御対面所へ被為人候ニ付御用所御出席無之候

十月十二日
一 就御出御用所御出席無之候

十月十三日
一 江州神崎郡新堂嶋屋新平例之通きせる墨壳ニ參宿仕候由小性町西
川屋重三郎断書出ス

一 西新町美濃屋次助所持之家屋敷同町南側表口七間裏行拾三間但シ
土手切老軒半役也東隣者高松屋平兵衛西隣者大黒屋藤七ニ而御座

候此家屋敷土蔵老所代銀札式貫目ニ相極同町高松屋平兵衛江壳渡
し申度願之通承届ル十月十七日本証文出ス

一 京町阿波屋弥兵衛断出候私裏御堀端塀覆破損仕候ニ付此度崩取而

木納屋老所立申度断出候御用所申上勝手次第ニ申付ル

十月十四日

一 鹿田御代官石黒小右衛門殿御城下被通候ニ付御先私差出ス京町菊
屋清右衛門方へ御立寄候而大年寄呼參候ニ付早速罷越御逢候而

佐久間主計殿へ書状届候様被相頼候是殿様御機嫌好被成御座候段
御聞合候由

一 淡州西地浦利平次与申者例年之通米買ニ昨日參候ニ付宿仕度旨今
津屋伊右衛門断出ル

一 淡州津井村定兵衛例年之通米買參候宿仕候旨今津屋伊右衛門断出
ル

一 米相場 御藏米四拾三匁 中買今断出ル
町米四拾目

一 茅町岩佐屋六郎兵衛明家へ鷹這イ申候杉田助之丞へ相渡候旨尤野
鷹由申出ル大目付中へ及沙汰候

十月十五日
一月並之御礼有之諸士登城

一 齊藤孫右衛門罷出申聞候只今伊勢久居藤堂佐渡守様御徒使本田
源次御進物也牢科老人持夫中間式人罷越候由則塩屋新兵衛へ例之
通宿申付ル御奏者番市村数馬殿へ御使有之由申達ル大目付中へ右

之段申達ス

一 倉敷御代官藤本甚助殿手代高橋収蔵公書状到来吉田村百姓銀納米
当町阿賀屋半次江壳渡候所代銀滞候ニ付村方願書差出候則願人
差遣申候旨吟味致候様ニ申来ル追而遂吟味可得御意旨及返書願書

ハ留置候願人ハ先罷帰候様申達ル

一 船頭町田原屋六兵衛ハ断出候讚州「」ハ清六平兵衛与申者式人米買ニ参ニ付宿仕候由

十月十六日

一 今日五ツ時ハ就御出御用所御出席無之候

一 於直様林田高福寺へ被遊御出候御先弘差出ス是ハ大隅下町分御通りニ付

一 昨夜夜敷参候阿賀屋半次米代滞義大年寄ニ而遂吟味申候処相違無之候近々御届立可申旨申出ル

一 林田町鍵屋安左衛門大坂播磨屋伊兵衛方滞銀之義も去ル十一日相濟銀子相渡濟口証文取之飛脚今日罷帰候由申出候尤右之趣書付遣ス御用所上申上ル大目付所申達ス

一 昨夜雲州御家老中ハ此方御家老中ハ之飛脚参候ニ付京町塩屋新兵衛定宿候得とも伊州久居之御徒使宿罷在候ゆへ花屋惣兵衛上宿申付ル飛脚案内ハ直ニ宿ハ御家老中へ申上候由

一 海老屋長右衛門断出候大坂天満植木屋町市兵衛手代甚右衛門与申者老例年之通植木壳ニ参候ニ付宿仕候旨書付出ス

十月十七日

一 在中元居借米ニ被仰付町方難儀之旨願出候書面之趣勘定奉行相談之上今日於対談間御用番六左衛門殿へ御内意申上ル

一 材木町正木屋八右衛門家守喜助断出候紀州高野山宝連院使僧円枳房上下式人例年之通宿仕候旨書付出ス

一 林田町かき屋安左衛門出入相濟候濟口証文写并先達而到来之訴状

五通大坂御役人広瀬義平中井伊右衛門書状相添差□ス

十月十八日

一 於対談間六左衛門殿被仰渡候昨日内意申聞候在中借米元分差扣置候処取計致難儀元分積りヲ以致借用申度旨願申出候之趣候得共表及評儀筋ニ□無之候勘定奉行坏上及内談手續ニ而借候事も可成筋

一 候ハ、右役筋内意申出取計候様可及内談候御代官所ニ而も納之内貸申様難被仰付候旨被仰聞候又々勘定奉行上及対談見申候得共何分此節義ゆへ難致趣ニ相聞候故右願書大年寄へ差戻ス

一 右同所ニ而六左衛門殿被仰聞候先達而内意申聞候町方万人講願之儀近々致評儀見申候得とも当時ハ難申付事ニ候時節ニハ被仰付事も可有之先之願書ハ下方へ指戻可申由被仰渡候

右三通之願書大年寄へ指戻ス

一 二階町堺屋多吉断出候雲州松江へ和田見町伊野屋次郎右衛門方へ用事ニ付四拾日計逗留ニ而罷越申度旨承届ル

十月十九日

一 銭相場七拾式文通用立替之由申出ル

一 大坂広瀬中井ハ書状林田町鍵屋安左衛門播磨屋伊兵衛濟口相濟細井安芸守殿御聞濟候由申来ル

一 宮脇町阿賀屋助五郎願出候安岡町小倉屋七右衛門持来り候自国請酒株当戊十月ハ来ル丑ノ極月迄四年間宮脇町阿賀屋助五郎右自国請酒株預ケ申度助五郎手前ニ而商売仕七右衛門手前ニ而請酒商売不仕候様奉願旨先格も有之由故承届ル

一齊藤孫右衛門罷出候東新町山内屋藤右衛門江同町米屋伝七出入候ニ付吟味書持参并質物請申事伺有之及差図候

十月廿日

一 二階町性順義先年町分追払被仰付候當時勝間田村新平ト申者方罷在候病氣罷成候故町内ノ帰住宅之義願出候先頃御内意申上置候処今日大熊六左衛門殿被仰渡帰住宅御免被仰出候大目付所右之段申達ス町大年寄孫右衛門ヘ申渡ス

一 桑原村百姓彦右衛門入牢賄之義只今迄村方賄ニ有之候村方難儀之由御代官中ノ被申聞候ニ付郡代ノ御用所申上候明朝ノ牢屋賄可致旨被仰付候」 一 小頭石名平太兵衛ヘ申渡ス

一 御用所被仰渡候近來火事沙汰仕候由相聞候廻り等之儀心付候様ニ被仰渡候ニ付下沙汰承候様ニと大年寄ヘ申渡尤火本之念入候様ニ町々可申渡旨申渡候

一 京町塩屋新兵衛断出候大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代善太郎ト申者懸銀札取罷越宿仕候旨申出ル宿切手指出ス

一 右同人申出候勢州朝熊岳明王院使僧休智坊悦忠坊宝藏坊上下六人且那廻ニ罷越例年之通ニ宿仕候由

一 同人断出候雲州杵築多久太」 一 上下式人且那廻り罷越宿いたし候由

一 地藏院江御仏詣ニ付例之通七間廊下罷出御通懸ニ御目見申上ル

十月廿一日

一 大目付所ノ被申聞候御駕篋者被召抱候町方望者々可申出来廿七日迄含申出候様大年寄江申渡ス

一 百間土手細竹入札之儀町方ヘ触候様郡代所頼候ニ付申触ル

十月廿二日

一 東新町米屋伝七山内屋藤右衛門出入ニ付書付指出ス藤右衛門返答書差出候様大年寄ヘ申付ル

一 元魚町江嶋屋市右衛門悴安兵衛儀就用事大坂嶋の内疊屋丁紀伊国屋喜兵衛方江罷越來亥ノ二月迄逗留仕度旨願出承届ル

一 元魚町えひや長右衛門断出候大坂久太郎町丸屋藤兵衛手代兵助例年之通大工道具売ニ参申候宿致候旨書付出之

一 東新町飯年寄玉屋新助ヘ申付ル

一 下紺屋町紺屋小右衛門悴小四郎先年千ヶ寺江参候昨日罷帰候由兄勝助ノ断出候

十月廿三日

一 倉敷藤本甚助殿御代官所西吉田村銀納米京町阿賀屋半治相調代銀滞候ニ付訴状指出右御代官所手代高橋收藏ノ添状申来候段御用所江申上ル尤返済方申渡候

一 火事沙汰有之由御用所ノ廻り等念入候様ニ被仰渡候ニ付遂吟味候処付火之沙汰決而無御座候故町々夜廻り之儀も付申付火元念入候様与計申付候旨御用所ヘ申上ル大目附中江も申達ル

一 米相場御藏四拾三匁五分町米四拾匁五分中買ハ書付出ス

一 小性町田戸屋宗十郎断出候筑前遠賀郡山鹿浦伝十郎手代与八郎金次郎例之通茶碗売ニ参宿いたし候書付出ス

十月廿四日

一 牢屋賄物借証文致印形遣ス米三俵銀札三拾匁

十月廿五日

一御用所明日夕隔日ニ御出席被成候之旨以坊主被仰聞候式日之御出仕有之由

一京町阿賀屋半次西吉田村米代滞銀来ル晦日迄ニ三百五拾匁相済残分ハ来月早々相払可申候間右之通受取候様被仰付可被下旨断書差出候御用所へ申上致添状倉敷御代官所へ今日遣ス

一勝間田町かと屋太郎右衛門断出候播州龍野新町箸屋平四郎忤新兵衛例年之通尺長きゆうの油壳ニ罷越宿仕候旨書付出ス

一元魚町伊丹屋左衛門断出候岡山家中長屋幸吉与申仁私内縁御座候ニ付罷越二三日逗留仕せ度旨御用所御沙汰申上候

十月廿六日 出仕無之

一倉敷御返書来ル阿賀屋半次滞銀之義来月二三日頃迄ニ相納申候様為致度候間夫迄ニ相払申候様申渡呉候様ニ申来ル大年寄へ申渡候

十月廿七日 御出席有之

一豆腐直段只今迄拾文ツ、有之候処大豆高直ニ罷成候故拾壹文壳申度旨願書出シ御用所へ申上ル大目付中へも申達候勝手次第ニ申渡ス

一米相場御蔵米四拾三匁町米四拾匁中買書付出ス

一倉敷藤本基助殿御代官所御廻米今日夕船積致候ニ付町人足之儀例之通申付候様大年寄江申遣ス

一齊藤孫右衛門罷出紺屋伊右衛門津嶋屋理右衛門梓庄右衛門御用株之義ニ付出入書付持参双方書付請取置候

一元魚町福渡屋善六断出候備前高津郡市場村角太夫と申者縁類者御

座候ニ付十日計逗留為仕度旨承届ル

十月廿八日 御出席有之

一先日相触候御賀篋者町方兩人有之由大年寄夕申出候大目付中へ申達候

一中奥御番所昨夕夕相止申候旨

十月廿九日 御出席無之

一米相場御蔵米四拾式匁五分町米三拾九匁五分

一勝間田町かと屋太郎右衛門断出候播州網干新在家村平松屋惣九郎晒蠟鯉節壳ニ参候宿仕候由書付出ス

一小性町西川屋重三郎願候備前岡山平野町児嶋屋与右衛門片上町大和屋清左衛門御当地見そ屋おろし醬油懸集ニ手代差遣申度申参候

已後右之者共私宿仕候様奉願旨勝手次第ニ申付ル

十月晦日 御用所御出席有之

一久世夕十月十五日夕之米相場三段之直段書付例年之通頼来ル

一乃井野夕右米相場乃義頼来ル飛脚留置出来次第此飛脚ニ遣呉候様ニと申来候ニ付塩屋新兵衛江宿申付ル

一宮脇町多津屋重吉願出候備前岡山上之町嶋屋佐兵衛方へ当戌十月夕来亥九月迄手代奉公ニ罷越申度承届ル

一戸川町年寄三町目平野屋宗五郎久々相煩以今相勝不申候ニ付年寄役御免被下候様ニと願出候

十一月朔日

御用番 佐々木内膳殿

大目付 当番持

一 御病所被成御座候ニ付御目見不被候請候式日ニ付御用所御出席有之

一 御吉事日ニ付御普代中登城御祝儀頂戴有之拙者共例之通七間廊下

ニ罷出御赤飯致頂戴候大目付所^ニ御礼申上ル尤裏附着用罷出ル

一 倉敷御代官所久世役所乃井野役所西川大久保殿役人中^ノ例年之通

津山町米相場書付頼来明後日差遣候旨申上ル

一 荒物方ニ而請取候物覚書付梗板八枚先達^ニ「油紙八枚青繩式抱

指札四枚右之通受取候

一 乃井野^ニ之返状相認米相場十月十五日^ノ晦日迄上中下当町相場

書大年寄^ノ認差出致奥印差遣ス是飛脚待せ置遣呉候様ニと申来候

故如此

一 米相場書十月十五日^ノ晦日迄上中下三通宛四組差出ス^ニ壹組ハ扣三

組ハ倉敷乃井野久世三ヶ所ニ遣候分拙者致奥印候

一 西川大久保殿役人中^ヘ遣候平均上中下之書式通差出ス^ニ壹通ハ扣用

但奥印無之^{拙者}

一 元魚町伊丹屋理左衛門年寄役今日申付ル蔵合孫左衛門宅ニ而申渡

ス

十一月二日 御出席無之候

一 小頭平太兵衛^ノ申聞候三軒家明家候所長局中間彦兵衛^与申者致借

宅申度由申候ニ付借遣ス尤一札取置候様ニと申付ル大目付中^ヘも

及沙汰候

一 米相場書付致奥印明朝倉敷遣ス久世^ニも遣ス西川^ニハ平均相場書

付無奥印遣ス飛脚久世西川相急明朝罷越候様ニ申付ル

上 四拾匁六厘式毛五

平均 中 三十七匁六厘式毛五

下 三十四匁六厘式毛五

一 吹屋町釜屋市郎右衛門願出候内藤金市郎様御支配所久米北條郡坪

井村蜜言寺撞鐘請合申候ニ付当三日ニ職十人計召連從來十日計之

逗留ニ而罷越度申出承届ル

十一月三日 御出席有之

一 米相場御蔵米四拾三匁五分町米四拾目五分

一 布袋屋庄右衛門後見津嶋屋理左衛門^与灰伊右衛門御用達之儀ニ付

及出入訴訟差出候ニ付裁許仕旨御用所御沙汰申上ル大目付中^ヘも

内談申候趣左之通

一 倉敷^ヘ今朝遣候飛脚暮時罷帰返書来ル

一 布袋屋庄右衛門^与申者御染物御用相達罷在去ル戌歳相果悴就幼少

京町あい屋又兵衛後見罷越相勤罷在候^ニ処病身罷成難勤去ル寅歳灰

屋伊右衛門^ニ右株預ケ銀札式百目致借用八ヶ年間納来仕候無程又

兵衛相果悴庄右衛門儀母召連津嶋屋理右衛門^と申者方^ヘ縁付罷越

居候所去西歳年数明候ニ付右式百目返済株取戻し御用相勤可申之

旨其節間人秤屋甚右衛門阿波屋定右衛門兩人^ヘ申達候^ニ灰屋伊右

衛門申候^者右株之儀^者其後銀五拾目為橋代遣手切仕候故相戻シ可

申筋無之旨申難儀仕候旨訴訟申出候依之灰屋伊右衛門遂吟味申候

処去ル寅歳九月右株預り銀札式百目借遣申候所亦候百目出候^ハ、

株手切可相渡旨申候故左様ニ候^者就出銀札五拾目為橋代遣間人^ノ

請取被置申候就此株已後申分無之秤屋甚左衛門阿波屋定右衛門相
濟置申候旨申ニ付間人兩人遂吟味候処弥伊右衛門申通相違無之旨
申之依之右之趣庄右衛門申聞候得者証文之外当座為橋代五拾目差
越申候哉事切相濟候ハ、銀札之請取計ニ而無之手切文談可有之儀
御座候処左様之義ハ無之甚右衛門定右衛門申分共ニ疑敷不得其意
存故候由申出双方不埒慥成証拠無御座候出□ニ罷成候

一 御用達之儀前々々町奉行所ニ而申付候儀ニ而無之其筋之御役人
御用能弁シ候者ハ罷申付相達候事ニ而株ト申義無御座候然処双方
心得違内々ニ而金銀取纏り候儀表立申出大切之御用向売買同事ニ
仕其上及争論候之段奉行所ニ承候而ハ不届至極奉存候依之右兩人
共ニ御用達取上外被仰付候様其筋御役人中江可申談候奉存候右借
用銀式百目之内百目ハ今度庄右衛門ハ伊右衛門ヘ相戻シ候様可申
付奉存候

右親申上候処尤思召候間其通ニ取計候儀有之候得共当分兼役之義
旁以御伺申上候義也

十一月四日 御出席無之

一 戸川町年寄三丁目平野屋宗五郎役義相願之通今日差免ス

一 安岡町市場屋六兵衛北側家屋敷表口四間裏行拾四間但老軒役東隣
綿屋宇兵衛西隣ハ打穴屋長兵衛代銀式百式拾四極同町生綿屋治兵
衛ヘ壳渡申候右願之通承届ル 實入ニ貸付申候処請返シ其上壳申候本証文戻ス壳
立方証文差出ス

一 右家屋敷美濃職人町鯉屋九兵衛銀札式百式拾目之質物ニ書入置申
候ニ付元利返済相濟候旨濟口一札出之候帳面消候様申付ル本証文

戻ス

一 安岡町米屋太四郎家屋敷北側ニ而表口式間半裏行拾四間但半役也
東隣ハ福増屋三平西隣ハ綿屋吉右衛門代銀三百目相極同町福松屋
次郎吉ヘ壳渡申度旨願之通承届ル本証文出ス

一 安岡町上横町西側ニ而作人次助家屋敷表口式間裏行八間但三步役
南隣ハかち屋長右衛門北隣ハ新田村境ニ而代百目相極同町鍛冶屋
長右衛門ハ壳渡申度候願之通届ル本証文出ス

十一月五日 御出席有之

一 野辺江御出候節并御対面所ヘ御出之刻御堀端子共出不申候様下紺
屋町元魚町二階町江可申付之旨御用所ニ而被仰渡大目付所江も被
申聞候御堀之鳥追立申候由依之御殺生之障ニ相成候ニ付被仰出候
旨也

右大年寄藏合孫左衛門ヘ申渡ス

一 京町あか屋半治西吉田村ハ銀納米代銀滞昨日迄ニ不残相濟出入相
濟申候故齊藤孫右衛門罷出申聞候依之半治呼出向後右体之義無之
様急度阿候様申渡ス

十一月六日 御出席無之

一 下紺屋町大工五太夫母願出候俸五太夫儀去七月相願大坂表ヘ罷越
候来三月迄日延願出承届ル
一 米相場御蔵米四拾四町米四拾老勿書付出ス

十一月七日 御出席

一 戸川町年寄三丁目浜野屋宗五郎申付候
一 布袋屋庄右衛門後見津嶋屋理右衛門与御用達灰屋伊左衛門右御用

達株之義及出入候此間御用所_ニ御窺申上候通今日小勤者大石平藏宅_ニ而灰屋伊左衛門御用達被差免申渡有之筈申合相濟同日大年寄孫左衛門宅_ニ而小頭石名平太兵衛為立会候而庄右衛門理右衛門伊左衛門三人_ニ以書付申付候委細此間伺申上候通也具申渡帳面_ニ書記候

一阿賀屋半治吉田村米代滞銀出入相濟申候旨御用所_ニ申上ル大目付所へ申達ス

十一月八日 御出席無之

一倉敷御代官藤本甚助殿手代高橋收蔵_ノ書状来ル西吉田村出入相濟候旨村役人申出候趣申来候相応及返書并岩見田村幸右衛門切手米不殘御渡相濟申候旨申出候段是又申来ル

一錢相場今日_ノ壹匁七拾文通用立替申候旨孫左衛門_ノ申越候

十一月九日 御出席有之

一御役替有之隅田族御子様方付_ニ被仰付候宗旨奉行_ニ川口小兵衛寺社取次兼役

川口小兵衛跡大番組頭中奥組頭兼 右同断
秋元三左衛門 宮部右權

御小納戸

野条平藏

御膳番_ニ
村上六之進

磯野平太寺社取次兼役大山久太夫中奥組頭兼役神崎猪助山岡与左衛門御瘡病_ニ付御役御免

一米相場御蔵米四拾五匁町米四拾貳匁

一伏見町さやし与左衛門断書差出候伏見町南側_ニ而私家屋敷表口三

間裏行式拾四間但シ半役西隣ハ花野屋七郎兵衛東隣ハ古金屋善左衛門_ニ而右家屋去ル申十二月貳百目之質物_ニ書入候処今度元利相濟請返申候由住屋利兵衛さやし与左衛門印形断書出ス

一東新町米屋伝七訴状大年寄へ相渡シ同町山内屋藤右衛門返答書認差出候様申渡ス

一下紺屋町与右衛門家屋敷表口四間裏行拾七間但シ本役也西隣ハ原田屋利兵衛東隣ハ福住屋吉左衛門_ニ而代銀貳百六拾目相極原田屋利兵衛悴馬七_ニ壳渡申候旨願之通承届ル本証文出ス

一西大番所前橋南欄干西之端_ニ而壹間計痛相見申候旨町構_ニ而ハ無之候得共及見_ニ付断出ル大目付所へ申達ス

十一月十日 御出席無之

一米相場御蔵米四拾六匁町米四拾三匁

一中奥目附_ノ明_ノ四ツ時泰安寺へ御仏詣御道筋平生之通町分掃除申付

御先払小頭平太兵衛へ申遣ス

十一月十一日 御出席有之

一泰安寺_ニ御仏詣御先払町分指出ス

一七間廊下_ニ清水水竟右衛門拙者兩人罷出御通懸_ニ相詰罷在候

一大目付市村民_ノ被申聞候組者共借米不埒不致算用族有之候粗相聞候不埒無之様_ニ可申付之旨右之段小頭平太兵衛申渡ス

一錢相場今日_ノ壹匁六拾八文通用相成候旨大年寄申来ル

一米相場御蔵米四拾七匁町米四拾四匁書付中買共_ノ指出ス

一明十二日御対面所近辺御鷹野候由申来大年寄_ニ為知遣ス

十一月十二日 不致登城候

一 伏見町さやし与左衛門南側ニ而私家屋敷表口三間裏行式拾四間但

半役也西隣花野屋七郎兵衛東隣ハ古金屋善左衛門ニ而右之家屋敷

質物書入銀札百四拾目当戌十一月分来亥ノ十一月切ニ式割利足

ニ而戸川町坂口屋藤蔵取次ニ而借用致度旨願出承届ル

一 京町戸屋岩右衛門願出候私親佐左衛門儀六年已前已歳断申上戌

歳迄大坂今橋式丁目鴻池新七方へ奉公罷越候処今七年来已歳迄相

勤申度旨願出ル

一 京町稲井友節願出候大久保出羽守様御領分久米北条郡宮部村与兵

衛由緒御座候ニ付去申歳ハ戌歳迄三年間罷越居申候処今五年来亥

ハ勿迄罷在度旨願出ル承届ル

一 配当場城瀧城薦願出候私共兩人配当場被仰付只今迄相勤居申候処

去九月吉野郡宮本村森瀬勾当京都江罷登十老檢校方ハ被仰付「」

敷之衆分成者五年之間ハ座与申もの御座候五年相立候得者座落与

申者ニ相成申候其節引次と申もの任候得者金四両出申候左様仕候

得ハ萩野城衆引と申者相成候此金相立不申ものハ配当場役相成不

申与十老森瀬勾当江被仰付私共不勝手者ニ而身刀相叶不申時節柄

悪敷御座候故勤他も相成不申難儀仕候右之通ニ而相勤候得者配当

五分引と被申渡候左様ニ而ハ渡世必死ニ難儀仕候依之御慈悲ヲ以

宜敷被仰付被為下候様奉願候旨大年寄申出ル勾当ハ書状ニ而も有

之哉と承合申候処則書状「」差出ス

右の趣御用所江申上ル

一 錢相場六拾六文通用ニ相立候旨申出ル

一 吹屋町沢屋惣左衛門断出ル阿州板野郡鶴嶋村藍屋理右衛門同喜助

与申者式人例年之通藍玉壳ニ昨日三參申候宿致候由書付出ス

一 二階町鳥屋佐助断出ル山城国愛宕山長庵房使僧坪倉常意上下三人

例之通且那廻り參申候宿仕候由書付差出ス

一 明四時泰安寺江御仏詣被遊候旨申来候大年寄小頭へも申遣ス

十一月十三日 御出席有之

一 泰安寺江御仏詣御先私差出ス例之通七間廊下ニ御通懸江相詰ル

一 錢相場老勾六拾八文通用立替候旨申来ル

一 配当場城瀧城薦引次之儀入用難儀難捨置旨御用所へ申上候処先格

無之拜借難被仰付候達而申上候得ハ勘定奉行へ相談可仕之旨被仰

候尤大目付中右之段申候

十一月十四日 御出席無之候

一 組中山市左衛門願出候布原村小平与申者家内三人引請申度旨承届

ル

一 魚町塩田屋孫三郎断出候播州姫路久ヶ町三宅八右衛門馬壳罷越十

五日計私方逗留為仕申度旨

一 明十五日泰安寺江御仏詣被遊候旨中奥目付中申来ル大年寄江御

掃除申遣御先私小頭江申遣ス

十一月十五日 御出席有之

一 泰安寺江御仏詣例之通七間廊下江清水寛右衛門拙者兩人罷出ル

円得院様廿七廻御忌之由相聞候

一 昨日公料吉田村辺ニ而万人講有之候由町方ハ粗罷越候様相聞候

兼々停止ニ相触有之候故猶又猥に無之様ニと可相触存候旨御用所

ニ申上ル大目付中へも申達候

一 町方江触書出入近來於公料万人講有之様相聞候前々ハ相触候通町方之者右之場所江罷越申間敷候若相背候者有之候ハ、急度可申付候

一 博奕之儀前々ハ稠敷相触候処近來者又候猥に相聞候目附之者相廻シ無用族召捕候様ニ申付置候間町々五人組申合相互に友吟味いたし相慎可申候相背もの之者組合越度可申付候右之旨町々裏借屋迄相触候様書付渡ス

一 錢相場壹匁ニ六拾九文ニ立替候旨申越候

一 藏合孫左衛門願出候京町南側ニ而先年被為下置候家屋敷表口拾間四尺五寸裏行廿式間但壹軒役東隣宮嶋屋源助西隣阿部川屋源左衛門右屋敷之内立家敷地共ニ半分并土藏一ヶ所酒道具別紙之通質物ニ書入元魚町河内屋善左衛門取次ニ而銀札壹貫六百五拾匁壹月壹歩半利足ニ而當十一月ハ來亥正月切借用仕度旨願書出ル格別之家之義ニ候間御用所江も御沙汰申上承届ル本証文出ス

一 當日之御目見江御用御座候故不被為請候諸士出仕無之候

十一月十六日 御出席無之

一 浜野屋文五郎断出候急ニ用事候ニ付備前和氣福屋千右衛門方ハ罷越申度五六日逗留ニ而罷帰可申候承届ル

一 錢相場今日壹匁七拾文通用立替候旨申越候

一 藏合孫左衛門罷出東■新町山内屋藤右衛門返答書持參候

十一月十七日 御出席有之

一 志ゆす屋町二元屋太郎右衛門南方來迎寺之通永敵寺境江もかり新ニ致候様聞候ニ付致吟味申候処先年江口勘太夫町奉行之節相願候而

冬分計致來候由申出候

一 米屋伝七江再返答書今日申付ル

一 御用日今日ハ一六三八御出席其外式日御仏詣之節ハ御出席有之候

十一月十八日 御出席有之

一 林田町神田屋喜太郎与申者先年御領分追払被仰付候右母林田町ニ罷在候然処書喜太郎儀近來宮尾村辺江罷在候先頃病氣付母方ハ罷越相果申候由風聞有之ニ付遂吟味申候処決而左様様ニ而者無御座候去月十七日東辺江喜太郎罷越途中ハ病氣ニ而母方ハ立寄候故早速宮尾嶋本屋権兵衛方ハ申遣召連罷帰可申中病氣差重り相果申候

ニ付宮尾村引取帰申候以書付申出候申訳一通りハ候得とも何分立宿仕候而も母不屈ニ不呵追込可申付昨日御用所ハ御窺申上候右之通被仰付候然処大目付所ニ而愛染寺ニ而致葬旨沙汰相聞候故寺之方吟味申付置候間右相ハ被仰渡度旨広瀬半助被申候間今日迄相休申候処市村番右衛門ハ寺ニ而葬不致送号且縁ニ付認遣候計と申出候ゆハ昨日之通可申付旨被申候間大年寄呼出喜太郎母不屈之旨呵追込可申渡旨申達候女之儀ニも候間町内年寄方ニ而申渡候而可然旨申付ル

一 東筋江御鷹野ニ被遊御出候御帰道町筋之由故掃除并御先払先格之通ニ申付差出候

一 妙勝寺來二月大谷村阿せち谷ニ而鐘鑄相願被仰付候東西橋江右建札致度旨取次中ハ被申聞候御用所ハも被仰渡候大年寄江其段申聞候

十一月十九日 御出席無之

一 米相場御蔵米四拾八匁町米四拾五匁中買合書付出入

十一月廿日 御出席有之

一 地藏院江御仏詣例之通七間廊下へ相詰ル御用所へハ御仏詣ニ付御出席故御用無之不能出候

一 蔵合孫左衛門罷出申聞候去十八日田町御堀之中ニ鴨死浮相見申候

御注進可申上存候内下目付合訴候由被申候故不申出候由申之候

一 錢相場壹匁六拾八文通用ニ立替候旨申来ル

一 錢相場又候壹匁ニ六拾七文相成候旨申来ル

一 惣酒屋共合願出候去冬米直段格別下直六拾八文通用ニ付酒直段引

下ケ商売仕度旨奉願御断申上候処近来米断々高直ニ成申候此節

酒仕込之時分御座候ニ付猶又惣酒屋共御断奉申上酒直断前々之通

被為遊御辰シ被下候様奉願候直断別紙書付差上申候

一 名酒壹舁ニ付只今迄壹匁分ニ売申候酒 此後壹匁三分

一 上酒壹舁ニ付只今迄八分ニ売申候酒 此後壹匁

一 中酒壹舁ニ付只今迄七分ニ売申候酒 此後八分

一 下酒壹舁ニ付只今迄五分ニ売申候酒 此後六分

一 下々酒一舁ニ付只今迄三分五厘売申候酒 此後四分五厘

右之通御用所江申上候大目付中へも申達候大年寄書付之通代増商

売勝手次第ニ申渡候乍去御酒念入世上之批判無之様可申付之旨申

渡ス

十一月廿一日 御出席有之

一 米相場御蔵米四拾九匁五分町米四拾六匁五分中買合申出ル

一 元魚町美濃屋市左衛門東側ニ而表口七間六寸裏行拾七間但式軒

役也北隣油屋勘七後家南隣者重屋治右衛門家ニ御座候右家屋敷六

年已前已六月御願申上住屋与三兵衛名代ニ而私買請申候此度私名

代付替申度奉存候旨与三兵衛市左衛門連名願書差出入本証文出入

一 元魚町油屋勘七後家願同町東側ニ而表三間半裏行拾七間但式軒役

也北隣ハ作人万吉南側者住屋与三兵衛家ニ而御座候右之内裏行東

之端「東西江三間半南北江三間半木部屋一ヶ所敷地共ニ但式步

役ニ代銀札百五拾匁相極町内美濃屋市左衛門へ売渡申度旨遂吟

味候処裏方売申候先格も有之由大年寄共申候ニ付承届ル本証文出

ス

一 元魚町住屋与三兵衛願出候同町西側ニ而表口壹間半裏行六間但五

步役也南隣ハ伊木屋理左衛門北者戸川町通筋横町ニ而御座候代銀

札式百匁相極二階町かき屋金蔵へ売渡申度旨承届ル

一 久世松平庄五郎殿御預所去三日御免石黒小右衛門殿内方鉄五郎殿

江御預ニ被成候由為知申来候本証文出入

一同所合申来ル先達而申越候越畑村御林雜木炭稼相願御途上差上右

之炭備前国川下願申候旨申来候ニ付先規合炭川下ケ之義ハ重留物

ニ付当領分川岸合積下シ難致之旨申遣候今度勝北郡堀坂村合積

立川下ケ致ニ付小桁番所江之印鑑壹枚郡代所江被差越候事

十一月廿二日 御出席無之候

一 御対面所江九時御出被仰出候大年寄へ為知道ス

十一月廿三日 御出席有之候

十一月廿四日 御出席無之

一 山内屋所持之書付写差出大年寄持參候

十一月廿五日 御出席無之

一 御鷹野ニ御出申来三町為知候様申遣ス

一 蔵相場蔵米五拾壹匁町米四拾八匁申出ル

十一月廿六日 御出席有之

一 林田町神田屋喜太郎母此間追込申付今日指免候儀御親相濟其段大年□申遣指免ス

一 錢相場六拾八文通用相成候旨申来ル

一 新魚町仁太夫願出候鉄砲町佐藤平太俸片岡恵助屋敷罷在候八助夫婦式人私借屋ニ引請申度旨願出候承届ル

一 京町菊屋清左衛門願出候大笹村和右衛門取次ニ而去々申年銀札壹貫式百目借用仕候処返濟得不仕私所持之郷中造酒株質入ニ仕置候請返シ相成不申候ニ付此度相讓申度奉存旨願出候町在へ願之通申付ル御用所ニハ不申上候

十一月廿七日 御出席有之候

一 中ノ町河内屋藤三郎断出候阿州名西郡馬原村猶兵衛同手代平兵衛栄次郎幸次郎上下四人藍玉売ニ參申候「書差出候

十一月廿八日 御出席有之

一 坪井町桔梗屋忠左衛門断出候出雲大社中官西村神太夫与申御師上下五人例之通宿仕候旨申書付出ス

一 二階町性順病氣快致徘徊候旨申出ル

一 東新町大地屋源七借屋丸屋半兵衛倅権八当戌式拾式歳ニ罷成候所十一月十六日高田被罷越以今罷帰不申処書置仕置候及大借差詰り何国ニ成とも罷越候由申出候書付出ス随分相尋上而可申出之旨申

渡ス十一月十三日備中ニ罷在候罷帰候旨ニ付願出候ゆへ差戻ス様申渡ス

一 下紺屋町年寄仁左衛門願出候私借屋居申候御賀篋者伊助家内三人柴山源蔵長屋ニ引越度旨願出承届ル

一 橋本町紀伊国屋徳三郎私所持之旅籠屋株此度同町松井屋孫四郎相讓申度旨願承届ル

一 東新町米屋伝七返答書差出ス

十一月廿九日 御出席無之候

一 日用頭平左衛門相果候ニ付当分代リニ小性町清八ニ申付候由大年寄申出ル

一 東新町西新町申出ル林田新町笹屋類族者無異儀罷在候旨書付例之通差出ス承置候

一 京町類族右同断

一 米屋伝七山内屋藤右衛門呼出シ致吟味申候事

十二月朔日 御出席有之

御用番 大態六左衛門殿

大年寄月番

齊藤孫右衛門

一 諸士登城御礼有之候

一 向御朔日計御礼被為請十五日ニ御礼不被為請之旨被仰出候

一 昨夕吹屋町土手下ニ錢箱捨有之候由申出ル「堺町吉田屋之喜八与申者箱之由則喜八相戻申候昨夕表戸明置候而被盜申候

由ニ相聞候

一京町かき屋与平次断出ル奈良今井町岡嶋忠兵衛手代源助墨壳ニ罷越候例之通宿致候旨書付出ス

一配当場城瀧城鳶カ願書差出候ハ私共「」分ニ罷成去歲迄五年ニ罷成候ニ付「」敷之取計候而ハ五年目ニ座落ニ罷成候ニ付引次不仕候へハ配當場相勤申事成不申旨京都職カ被仰渡候由吉野郡森瀬勾当カ申越候ニ付難儀仕候今後引次官仕候得□萩ノ城衆引と申罷成候此旨勸化カなとも内々相調不申候宜被仰付可被下之旨願出候ゆへ御用所へ再三御沙汰申上候何様ニ借用被仰付御遣可被下旨申上候「」左之御免ニ勸化「」為仕可申哉何分配当無御座候間難叶候段申付候座当無之候段者申上候得共彼等敷事用席御聞届被成候様ニ而ハ此類出来亦重而座当共願之例ニも相成候故難被仰付勸化義猶以被仰付間敷旨御用番内膳殿被仰候而相濟不申候依之達而申上候得ハ勘定奉行兎角町奉行へ御伺被成而内々ニ而相濟候様ニいか様取計可然旨申上候故左之勘定奉行へも及相談候而兎角宜取計可申旨被仰渡候而願書ハ御差戻し被成依之清水覚右衛門色□及内談候処外致方無之候間入用金兩人ニ而八両入申候右之内半分ハ町内惣割ニ而取立遣残四両ハ先闕所銀之内ニ而かし遣候様「」候間追而闕所銀之内ニ而被下候様可致と申合今日大年寄齊藤孫右衛門へ右之断申渡願之筋取上ケ不申候間此旨兩人座當へ申渡各場所ニ而致才覚かし遣候分ニ而半分ハ町惣割入取立遣可申旨申渡ス一度ニ相成不申候へハ両度成とも執計申候様申渡依大年寄借用証文認差出候様ニと申渡ス

一昨日東新町米屋伝七山内屋藤左衛門呼出シ休伝十月十日相果葬之

儀及爭議猶又山内屋蔵諸道具ニ伝七カ致封印申候之「」藤左衛門カ申出候ニ付双方訴状返答書取纏り為致候処昨日呼出シ双方遂吟味申候米屋方為指証拠無之候元文四未年休伝カ先伝七へ相渡置候由緒書末ニ本家之義死後「」渡ニ取計可申旨申置候由書付出候「」其翌年元文五申年ニ江口勘太夫町奉行之節休伝カ出置候書付是ハ休伝伝七及出入候上勘太夫差図ニ而存命内遣物致割対相濟候様ニと被申付休伝畏り其節一存之書付割対目錄別々書付敷通出置候依之右書付引合遂吟味申候処一ヶ年前之書付難用其外ニハ慥成拠無之藤左衛門方ニハ慥成遣書有之差出候然共右指出候書面カ、わり取捌義ニハ無之勘太夫取計置候休伝出置申候書付ニ而取捌申候趣意故委細御用所ニ存寄之趣巨細ニ御窺申上候処尤ニ思召候依之休伝小遣銀ニ残置申候銀四貫目有之内式ノ勿ハ先程法事入用ニ

本家義故伝七方遣候式ノ勿ハ病中入用藤右衛門遣候山内屋家屋敷元入質物道具類ハ休伝先年書付出置申候通藤右衛門へ相渡候伝七義ハ八年寄役取上ケ追込ニ申付候
十二月二日 御出席有之

一右東新町伝七申渡候義一昨日相伺申上候処御用所思召有之由延日仕「」御手紙ニ而申来り今日右之通可申付旨被仰渡候大年寄齊藤孫右衛門召呼右之通孫左衛門宅ニ而今夕申渡候様ニ申付申渡書「」右之旨御用所へ御窺申上候処三日御伺之通御差図有之三日大年寄齊藤孫右衛門宅ニ而為申渡候立會書役川嶋図書小頭石名平太兵衛部屋頭川端又六遣候山内屋藤右衛門へも以書付申渡ス委細ハ渡帳ニ文言有之候

十二月二日 無御出席

一米相場蔵米五十三匁町米五拾匁之書付出す

一今日押入飯綱御供揃御迎之由中奥目付為知有之候御先払組者兩人例之通罷出候様ニ罷申付尤町分掃除大年寄へ申遣ス

十二月三日 御出席有之

一米屋伝七山内屋藤右衛門申渡之趣前段有之略之候

一吹屋町土手捨有之候錢箱塚町喜八と申者箱之由申出候ニ付相渡させ候旨御用所へ申上候大目付所申達候

一安岡町久米屋藤七借家十助願出候去ル西五月御断申上候大庭郡上

河内村之円融寺隱居唯清病身ニ而私引請介抱仕度旨当十一月迄御断申上置候得共病氣相勝不申ニ付来亥ノ十一月迄逗留為仕度旨承届ル

一元魚町玉嶋屋安右衛門同町西側ニ而私家屋敷表口四間裏行三間但

式歩五厘役也南隣ハ大庭屋伝兵衛北東町通ニ而右家屋敷申十一月

質物ニ書入銀札七百目同町豊玉嶋屋安右衛門「取次ニ而借用仕候处元利

相済」請戻し申候旨断書出ス尤取次人印形有之

一京町菊屋清左衛門願出候所持之郷中造酒株大笹村和右衛門ニ質物

ニ書入申候処銀札返濟難致候ニ付今度右株讓渡申度旨双方願出候ニ付願之通承届候尤御用所ニ御沙汰不申上候

十二月四日 御出席無之

一御供揃次第玉琳辺ニ御出被遊候之旨中奥目附申来ル町分御先払差出町掃除之義大年寄へ申遣ス御道大隅前町分へ御懸り被遊候

十二月五日 御出席無之

一米相場御蔵米五拾四匁五分町米五拾一匁五分

十二月六日 御出席有之

一九町願出候種粉質物取之義御停止候御触有之候最早月廻仕候ニ付三斗以下之種粉質物ニ取候義御勘弁奉願候由申出候ニ付勘定奉行及相談候而例年此筋ハ相免候由故御用所御窺申上候願之通申付候

一馬指共願出候馬持共例年之通大豆三俵宛廿五人ニ拜借願出候来亥

二月同六月迄被下置候御扶持大豆」御引取可被下旨願出候例格之分勘定奉行中及相談御用所へ申上候相済

十二月七日 御出席無之候

一米相場御蔵米五拾四匁町米五拾壹匁

十二月八日 御出席有之候

一三軒家番所借人御理方中問彦兵衛借家請状差出候御用单筒ニ入置候

一元魚町江嶋屋市右衛門断出候乃井野森對馬守殿家中三船三規弟長

次郎先達而願私方ニ逗留仕候今度指戻申候旨申出ル

一茅町打穴屋庄右衛門願元魚町福岡屋太郎右衛門古道具取売株私取

売休度旨太郎右衛門庄右衛門双方願出候承届ル

一鍛冶町かち伝左衛門五年已前已歳久米南条郡下弓削村下手屋八右衛門借家かり出職仕今年切ニ罷帰可申答候処又々夕暮迄居申度旨願出候何」不筋候様ニも被存候得とも先達聞届濟追願之事故承

届ル

十二月九日 御出席無之

十二月十日 同断

一中ノ町小山屋与三右衛門断出候播州網干余濃屋惣五郎老人八百屋物売参宿仕候旨書付出ス

一同人断出候播州網干鍛冶屋惣十郎手代善十郎申者老人鯉節売参候旨

十二月十一日 御出席有之

一豆腐屋共願出候大豆高直ニ罷成申候ニ付直段只今迄拾壹文商売仕候得とも拾式文致申度旨今日及御沙汰勝手次第ニ申付ル壹匁式分式厘大豆式舛式分五厘新代ノ九拾三文拾丁元入願之通勝手次第ニ申付ル

十二月十二日 御出席無之候

十二月十三日 御出席有之候

一米相場御蔵米五拾三匁町米五拾目中買共書付差出ス

一馬指作兵衛六右衛門願書差出候馬持廿五人拜借年賦元銀壹貫百目去ル已暮拜借式割五年ニ濟崩ニ被仰付去午歳分当戌歳迄ニ相濟申候然上者先年ノ御借被遊候通拜借奉願旨申出候勘定奉行中及相談御用席へ申上ル願之通被仰付候右大年寄へ申渡ス

一九町ノ町内問屋鍛冶紺屋売懸り米端米在方分請取候義願出候御用所申上例之通勝手次第ニ申付ル

一東新町丸屋半兵衛倅権八義去月高田江罷越罷帰不申由申出候所備中辺ニ罷在召連来候ゆへ親半兵衛町内五人組分願出候故末守申付候内御用所ニも御沙汰不申上候故平生人働等も宣者候由申出候而願之通差戻可申旨申渡ス

一下紺屋町紙屋長六借屋作人市助申者家内式人西尾早太長屋江引越申度願出候勝手次第ニ申付ル

一三丁目佐和屋十右衛門娘久米北条郡錦織村万吉妻ニ貫候故遣申度旨承届ル

一二階町塚屋伊助願出候大坂心斎橋筋老町目京屋忠蔵与申者内縁御座候ニ付罷越五拾日計逗留仕らせ申度旨承届ル

一中ノ町福井屋市兵衛福井村出職仕申度旨家内弟源七郎母私源七郎妻倅長十郎同源五郎家内五人当戌分寅才迄五年切ニ罷越申度旨家守同町惣右衛門預置候旨申出先格有之故願之通申付ル

一東新町三原屋与左衛門私家屋敷南側ニ而表口三間裏行拾七間外地子居大溝切三步七厘五毛役東隣佐次屋彦次郎後家西隣ハ加治屋治右衛門ニ而御座候代銀六百匁相極町内五重屋作兵衛売渡申度旨承届ル本証文差出ス

一東新町米屋伝七去ル三日追込申付候明十四日差免申度旨御伺申上候指免候様被仰付候大年寄齊藤孫右衛門宅ニ而申渡候様申付ル

十二月十四日 御出席有之候

一伊達与兵衛殿江戸表分御帰着被成候

一米屋伝七追込差免伝七不快ニ付名代倅江今日申渡候旨大年寄申出ル御用所江御沙汰申上ル大目付所へ申渡ス

一去正徳五年公儀分被仰出候造酒高之御触書扣大目付中分被相尋候ニ付今日指出ス

一去ル朔日大納言様御婚禮被為濟候ニ付姫宮様御事向後者御簾中様称可申旨被仰出候由廻状相廻リ「町方江相触候様ニと大年寄

江書付相渡ス

十二月十五日 御出席有之候

一 大年寄三人例年之通歳暮之御祝儀差上申度旨御用所江申上ル先格之通可申渡旨被仰渡候月番齊藤孫右衛門江申達ス

十二月十六日 御出席有之候

一 大年寄歳暮之御祝儀指上候旨御奏者番市村数馬殿江申達置候

一 江戸表分到来候造酒米之御書付惣町相触候様ニ被仰渡右書付ハ大目付中分受取大年寄呼出御書付渡申渡ス尤惣町可申渡旨申聞候

御書付ハ左之通「」

一 酒造米之儀諸国共元禄十丑歳石数寒造之儀定数三分一限り此度新「」等一切可令禁止旨正徳五未年十月相触候其後酒造米之儀相触候儀無之ニ付今以右之定数ニ相極事候以来者諸国共元禄十丑年之定数迄ハ新酒寒造高勝手次第たるべく候但休酒屋之分も是又酒造申度分者其所之奉行所且御料者代官私領者地頭江相届以来者酒造候儀勝手次第たるべく候但酒造米高ハ其国之員数不相知分者御勘定所へ可承合事

戌十一月

右ニ付先年被書上候在町之員数古書付遂吟味処候左之通相見候

町分酒屋数九拾八軒 石数

在分酒屋数拾 石数

町 米九百貳拾八石壹斗貳升五合

分 米千九百貳拾壹石五斗四升

分 米六百四拾石五斗壹升三合三夕

在 米四百貳石三斗

分 米三百拾七石九斗

分 米百五石九斗六升六合七夕

酒造米之覚

美作国

一米千三百三拾石四斗貳升五合

一米貳千貳百三拾九石四斗四升

一米七百四拾六石四斗八升

右者領知之内造酒屋之分吟味仕書「」御座候以上

正徳丙申年正月

松平越後守家来

郡代 名

町奉行 名

十二月十七日 御出席無之候

一 昨夜出羽守様来夏御帰国之先触到来仕候之旨大年寄持参候写取置相廻候様ニ及差図候五月七日「」両日中江戸御発駕五月廿五日「」六月二日之内勝間田御泊五月廿六日六月三日久世御泊之旨申来候

一 東新町茶屋五郎兵衛私所持家屋□南側ニ而表口六間裏行拾七間土

藏三ヶ所長屋壹ヶ所御役之間三步式厘□西隣鍋屋甚左衛門東隣横町ニ而御座候右之家屋敷同町美和屋善兵衛取次銀札式貫目質物書入五年已前」
「借用仕候所此度元利返弁仕請返シ申然らハ已後双方申分無之旨美和屋善兵衛印形相加へ断書差出候承届ル

十二月十七日 御出席無之

「大久保出羽守殿役人柳井雪内小形」
「寒氣為見舞通答紙千枚給り候相応ニ及返書候

十二月十八日 御出席有之

「昨日到来品致受納可申哉之旨大目付中へ乍内々相窺処無礼ニも可相成候ニ付致受納候様ニと御差図有之

一月廻候ニ付非人共加廻り申付候旨申上候

「銀札百三拾匁七分壹厘七毛目明し正月」
「十二月迄老人半ふち代銀大年寄受取証文ニ奥書致印形遣候

「銀札三百目六分式厘八毛非人頭兩人毎日町廻り老人米五合宛代銀并筆紙代入用大年寄受取手形奥書致印形遣ス

「銀四百目亥歳非人扶持内借証文例年之通致印形奥書遣ス
一同四百目目明し扶持内貸右同断

十二月十九日 御出席無之

「一 例年之通町方月廻ニ付触書大年寄相渡ス

「一 安岡町南側増原屋藤九郎家屋敷表口五間裏行拾四間五役半役東隣米屋十右衛門西隣ハ扇屋惣右衛門御座候右」
「表口式間半裏行拾四間申四月御断申上茅町作人文助方へ銀札百目質物ニ書入此度元利相濟家請返」
「申候旨断出ル本証文差戻ス

「一 京町北側ニ而河原町家根屋本兵衛家屋敷表口三間半裏行拾七間去西十」
「月御断同町阿波屋弥兵衛取次ニ而銀札百五」
「借用質物ニ書入候処此度返濟家請返申候旨断出ル

「一 安岡町南側増原屋藤九郎家屋敷表口五間裏行拾四間但御役半役也東側ハ米屋十右衛門西隣ハ扇屋惣右衛門御座候茅町打穴屋庄右衛門ニ質物ニ書入来亥ノ九月迄利足式利ニ相極銀札百七拾」
「借用仕度旨願書差出候本証文出ル

「一 東新町茶屋五郎兵衛屋敷南側ニ而表口六間裏行拾七間土蔵三ヶ所大溝切御役之間三步三厘三毛西」
「鍋屋甚右衛門東者横町同町大嶋屋」
「質物ニ書入銀札式貫百目借用来亥十月切利足壹月壹歩朱之由願書差出ス本証文出ス

「一 二階町山手屋弥左衛門断出候私所持仕候他国請酒株去ル申歳京町阿賀屋半次」
「来ル子才措置候処今度半治方酒商売相止私方へ取戻シ申度旨半治弥左衛門印形書付指出ス

「一 延享二巳年馬持共拜借銀壹貫百目五年賦濟崩相濟古証文差出候ニ付先役太田定右衛門印形消之大年寄へ戻ス

「一 馬持共拜借銀札壹貫百目来亥暮夕外暮迄五年賦濟崩候証文差出先達而伺相濟候ニ付致印形遣ス」
奥書

十二月廿一日 御出席有之

「一 町大年寄藏合孫左衛門齊藤孫右衛門玉置忠兵衛町惣代藏合孫左衛門札元齊藤十五郎町医師岩佐孝碩河合文庵河辺」
「松山寿軒野間宗順算作文庵御用達直屋市郎左衛門嶋屋三右衛門福永屋藤右衛門御藏元姫路屋甚五郎熊野屋理左衛門右者共来年始御目見奉伺候

旨申上候所例之通被仰付候旨御用番被仰渡候右之旨大目付中へ申達シ右名面書付認御奏者番所へ差出ス

十二月廿二日 御出席無之候

一京町塩屋新兵衛宿切手指出ス大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代善三郎与申者例年之通小間物懸銀取集罷越候旨「坪井町桔梗屋忠佐衛門宿切手出ス京四條通富小路西へ入町大和屋為兵衛手代治助小間物懸銀取ニ罷越候旨書付出ス

一堺町土佐屋庄三郎宿切手差出ス山城国祇園成就院使僧三位申僧上下三人例年之通旦那廻りニ參候旨書付出ス

一船頭町今津屋伊右衛門願出候醬油古瓶拾八本売主林田かち屋太郎右衛門買主備前西大寺肥後屋平左衛門買請申ニ付川筋積下シ申度候旨願出承届ル

一舟頭町舟本屋坂之丞醬油道具代滞ニ付福渡町重屋次右衛門先達願出候追々日切申付置候処埒明不申候ニ付昨日大年寄宅ニ而來晦日迄ニ元「申渡弥不相濟候ハ、次右衛門可申出候左候

ハ、暫可申付候旨次右衛門坂之丞へ一所ニ申渡ス由御届出ル

一京町花屋惣兵衛米掛合之商売願出候願書指戻ス

一林田屋惣右衛門木綿懸ケ合相場之願出候願書指戻ス

十二月廿三日 御出席有之

一柳原喜平次昨昨日手紙到來京町阿か屋半治不屈義有之候ニ付遠慮申付吳候様ニと申来ル依之委細之義被仰聞承之候上御用番中御内意申追込可申付之旨及返書処昨夕竹内伝右衛門被罷越喜平次就内用阿か屋半治度々之呼遣申候処病氣之由申之罷越不申後刻人遣候

得ハ他行致候由不屈之致方ニ付難捨置御届申達候由被申聞候依之今日於対談間御用番六右衛門殿御内意申達候処急度重々慮外ニ而之致候と申事ニ而も無之候間拙者共承服「致候ニハ及申間敷候喜平次於被申候筋ニ候間町分之義其元存寄次第ニ宜計候様被仰聞候右之趣大目付村山半四郎へ申達候阿か屋半治大年寄齊藤孫右衛門宅ニ而追込ニ申付候

十二月廿四日 御出席無之

十二月廿五日 右同断

一小性町銅葉屋甚右衛門断出候小性町北側私所持之家屋敷表口三間裏行拾間但シ式間三間之裏座敷右家屋当戌ノ九月銀札式百五拾匁借用質物書入申候処今度元利相濟請戻シ申候旨取次人舟頭町藤屋源助印形相加断書差出ス本証文戻ス

一姫路屋甚五郎断出候新魚町南側私家屋舖表口五間裏行拾五間御役本役也東隣肥後屋次兵衛西隣村上屋次助ニ而拾三ヶ年已前子歳十一月鳥屋太兵衛取次ニ而質物書入銀札壹ノ目借用仕候処今度元利相濟し請戻シ申候鳥屋与惣兵衛印形相加断書差出ス本証文戻ス

一姫路屋甚五郎願出候新うを町ニ而南側表口五間裏行拾五間御役本役也東隣肥後屋次兵衛西隣ハ村上屋次助右屋敷代銀壹貫三百目ニ相極町内鳥屋「売渡申候旨願出承届ル本証文差出ス

一京町福井友節家守大工屋平四郎願出候昨日迄伏見町帶屋孫七古道具取売仕居申候処相止申候ニ付此跡私古道具取売支度奉願請人同町ぬし屋甚七相立申候旨承届ル

一三丁目井筒屋宗十郎願出候只今迄戸川町年寄役相勤罷在候処ニ階

町材木屋庄右衛門方へ引越申度候右年寄役御免被下置候様ニと願
出ル承届役義指免ヌ跡役ハ追而春ニ成願可申旨大年寄申聞候

一 中ノ町佐渡屋平四郎断出候北嶋伝八殿御引請之医師福田嘉字と申
仁私借屋借具候様ニと伝八殿御頼候ニ付貸度旨申出承届ル

十二月廿六日 御出席有之

一 御供揃次第ニ横山辺江夫ハ二宮へ被遊御出候ニ階町御門ハ被遊御
出候御先私差出町掃除申付ル御筋筋違橋へ

一 先達入牢申付候桑原村百姓彦右衛門今日出牢於郡代所御領分追払
被申付候出牢之刻中市佐衛門罷出ル

一 浄円寺来春見せ物御免被成候ニ付東西端へ建札致度旨申出候間勝
手次第ニ為致可申旨被仰渡候右之段大年寄へ申遣ス

十二月廿七日 御出席有之候

一 明日大年寄共歳末御祝儀指上申候旨御奏者番所へ申達ル

一 三丁目并筒屋宗十郎断出候私所持候他国請酒株去ル末年ハ当戌迄
元魚町八百屋七郎右衛門江貸置申候処今度取戻シ候旨断書差出ス

一 小性町牛間戸屋茂兵衛所持旅籠屋株吹屋町北村屋伝八江相譲り申
度旨願出承届ル

一 二階町山手屋弥衛門所持之他国請酒株来亥歳ハ来ル卯之歳迄五ヶ
年之間元魚町八百屋七郎右衛門江借請申度旨願出候承届ル

十二月廿八日 御出席有之候

一 町大年寄藏合孫左衛門齊藤孫右衛門玉置忠兵衛例年之通歳末之御
祝儀雉子ニ羽宛ぬり台ニ而指上ル右三人登城拙者罷出受取小遣ニ
為持御奏者所之脇迄持遣置坊主へ申聞御奏者番中江差出尤及拙者

挨拶候後刻中ノ口へ大年寄三人南方へ居拙者義ハ銀鷲之間敷居之
きわニ罷在候御奏者番七間廊下ノ方ハ被罷出候大年寄共へ歳暮御
祝儀以御「」披露致候旨挨拶有之候其節難有候旨拙者より及挨拶
候退り去ル

一 今日御役替平野丹下御小納戸ハ勘定奉行浜田平太夫御使番格尾上
八十七大御番ニ被仰付江戸引越小従人江宮地十右衛門関十次三浦
宗林大役人ニ勘定吟味斎藤八太夫富沢春佐御徒ニ被仰付候

一 久世役人中ハ錢相場之義例年之通頼来り例格之通致返書大年寄へ
申渡置候

十二月廿九日 御出席有之候

一 銅葉屋甚右衛門小性町北側ニ而私所持之家屋敷表口三間裏行拾間
但式間三間之裏座敷老ヶ所御役六步役也但西隣ハ灰屋惣三郎東ハ
横町右家屋敷舟頭町藤屋源助取次ニ而質物ニ書入御切手拾口^入俵老
月式歩宛之利足相極当戌十二月ハ来亥ノ十月切借用仕候切節相滯
候ハ、家屋敷相渡可申候旨願出候承届ル本証文出ル

十二月晦日 御出席無之候

一 御用所へ歳暮之御祝儀登城有之候由候得共朝之御出席無之故拙者
杯不罷出候

一 鍛冶町年喜次左衛門今朝相果申候

諸組文箱使之儀被仰出有之候旨日記頭書ニ相見へ候得共日記
ニ不相見候ニ付郡代中へ承合候所向方之日記ニハ左之通有之
旨申来候ニ付爰ニ写置候

宝曆四戌年十二月晦日

一大目付中々被申渡諸組之中状箱坏為持不申召仕候組も有之様相聞
居申候向後左様無之万事手輕相勤申候様召仕可申候下代坏も准之
候由御用所思召候旨村山半八被申渡候尤物頭中へ被申渡候由

〔宝曆六丙子年正月の十二月二至

御用日記

七 井上弥三兵衛 〕

正月

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 広瀬半助

町大年寄月番

齊藤孫右衛門

一辰之刻諸士登城御帳付御家老中如例御逢被成候

一御帳濟御用所勘定奉行三人拙者罷出御祝儀申上ル御奏者御大目付
所へ御祝儀申候已後表へ罷出一統之御家老中御逢被成候

正月二日

一御用始月参御役人何^茂罷出御用所へ如例年一統ニ罷出ル右早^而七

間廊下ニ^而御吸物御酒頂戴大目付所へ右御礼申上候

一米相場 御蔵米七拾式匁

町米 六拾九匁 中買書付出ス

一大年寄三人年頭之為祝儀我等宅^五罷越致盃事候

正月三日

一大年奇宅^五為年頭嘉儀我等罷越孫左衛門孫右衛門忠兵衛宅へ罷越
盃出ル

一今日者御用席無之候

正月四日

一坪井殿内藤金市郎殿代官吉田勝右衛門の年始書状来ル先格之通返書遣ス

一大坂御役人広瀬義兵中井伊右衛門の返書来ル三丁目重屋忠六病氣断細井安芸守殿御役所に旧冬廿八日申達御聞届被成候快気次第ニ罷登り可申旨被仰渡候旨右之段大年寄へ申渡ス

正月五日

正月六日

一瓜生原屋惣兵衛大豆小麦川下候ニ付見届ニ神田権兵衛差出候一札取之罷帰ル

一西川大久保出羽守殿柳井鳥内小形伴左衛門の年始書状来ル

一京町加茂屋平左衛門役介類族十兵衛儀走病ニ而相果候旨大年寄の申聞候尤宗旨奉行中に書付ヲ以相届候由申出ル早速御用番大目付中へ御届申遣ス先格相改見申候得共稔相知不申候郡代役ニ而御届申候ニ付御届申遣ス

一去亥歳中銭相場書可頼来候ニ付認差出候様ニ申付置候今日四通認出候拙者致奥書遣候事

一非人加廻り去冬申付候今日迄ニ而最早相止可申旨申渡候様大年寄へ申渡ス

一類族十兵衛就病死檢使御使番石田平六宗旨奉行川口小兵衛被罷越見分無滞相济取置候儀右兩人に町内從相願候旨申出ル

正月七日

正月八日

一十兵衛取置候儀小中原村成興寺へ土葬ニ取置相济申候旨書付差出候

一玉置源五兵衛先達而退役之節名字帯刀只今之通ニ被成御免候然処當時病身ニ付町内徘徊之義ハ小わきさし計ニ而徒相止メ歩行支度旨断出候ニ付御用所大目所（マサ）も右之段御沙汰申置候

一来ル十二日大年寄大庄屋如例御用所御逢可被成哉之旨奉候并来ル十四日ニ御用達御藏元御逢可被成候哉之旨相同候先格之通取計可申旨被仰渡候

一右者共兩日御門出入之儀中奥目附中へ申達ス

一今日御用達直屋市郎道衛門福永屋藤左衛門鳴屋三右衛門御藏元熊野屋理右衛門我等宅に罷越年始盃事いたし候右早而町々年寄罷出逢申候尤大年寄名面申聞ル

一二階町山手屋弥左衛門断書出候私所持自国請酒株安岡町細屋加兵衛へ貸置申候処年数相济候又候当子歳の辰才五ヶ年間借り請申度旨申候ニ付借シ申度旨承届ル

正月九日

一同心組が三軒屋番牢番組中間今日相扣料理出之盃事いたし候

正月十日

一左儀長火本之触書大年寄へ差遣ス文言例年の通

正月十一日

一大目付連名之御奉書到来右為御請御月番御年寄大目付月番へ罷越候

正月十二日

一諸士登城御具足御祝儀頂戴候

一拙者儀今日被為召候於御列座御用番与兵衛殿被仰渡候而役出精相

勤候ニ付格式御使番格ニ被仰付弥入念相勤可申旨御書付相渡ル尤

大目付広瀬半助同道ニ罷出ル

一今日服部源左衛門格式御使番罷仰付候本内喜兵太小従人ニ被仰付

候

一大年寄共例年之通致登城候於中ノ口御家老佐久間主計殿御逢被成

候御年寄衆御逢被成候尤如先格拙者致披露候無滞相濟尤御退出之

刻也

一御用所例之通罷出候表御祝儀相濟直ニ御用所へ罷出候

一西川大久保出羽守殿代官柳井鳥内小形伴左衛門年始旁書状遣ス塩

糴ニ旧冬之返礼旁遣之候飛脚御中間壱人請取遣候足輕ハ遣不申候

一酒直段之儀米高直ニ付直段上ケ願之通申付候処酒風味悪敷いたし

売候様粗相聞候願之通申付候儀故風味悪敷致候義者有之間敷事候

念入売候様酒改之者共へ急度可被申渡候以上

一水あひせ之儀兼而停止ニ申付置候去暮も相触候処当正月ニ到り相

背族も有之様に粗相聞候若背者有之候ハ、急度可申付此旨念入惣

町末々迄可被相触候以上

右兩様大年寄へ申渡ス

正月十三日

一美濃職人町福住屋藤兵衛年寄役今日於大年寄宅申付ル

一銀札引替少々差支米小売高直之由ニ相聞候故相触候

米小売并諸色高直ニ此間致商売由相聞候時之相場ヲ以随分致正路

商可申候若相背族有之候ハ、急度可申付候事

一元魚町海老屋長右衛門宿切手出ス京四条通鳥丸東江入町二文^字屋

清兵衛手代治兵衛治三郎呉服并扇子おろし売ニ罷越致宿候旨

正月十四日

一今朝大般若直御用所有之候

一御用達町人嶋屋三右衛門福永屋藤左衛門御蔵元熊野屋理左衛門例

年之通中ノ口ニ御家老御年寄被成御逢候拙者披露致候朝負殿主

計殿御不快ニ御逢不被成候御年寄中計御逢候直屋市郎左衛門姫

路屋甚五郎病氣ニ罷出候尤当病断大目付中^五以書付申達候

一大年寄罷出申聞候乙後屋十治ハ願出候備前片上市郎左衛門与申者

ハ米売買指引不足銀預り手形取置候所差越不申候ニ付添簡願出候

後承候処米手形売買之指引不足ニ相聞候其上手形等も文言不埒ニ

相見申候ニ不旁以難取上差戻ス尤大年寄存寄も同様趣内意申之候

一橋本町徳嶋屋長十郎断出候悴安治儀眼病相煩申候ニ付備前豆田松

原三省方ハ十日計逗留養生ニ遣申度旨

一俵屋六兵衛ハ御用米川下舟積致候之旨断出候ニ付同心組笹井金内

見届ニ罷出候由ニ而書付取之申聞候御用米ニ候得ハ此方ハ見届ニ

及不申候様ニ被存候尤川切手御登米之役人中被差出候筋此方ハ構

無之筋存候為念孫左衛門方ハ川切手出不申様ニと申遣候

一乃井野森對馬守殿岡村十左衛門河端藤太夫書状来ル并去亥正月ハ

十二月迄之錢相場書頼候ニ不相認させ拙者致與判幸便ニ遣ス

正月十五日

一久世石黒小右衛門殿手代庵原喜右衛門今年始書状来ル去亥歳中銭相場書頼来ル申付置候ニ付拙者致奥印則遣ス

一勝間田町山形屋喜兵衛願出候因州鳥取川端町四丁目橋本屋長兵衛儀線綿商売仕御当地へ前々切々罷越候所右長兵衛走裏仕候間中絶仕候此度長兵衛悴忠四郎申者線綿買ニ參申度旨申度紙類荒芋等持參商売支度旨奉願候私方宿支度申出ル

右之趣遂吟味申候処延享五辰年四月差出候宿屋帳表ニ船頭町舟本屋権右衛門方へ前々參候者ニ相見へ候山形屋喜兵衛舟本屋持候宿屋株去ル西歳今来丑歳迄預り居申候左候へハ前々参来り候者ニ而中絶いたし候者今候間願之通申付候尤參ヶ年不參候得ハ不承届候事ニ候得とも此節渡世無之難儀可致候間勝手次第ニ申付候

正月十六日

一伊達与兵衛殿御家来山平与申者先達而傍輩与致喧嘩不届ニ付追払被申付候由依之同心組之者致借用度旨申来候ニ付石名佐五兵衛金嶋段七兩人遣ス尤手鎖為持遣候申渡相濟川辺御境目迄召連追払書付取之与兵衛御宅ニ致持參置候旨兩人今申聞ル

一愛染寺今届被申出候山門為修覆觀音構中觀音永哥唱之夜分町方致勸化候旨先日御願申上候相濟候ニ付今夕今相廻り申候旨断有之候此間市村番右衛門今右之段町方故障も有之間敷哉之旨相談有之候指支も無之御座候由挨拶及申置候事

一西新町沢治屋五郎兵衛借屋作人左助方去ル十四日六十六部廻国之年頃六十歳計相見候者罷越湯給申度由申之ニ付給させ候所病氣付候由申候而無抛為致志宿候翌日罷帰候様申候へハ氣分勝不申候由

候ニ不西田屋平七宿屋へ遣申候所平七方ニも外客大勢有之旨申差留不申ニ付無抛又左助宅ニ罷帰今一夜差置具候様頼申候依之五人組相談町医阿部周量呼ニ遣申候内病氣指重り相果申候旨断出候ニ付為檢使神田権兵衛川端又六兩人夜中遣遂吟味申候処惣身ニ疵無之弥病死ニ無相違相見へ申候生国武州江戸下谷元龍寺弟子了心と申廻国ニ而從來手形致所持於何国相果候とも国所へ不及御付所御

取置可被下旨手形有之候諸道具等遂吟味申候処おひ之内少々仏道具有之候得共用達申候所も無之候依之町内五人組今一札相取之候上右之趣御用番与兵衛殿へ御伺申上候而勝手次第執置候様申渡ス右道具ハ取置入用ニ宿左助へ遣之尤取捨十七日ニ申渡ス

正月十七日

一江戸大勘者菅沼藤左衛門今旧冬頼遣候大年寄歳暮御祝儀年頭之御祝儀御肴代之ニ義頼遣候所歳暮ニ鮭壹尺宛年頭經節式十宛町惣代ニ鮭三尺右指上候代金都合壹両壹步江戸表へ相廻候様ニと申来ル只今迄ハ倉元大納戸へ納相濟候得共去年ハ御小納戸へ相納り申候ニ付江戸へ差越候様ニ申来ル則大年寄へ申渡近日相調差出可申旨申渡候

一小三打一帖八まけ二帖筆一对墨壹挺右者牢内入用牢番へ相渡ス例年之通也

正月十八日

一橋本町西田屋平七と申宿屋へ廻国致一宿十五日夕泊り申候処病氣ニ付乱心候様有之候其上殊外□□昨十七日四ツ時ニ相果申候由申出候ニ付為檢使神田権兵衛差遣申候而遂吟味見改申候処弥病死相

違無之御座候筈之内改申候得共路錢杯も無御座候仏具少々御座候迄ニ候從來手形致所持奥州日川高場郡不動院門下元覚と申僧之由ニ候何国ニ而相果候共於其所取置呉候様ニと一札故御用所今日御親申上取置候様ニ西田屋平七へ可申渡旨申付ル尤仏具等者平七へ遣ス

一市宮おひて三月三日の十日迄地祭修行依之東西之橋へ建札いたし申度旨建させ候様ニと御用所ニ而被仰聞候旨市村番右衛門江申聞候ニ付其旨大年寄へ申遣ス

正月十九日

一元魚町紙屋善十郎願出候私娘かつ英田郡倉敷角般段屋小兵衛与申者養女貫申候ニ付差遣申度候旨承届ル

一倉敷御代官藤本甚助殿手代長谷川忠八の書状差越去戌歳御困御頼御頼来候則町々触候様大年寄へ申渡相応ニ返書遣ス

正月廿日

正月廿一日

一江戸表の御飛脚到来御用所御出席被成候旨大目付中へ申来り即刻罷出ル

一廻状到来

江戸表の去ル十三日出御飛脚到来殿様至御機嫌能被成御座御前様去ル六日御熱氣被成御座同七日御流産被遊候処同八日の御疱瘡ニ為見候乍然御膳等も宜被召上候処同十三日出御飛脚到来御容躰御勝不被成趣申来候此段可相知之旨被仰出候右之趣同役并支配方へ

も可被相達候以上

正月廿一日 大目附

右御書付之趣大年寄江為知申遣ス尤末々迄不及申聞候

一正月廿一日昼時過江戸表の御徒山田五郎次只今着候処御前様御養生不被為叶去ル十四日九ツ時御卒去被遊候段由来候此段為相知候様被仰出候右之趣同役并支配方へ可被相達候以上

正月廿一日 大目附

裏附上下着用罷出候事
一御用席御出席致登城候処大目付中へ御不幸趣被申聞候町方へ可相触旨及挨拶右御書付之趣相認尤御中陰之間諸事相慎可申候追而鳴物御停止之日數可申触候

一町々自身番申付候様御親申上申付ル

御家中も御徒中昼夜忝度宛相廻り候様被仰付御先手物頭ニも火廻り相勤申候由致承知候ニ付自身番之儀も申付ル

一魚鳥店売鍛冶屋細工之儀先年宝永六己丑年佐竹御前様御卒去砌右

両様一日致遠慮候之旨大年寄の申出候候ニ付急度相触候儀ニも無之候魚町さやし等密ニいたし御家町売候義ハ致遠慮町方も呼はり申候事明日一日差扣候而尤ニ損候鍛冶屋細工も右同断候しとみなとおろし申候儀先格無之候故不及其儀候

一御前様御卒去ニ付来月三日迄鳴物高声御停止之事候普請者今日の三日之内可為無用候

右之趣同役并支配方へ可被相達候以上

正月廿一日

右御触書御徒目付持参止而大目付所へ差戻し候

右之通惣町中相触可申旨触書大年寄へ差遣ス

一同心組三軒屋番人牢番人江も右之両御触書申渡ス

一廿一日当日為御悔御帳付口裏附上下着用尤御家老御年寄中御奏者番中へ相廻り候

正月廿二日

一大年寄町医師御用達町人五人為御悔為御用懸り相勤候様申付ル裏付上下

一町々年寄共私宅迄罷出可申哉と伺ニ付先格も有之候ハ、可相勤旨申達ス

正月廿三日

一御用所御出席

一御烈座（マ）ニ而申上候ハ町方自身番申付候節折申候儀も先格改申候処宝永丑年御前様御卒去之節も節折不申常之通ニ而罷在候先例故其通仕候鍛冶細工魚鳥売候儀ハ御触翌日一日致遠慮候旨先格相聞候ニ付昨日一日相止居申候御家中へ如何可仕哉と御窺申植候処町在江売候儀ハ明日ハ差免御家中売候儀致間敷候旨被仰渡候ニ付大年寄へ申渡ス

一大目付中被申聞候御家老主計殿思召若殿様五十日之御忌服御請可被遊筈左候得ハ鳴物高声御停止相止申候五十日之内ハ而も諸事相慎候様何茂相心得可然思召之旨

一月代剃刀申候儀承合申候処先年「諸士ハ十二日役人ハ十日月代致不申候様相聞候最早今明日ニ而十二日相済候由大目付中挨拶有之

一戸川町佐和屋茂助坂口屋半右衛門願出候ハ半右衛門古道具屋取売株不勝手ニ付相止佐和屋茂助古道具取売仕度候旨請人同町佐久屋与三兵衛相立申候申出候間願之通承届ル

一米相場 御藏米七拾七匁 中買書付出ス
町米七拾四匁

一小姓町西川屋重三郎宿切手泉村形屋仁右衛門手代庄右衛門与申者宿仕候旨

一魚屋共鳥魚御家中売候儀致間敷町方不苦敷乍去高呼走り候事ハ差扣可申候旨昨日申達候魚町へも可被申渡被存候然者外町々ニも

「又ハ播州網干之者杯鯨鯨節」 家中持廻り又ハ「町方呼走申儀」可有之哉と被存候此段心得違無之候様可被申付候以上

正月廿四日

一江戸御奏者番中ハ大年寄共歳暮御祝儀指上候披露相済御喜色思召候旨書状来ル大年寄月番齊藤孫右衛門へ其段申渡ス御奏者番中右御札相廻候由故是御中陰ニ候間右相済候後相勤可申旨及差図候一安岡町綿屋吉左衛門持牛相煩「取捨候義斷出候故申付尤此節候間隨」隱便ニ取捨可申近辺ニ而皮なとはき不申様穢多へ可申聞候由申渡ス

正月廿五日

一乃井野森对馬守殿川端藤太夫岡村十「ハ書状来ル戌歳御困糶御払相成」 町方望人者来月三日迄ニ入札乃井野江持參候様相触候可申候頼来則大年寄「申遣ス相応及返書候

正月廿六日

一 下紺屋町原田屋利助大坂心齋橋京屋源三郎方^五就用事罷越申度旨
断出ル依之万紛失又守者坏之義罷越候ハ、相止可申候自分用事ニ
而罷越候ハ、不苦敷候間大年寄方ニ而遂吟味候処自分支ニ付罷越
候由申ニ付勝手次第申付尤往来諸事相慎罷越可申旨申渡ス

正月廿七日

一 御用番与兵衛殿^六罷出候様申来罷越候「銀札引替差支ニ付諸色
高色ニ而末々者致難儀趣相聞候」^一「付可申旨被仰聞候依之先達
而相触候得共又々書付」^一「米并諸色付致高直時之相場」^一
「致商売候旨先達而相触候此度又々米塩油等高直ニ売候^者有
之末々之者甚難儀之趣相聞候弥高直」^一「致間敷候忍目付之者差出
候間自」^一「於相背^者急度可申付候以上

正月廿八日

一 御用所御出席無之候
一元魚町玉嶋屋安右衛門儀去ル西六月御願申上大久保出羽守様御領
分久米北条郡里公文村平四郎と申者引請出職仕罷在候又候来丑歲
迄五年間罷越居申度旨願承届ル
一二階町三保屋十右衛門借屋橋屋清左衛門願出候御代官石黒小右衛
門殿御支配木知ヶ原村松屋庄次郎弟伊兵衛当子貳拾三歳ニ罷成申
候私縁家者ニ御座候今後私引請養育仕申度住宅之儀奉願候旨承届
ル

一 小性町西川屋重三郎岡山下片上町大和屋清右衛門代徳三郎醬油掛
取ニ昨日参宿仕候旨書付出ス

一 中ノ町木山屋与三右衛門宿切手出候播州網干余陸屋惣五郎八百屋
物売ニ参候宿仕候旨

一 同人宿切手出ス播州網干鍛冶屋惣十郎手代善七郎鯉節おろし売参
宿仕候旨

正月廿九日

一 御用所御出席有之候

一 此間銀札場引替少々遲滞候ニ付諸色高直別而米高直ニ而末々者致
難儀候旨追々相聞申候ニ付大年寄申出候者米貳拾石計八拾目相場
ニ而被下置候ハ、小売場いたし老舛以下之買手遣度申出候故今日
御用番与三兵衛殿^五御内意申上候勘定奉行中^五及相談米貳拾石八
拾匁相場受取候筈ニ申合右之段大年寄齊藤孫右衛門申渡シ明日於
御藏受取候様申付ル

一 於御列座銀札引替滞町方殊之外困窮仕候旨及御沙汰候

一 林町山形屋伝左衛門家屋敷北側ニ而表口六間式歩五厘裏行拾五間
五尺御役老間半役東隣ハ馬持与九郎西隣吉見屋助兵衛ニ而御座候
右之家西口四間裏行十五間五尺御役本役之所此度同町鍵屋安左衛
門取次ニ而質物ニ書入銀札七百目当子ノ十月切借用支度奉存候旨
承届ル本証文

一二階町鳥屋左助備中松山下町慢頭屋忠八方^五鳥売買ニ来月二日罷
越往来共二三日逗留罷帰り申度旨

正月晦日

一 米三拾俵齊藤孫右衛門蔵へ罷出請取今日^五孫右衛門宅ニ而致小売
候尤老舛以下直段八分宛町々裏借屋末々相知申候様ニ大年寄^六

町々江廻状ニ而為知候様申段ル

一久世石黒小右衛門殿御代官所西北条郡寺和田村其外村々連判ニ而

銀札引替指支候而難儀候旨訴状差出候ニ付手代庵原喜右衛門ハ添状ニ而来ル御用番与兵衛殿江紙面之趣申上候一通及返書委細之儀

銀札場奉行中ハ返書有之候右請方役人御座候間自宅委細及度候間

一通之返書遣候段申遣ス扣状留ニ有之候

一桶屋町源右衛門借屋八兵衛二宮村之内長歌与申所町々作荒所畑耆ケ年不免ニ被

成私作廻仕度今後式間五間之小屋右場所仕家内式人男老人引越

申度町内人別御除可被下候旨願出ル

一福渡町治助借屋善六家内三人男耆人右同所江引越願出候

一戸川町大工伊右衛門借屋市助家内四人男三人右同所江引越申

度旨願出ル右之三人共同様願ニ付地方願も承届候間町分も承届ル

二月朔日

御用番 佐々木内膳殿

大目附 鈴木喜右衛門

町大年寄月番

藏合孫左衛門

一中奥目付中ハ手紙今八半時御前様御法号泰安寺江被為人候ニ階町御門ハ堀端小嶋此母前通西大番所湯田町御通被成候御先払羽織ニ

而差出可申候旨申来ル尤町分掃除申付候失礼無之候様申付ル御先払耆人ニ而済可申哉と申来候へ共兩人差出し候無滞相済

一船頭町田原屋六兵衛急用御座候ニ付備前岡山下之町田原屋与右衛門方江罷越八日計逗留罷帰申度旨承届ル日延断申出ル

二月二日

二月三日

一御出席有之候

一鳴物御停止今日迄ニ而済左之通伺申上申付ル

一町方自身番今日迄ニ而相止ル

一魚屋共御家中江商ニ罷出候義も今日迄ニ而明日ハ勝手次第

一〇〇〇非人小歌三味線引相廻り候義町分明日ハ不苦敷御家中ハ来

月三日迄罷出申間敷候差留置候尤御用所御「」

一座当今度御不幸御銀致頂戴候「」御百ケ日分ハ一所ニ被下置候

様申出ル失格逐吟味申候処光円院様御不幸之節御百ケ日分半減被下候由依之右之通御窺申上相済勘定奉行中へ申談ル尤御七廻忌迄可被下候夫過候而ハ不被下候旨此度申聞ル

一大坂ハ相廻り候訴訟御用所ハ御渡被成候池田伝之丞殿知行所播州揖東郡新宮町松屋甚藏ハ当町船頭町和泉屋伝藏新魚町林田屋治右衛門相手銀札三百五拾目去亥十一月取替滞候旨訴訟之趣相見ル

右大年寄へ写相渡六十日切ニ筋立候様申渡ヌ 二月一日訴訟日付

一鍛冶町京町作人才吉借屋鍛冶右衛門私儀不勝手ニ付此度備中国奥郡成知村幸七与申者方へ鍛冶奉公ニ罷越申度当二月罷越十二月罷歸り申度旨承届ル

一 材木町三家屋猪三郎今林田村茂八五出入有之去年中訴訟差出候質
田地相渡候歟無左候ハ筋立候様申渡置候内々取嘸濟口証文出入ス米
五拾八俵代銀札壹貫貳百七拾目請取出入相濟候旨一札出之候

二月四日

一 御用所有之不時御出仕

一 殿様去月十九日御熱有之同廿二日御疱瘡御見五被成候至而輕御
容躰之旨廿四日出飛脚申来候旨依之御機嫌伺之御帳付ケ尤羽織袴
ニ而罷出ル外ハ不相勤候

一 町大年寄ヘ右之趣為相知候是又御家老ヘ御年寄中可相勤申達ル先

格茂無之候ニ付御用番内膳殿江御窺申上候勝手次第旨被仰聞候

一 大年寄三人御祈禱申上度旨伺之候尤先格も有之由申之候ニ付御

用番御伺申上候処甚輕御様子申来候昨夜八幡稲荷ヘ御祈禱申付候

御家中も未御祈禱不申上候間先承置候追而差図可有之由被仰聞

ル右之段大年寄ヘ申達ル

一 勝間田町かと屋太郎右衛門倅甚助儀種村紋太夫方ヘ出入奉公ニ罷

越申度旨萩野加兵衛と改号仕度候由承届ル

一 小性町田戸屋宗十郎宿切手筑前遠賀郡山鹿浦伝十郎手代与八郎例

年通茶碗おろし売昨日罷越宿仕候旨

二月五日

二月六日

一 小性町西川屋重三郎宿切手備前岡山山西大寺町熊崎屋源兵衛手代久

六例年之通元結売昨日參宿仕候旨

一 稲野屋徳左衛門商売躰ニ付大坂廻所町松屋甚兵衛方ヘ明七日罷越

往来廿五日計逗留ニ而罷帰申度候旨書付出ス

二月七日

二月八日

一 御用日御出席有之候

一 橋本町南側ニ而後藤屋長右衛門家屋敷表口四間裏行拾七間御役老

間式歩五厘西隣者墨茶屋長三郎東ハ土手ヘ通筋ニ而御座候朝元屋

藤次郎取次ニ而銀札三百五拾匁当六月切巻ケ月式歩之利足質入ニ

而借用仕申度旨

一 中ノ町福田屋吉右衛門借屋六兵衛并娘てん林田上ノ町八助妻貫引

越申度旨親六兵衛儀も八助役介引請可申旨ニ付罷越申度右式人町

内人別除申度旨願出候在分承合承届ル

二月九日

二月十日

一 御用番佐々木内膳殿被仰渡候

殿様御疱瘡益御快御順痘之由去月廿九日出候飛脚ニ申来奉恐悦候

町大年寄大庄屋共御祈禱差上申義先達而伺候御家中も無之故差留

置候得共江戸表ニ而御家中も御祈禱申上候旨申来候間先格も有

之事情間勝手次第御祈禱指上可申旨被仰渡依之大年寄蔵合孫左衛

門呼出シ先格之通御祈禱仕御札差上可申旨申渡ス尤大年寄并惣町

中も差上候先格候間供物ハ不及差上候旨申聞ル右徳守宮大隅宮ニ

而御祈禱仕神主も直ニ寺社取次中へ指出候旨申談ル

二月十一日

一 今晝寅刻安岡町出火早速静申候ニ付火本不能出候致吟味候処作人

理助借屋治助与申者炉の出火疊式疊計焼「」早速町内ニ而消留
申屋根ニ燃上り不申候旨乍去不念候儀ニ付治助追込ニ申付置候尤
右之趣御用番并大目付中へ御届申遣ス

一銀座役人平野七郎右衛門与申者伯州倉祥江罷通り候由御伝馬式疋
先触到来申候旨大年寄申出ル無滞差出候様申付ル是又御用番江大
目付中へ御届申遣ス

一勝間田町浜田屋長右衛門願出候私忰次兵衛当子式拾九歳罷成候林
田上ノ町与藏後家養子ニ貫申候遣申度旨在分承合申付ル

一安岡町村永屋甚右衛門妻とく忰吉十郎同忰甚吉同町神目屋九郎兵
衛借屋長八以四人四国遍路ニ罷出百日計逗留仕度旨

一堺町三栗屋与三兵衛願出候私忰万吉子式拾七歳罷成候備前国赤坂
郡周迎村忠助与申者方へ養子貫申候ニ付遣「」町内人別除

一播州龍野箸屋平四郎忰新藏尺長伽羅油売申候播州姫路和泉屋孫兵
衛小間物嵐売右兩人宿仕候旨勝間田町かと屋太郎右衛門宿切手出
ス

二月十二日

一戸川町ニ而二丁目福永屋藤左衛門家守市兵衛断出候私借屋作人十
兵衛家三人此度鉄砲町畑利助屋敷へ引越申度承届ル人別除

一堺町土佐屋庄三郎私渡世難送ニ付播州大坂北浜大川町錢屋七郎右
衛門方江当子二月の来ル辰歳迄五年切之奉公ニ罷越申度願出承届
ル家屋敷之義ハ三津屋忠七家守同町山北屋伊兵衛江預ケ置罷越申
候

二月十三日

一御用日御出席有之候

一大年寄三人并惣町の指上候御祈禱御札徳守宮神主大隅宮神主の於
御城中ノ口指出候先年御厄年御札差上候節者神主の直ニ寺社取次

江出候由右之趣川口小兵衛江及相談申候処願主の請取差出可申筋
ニも被存候由ニ付大目付所及御内談御用番内膳殿へ委細御伺申上
候何れニ而不苦敷候得共御祈禱町奉行の被申渡事候得ハ拙者請取
今日御精進日ニ候間勘者所へ先預置可申候追而御奏者番中へ於爰

許差出候敷又ハ江戸表御奏者番へ遣候由も御差図可有之旨ニ付於
中ノ口拙者罷出神主の請取小遣ニ為持勘者所へ遣預ル已後ハ大年
寄受取拙者相渡可申事ニ被存候差懸り候ニ付右之通ニ而相済

一來ル十八日梅香院様三十五日御忌ニ付「」泰安寺一夜別時御法事
御執行被仰渡候此段可相知旨被仰出候間廻状来ル依之町方十七日
昼時六十八日自身番相動火本等念入可申旨以書付申渡ス

二月十四日

一今日座頭共罷出候今後御不幸御布施被下置候并御百ヶ日分序而頂
戴致度旨願申候ニ付此分半減ニシテ序而可遣之旨申聞御七廻忌迄
可被遣候夫の後者遣不申候旨申聞惣座頭共申候御前様之義故永々
御供養有之節ハ頂戴可仕申候ニ付先年光円院様御七廻忌迄ニ而其
段ハ不遣候ニ付先格有之申候故右之通之旨尤光円院様源泉院様御
前様ニ候得ハ同様事候旨申聞候処其俣御代過御役介様之義ニ存候
ニ付右之通御座候得共今後御前様之義ハ殊未御三年も相立不申候
得ハ只今被仰渡候而ハ承知難仕旨申候左様存候得ハ上江窺不申而
者何れ挨拶も難申間暫相役可申若急ニ相済不申候得者一兩日も返

留可參候左様ニ而却而迷惑可申候間承知仕候様段々配當場共申聞候所承知仕候旨申之候依之アリ書付取可申と申候得とも書付者難仕申候由達而申度候ハ、書付致可申哉又事書候度申悪口ニ而も可申哉難計必竟御不幸ニ付銀子等も被下置候一統慎もいたし罷在候時節座頭共騒動いたし而も不宜候ニ付先承知いたし候へハ書付も難取候間重而御三廻忌之砌成とも得与申聞候而可然ニ付致其分書付取不申候尤御七廻忌迄と申事承知ハ致申候由大年奇歲合孫左衛門罷出申聞ル依之御布施銀相濟遣候

御不幸分銀

銀尙間百四拾式匁式分五厘

人別式百三十七人

御百ヶ日分半減

式拾目配當場兩人役料
拾匁 筆墨紙書役共

右之通小頭部屋頭罷出立会相渡ス

銀高合老貫百七拾式匁式分五厘相渡ス

二月十五日

一〇〇〇御廻米番昨日迄積切候申出候ニ付番人相止候様大年寄へ申遣ス

一安岡町出火人治助追込申付置候今日も差免候段大年寄へ申遣ス尤御用番へ大目付中へ御届遣ス

一三丁目浜野屋宗助私父彦宗儀大坂本町小橋屋四郎兵衛方江商売躰ニ付十六日出立罷越往來三十日計逗留仕度旨

一元魚町漆屋宗左衛門大坂本町小橋屋四郎兵衛方江商売躰ニ付十六日出立罷越往來三十日逗留仕度旨

一坪井町福会屋伊兵衛私義商売躰用事御座候ニ付京都四条通堺町西へ入町大和屋御兵衛方迄往來三十日逗留明十六日罷越申度旨

一伏見町辻屋六郎右衛門大坂本町木村吉五郎方へ古手買ニ罷越申度明十六日出立往來廿日計逗留仕度旨

一下紺屋町原田屋馬七断出候私兄理助儀先日願申上大坂ニ罷越候処立願御座候ニ付伊勢參宮仕度十日計追願差上呉候様申越候承届ル

一船頭町横渡守市郎兵衛三左衛門の例年之通舟御繕見分願書出ス其旨御用所へ可申上事

一二步中買目附仲間之内の老人申付度旨ニ丁目若本屋勤兵衛ニ申付度旨申出ル

一三船孫八先達病氣候処今日も出勤

二月十六日

二月十七日

一石名左五兵衛中山市左衛門御法事ニ付西大番所脇差出ス

二月十八日

一室井作右衛門金崎団七右同所差出ス

一細工町上紺屋町下紺屋町飢人四十人計有之由大年寄方ニ而飢不申様執計可仕之旨申出ル

一西新町作人清兵衛後家願私倅佐助儀伊達与兵衛殿江御出入奉公相勤申度奉存候町内人別御除可被下候野山政次与改号仕候旨

二月十八日

一上紺屋町細工町下紺屋飢人四十人計有之由救方之儀大年寄存寄申出ル

二月十九日

- 一御疱瘡御壽之上使并御酒湯御祝義相濟候為御怡御帳付ク
- 一大年寄町医師御用達例之通為御怡今日相勤ル
- 一美濃職人町長右衛門妻姉乱心女去冬就願伺之上牢内拜借為仕候賄之義是町内ハ賄候得共甚困窮之町内ニ付難儀之趣去冬ハ茂申出相款申ニ付牢「」賄遣可申哉之旨方窺候処後之年例ニも可相成其上賄遣候筋ニ有之間敷御用番内膳殿彼仰聞候元米御家中へ奉公杯致居申候女ニ御座候乱女懸走り申候而往懸而前主之義杯悪口法外之儀ニも御座候故姉尊長右衛門与申者へ預置候得とも此者其日過仕候躰之者ニ御座候得ハ必至之難儀供々及飢申候故牢家拜借申付候右仕合至極難義仕候惣牢舍人給残り分ニ而賄遣申度旨申上候左候ハ、後之例ニ相成不申候様ニ執計可申旨相濟右之委細大年寄藏合孫左衛門へ申渡急度牢屋賄ニ申候ハ無之候紛米等ニ而給わせ可遣候旨申渡ス尤牢番人江申渡ス
- 一新魚町村出屋治助柴田喜市ハ米借用返濟滞申候ニ付埒明候様月切申付置候急相濟難申五十日之日延相願出ニ付承届右日数之中急度筋立可申旨申渡ス
- 一今津屋ハ断出候久世支配所初摺米郷藏へ追々付越申候旨申出候村々員数書付差出可申旨申渡ス
- 一船頭町田原屋六兵衛備前岡山往来十六日計逗留罷帰可申旨
- 一西新町樽屋勘右衛門断出候私悖和助先達再三奉願候通千ヶ寺へ罷越候正月中ニハ罷帰可申候処当夏中逗留仕度候由申越候六月中ニハ罷帰可奉存候日延奉願候旨

一西新町年寄伊崎屋十左衛門年罷寄近年病身ニ付役免願承届ル

- 一跡役悖長左衛門江申付度旨大年寄申出ル長左衛門へ年寄役申付ル
 - 一安岡町鍛冶屋植左衛門借家勘七私妹つや久米北条郡堺和谷河内村九郎左衛門妻貫申候差遣度旨人別除本証文出ス
 - 一上紺屋町北側ニ而作人理助家屋敷表口式間裏行拾式間御役式歩八厘六毛東隣ハ威徳院西隣者作人七助ニ而御座候理助義去歲相果申候七助預り居申候旨七助ハ願書差出候五人組相談之上ニ而銀札七拾目相究町内作人七郎兵官壳渡申候旨右代銀者在方ニ罷有候理助悖江遣申候由吟味之趣申出候ニ付書附等念人取置可申之旨申渡ス
 - 一式步中買共ハ請人取帳面差出候此帳役所算筒へ入置候
 - 一新魚町かと屋助三郎南側家屋敷表口六間半裏行拾式間土蔵一ヶ所五年已前ニ申十一月村出屋治助取次質物ニ書入銀札壹貫五百目借用仕候今度元利相濟家屋敷請返し相濟候旨断書差出候ニ付本証文戻ス
 - 一町方かたり申銀札杯取候者徘徊様相聞申候ニ付致吟味候事
- 二月廿日
- 二月廿一日
- 一町々飢人救方之義追々申聞候
 - 一西新町稲屋伝助願私姪役介つね義林田村鍛冶屋九兵衛方へ養女ニ遣申度旨町在承合承届ル
- 二月廿二日
- 二月廿三日
- 一座頭共御疱瘡之御祝義頂戴致度旨申候旨配當場ハ申出候ニ付御用

所申上候先格御吟味被成候処前々も被下候旨候ニ付被下置候旨御用番内膳殿被仰渡候

一町々飢人式百三拾人計も昨日迄御座候旨訴出候ニ付先格も御座候故町中の少々改差出させ救遣候様大年寄共へ申付候之旨御用所へ申上ル大目付中立も申達候

二月廿四日

一町方触書出ス近来町方へ謀言申銀札掠取候者致徘徊候由相聞候ニ付町方相触可申旨昨日御用所御窺申上候今日大年寄へ申渡ス委細触書ニ有之候

一新職人町後藤庵極顯出候私妹子よ林田村小錢屋源右衛門方へ養女遣申度旨承届ル

二月廿五日

一牢舎人諱賢不快候由申出候ニ付町医師申付遣薬給わせ候様ニと大年寄へ申遣ス尤右不慎候段御用番へ御届申遣ス山口東「罷越候

二月廿六日

一京町戸屋若右衛門借屋居申候作人太兵衛家内四人共ニ当月七日与風罷婦相見へ不申候遂吟味候処家内道具も無御座候困窮ニ付右之通ニ相聞候町内何ら不埒成義も無之旨

二月廿七日

一林田屋膳兵衛元魚町西側ニ而私家屋敷表口三間裏行拾七間但老間役也北隣者豆腐屋治右衛門南隣者舛屋六三郎ニ而御座候右家屋敷五人組相談之上代銀札四百目ニ相極ニ階町糶屋惣兵衛立壳渡申候願之通被仰付可被下旨

二月廿八日

一御用日御出席有之候

一町方困窮諸商壳無御座候難儀仕候銀札場引替差支申候故他領の壳物出不申候質物杯も持參不申他所へ計差置候様子ニ而殊外質屋も迷惑かり申候旨御用所へ申上ル

一勝間田町山形屋喜兵衛切手出ス因州鳥取川端四丁目橋本屋忠四郎

右御願申上候通此度紙荒壳罷越候旨私宿仕候旨書付出ス

一船頭町弥五郎顯出候私娘きよ林田村次助と申者妻ニ貫申候差遣申度之旨在分聞合申付ル

二月廿九日

一中ノ町乙後屋助左衛門悴重治就用事大坂大川町金岡屋伊兵衛方へ四十日計之逗留ニ而罷越申度旨

一今津屋伊右衛門久世御代官所西北條郡井村附出候糶米式百拾六俵郷藏相納私取計候旨書付出ス

一米六拾俵公領宮尾村岡出屋勘左衛門与申者の藏合孫左衛門へ申込川下ケ切手出呉候様ニ申来候如何可致之旨小頭平太兵衛ヲ以内意申候ニ付相考候処此節川留候得ハ藏合の川切手出候筋無之候尤公領米と申候得ハ猶又他所米ニ此方の切手遣可申訳無之候間当時ニ而ハ川留候故拙者印形ニ而川下ニ相成不申候由申遣候切手指出シ申問敷候旨申聞ル

一久世御代官石黒小右衛門殿手代塚田良助と申仁就御用大坂へ罷越罷婦候ニ付今夕当町ニ而宿申付候処境町ひ屋差合有之依之馬指の大年寄へ申通シ人遣シ吹屋町北村屋へ宿申付候処殊外見苦敷宿

ニ而難致止宿候由ニ而町役人ニ直申度旨申候間町内年寄も旗宿ニ付候執計難申付由ニ而蔵合孫左衛門罷越「」申候哉之旨申候故下代名面承此方へも届上罷越可申旨聞候依之承合候処塚田良助与申者之由申来候ニ付孫左衛門罷越及対談候而止宿箸家ニ而難義之旨候ニ付舟頭町今津屋伊右衛門方へ宿申付候旨右之義ニ付早速町役之者も罷出付申候ニ付旁拙者方へ良助の書状□残置被申候度々御城下通行いたし申候ニ付已後宿差支不申様ニ申付置吳候様ニと申越候返書ニ申遣候ハ当町旅籠屋数少ニ而殊困窮宜家杯も少御座候差懸り御泊ニ而ハ御差支も可有之と存候旗籠頭へ委細申付候間右之者ニ御相談御止宿可被成候差懸り候而ハ旗籠屋少故差合申候義も可有御座候と存候旨旨遣ス

二月晦日

一東新町紺屋長次郎願吉野郡小野村次郎左衛門悴善吉与申者私一家者ニ付私引請住宅為仕度旨願承届ル

一京町若松屋善左衛門断書私母去ル戌十月御断申上悴次兵衛為見舞大坂ニ罷越居申候処今一年逗留仕度旨申越候来丑二月迄滞留之義奉願候旨

三月朔日

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目附 市村番右衛門

町大年寄月番

玉置忠兵衛

一京町若松屋善左衛門大坂ニ悴次兵衛方へ母罷越申候ニ付私義も往来廿五日逗留ニ而罷越申度旨書付出ス

三月二日

一御用所御出席有之候

一町方飢人四百人計有之旨集米百俵計集夫々一日ニ付巷合宛遣候旨執計年寄役之内四人申付世話為致候

三月三日

一節句札御用席御延勤無之候間隠祝一統不相動候

三月四日

一諸士総出仕御列座ニ被仰渡有之御書付有之候御勝手御指支候ニ付月渡米之内割合之引米被仰付候委細在方日記ニ留ル略之候

一小性町西川屋重三郎願出ル備前岡山西大寺町熊崎屋源兵衛元結商売仕手代久六每度差越宿仕候処今般源衛衛相止手代久六中嶋屋之久六と改此已後元結商売ニ罷越只今迄通宿支度旨承届ル

三月五日

一二階町嶋屋藤吉播州加古川嶋屋伊八方ニ罷越度旨来六日罷立往来十日計逗留

一新魚町布屋伊助家内五人四国廻路ニ罷出申度六日罷立往来百日計逗留支度旨

三月六日

一町々々讚州金比羅詣願書出ル

一長門屋惣兵衛買物用事ニ付京都三条大和屋五兵衛方へ廿五日計逗留ニ罷越度旨

一 中ノ町佐渡屋平四郎願私借屋居申候北嶋伊八殿役介人福田嘉学此度勝手ニ付林田上ノ町惣兵衛後家持家へ引越申度旨在分承合承届ル

一 錢相場老刃ニ六拾六文通用罷成候旨大年寄申来候

一 殿様御抱瘡相濟候為祝儀御領分他国他領座頭警女^江被下候

銀高八百拾三匁 人数貳百四拾五人

三月七日

一 福永屋藤十郎商売躰用事ニ付播州兵庫磯之町松屋七兵衛方へ明日罷越廿日計逗留仕度旨

日罷越廿日計逗留仕度旨

一 牢舎人諦賢時癢之様相煩以今相勝不申ニ付先達山口東水菓給させ

其後中嶋宗元菓給させ候得共耽無御座候ニ付今朝^ハ川崎道廓菓ニ

致候旨申出ル

一 玉置忠兵衛申聞候牢舎人療治之義内々ニ而御目見仕候者ハ不能出

様申候相聞候旨申ニ付先役差図可有之旨申遂吟味候処先年巳九月

太田定石衛門奉行役之御覚書有之候以書付申渡置候様^口相見候惣

町医師順番為相動可申候其内御用も相達候面々除之候渡部玄暫川

崎^龍庵松山秀軒松井宗甫其外ハ療治申付候乍去御目見^江仕候者ハ

先罷置可申候其節ニ至奉行所及差図遣可申候間以書付被申渡候委

細覚書帳記有之候

三月八日

一 御用日御出席有之候

一 御用所^ハ被仰渡候此間風立候世上茂火事沙汰相聞候間火本念入可

申付旨被仰渡候依之以書付大年寄へ申渡ス風烈敷候間火本念入可

申候世上就困窮胡乱成者も可致徘徊候間町々申合夜廻り等致可申候尤先達而申付候通貫拔夜四ツ時切^ノ往来改通行可為致候右之趣申渡候

一 座頭警女^江御抱瘡之御祝儀一昨日遣候旨以書付御用所へ申上ル

一来十一日光円院様十七廻御忌ニ付於泰安寺御茶湯被仰付候旨御為

御知有之候大目付中^ハ廻状来ル右ニ付町方当日火本念入諸事相慎

可申旨以書付申渡ス尤自身番ハ不申付候

三月九日

一 桶屋町大坂屋伊右衛門大坂北浜鍵屋伊兵衛方へ廿四五日逗留ニ罷

越申度旨

三月十日

一 町人別帳出来大年寄致持參候

一 吹屋町中市屋善七商売ニ付大坂北浜鍵屋伊兵衛方へ廿日計逗留ニ

而罷越度旨

一 式步中買馬持共^ハ請状帳面差出候御用筆筒ニ入置候

一 町医師名面書付帳巻冊御用筆筒入置候

三月十一日

一 座頭警女^江被下候銀子受取証文致印形遣之候

三月十二日

三月十三日 御出席有之候

一 殿様御順快被遊御床上之御祝儀去月廿九日相濟候ニ付為御悦来十

六日御帳付候之旨御奏者番中^ハ申来候依之大年寄例之通可相動之

旨申遣ス

一町惣人別改帳機能差出候尤目録東西之式冊差出候先格之通相認郡代所へ相廻ス

美作国津山城下町各三拾三町人別覺

一六千三百老拾六人 西北條郡西式拾七町分

内

男 三千三百三拾式人

女 貳千九百七拾式人

僧 貳人

山伏 八人

尼 四人

社男 三人

神子 貳人

座頭 三人

一千六百拾四人 東南條郡林田六町分

内

男 九百貳拾老入

女 六百九拾式人

警女 老入

町惣人別合七千九百四拾人

宝曆六丙子年

正月改担当歳分

内

男 四千貳百五拾三人

女 三千六百六拾四人

僧 貳人

山伏 八人

尼 四人

社男 三人

神子 貳人

座頭 三人

警女 老入

右者美作国松平越後守津山城下町惣人別相改候処書面之通御座候以上

宝曆六丙子年正月

松平越後守家来

井上弥三兵衛

無宛所

右之通帳面仕立郡代中江相渡ス御領分迂人別帳ハ郡代方ニ而仕立有之先格之由

一京町加茂屋伊右衛門表御堀ニ足代おろし堀修復仕度旨書付出候御用所申上ル勝手次第申渡ス

三月十四日

一□□□非人数大年寄共ニ而遂吟味候旨書付為見申候尤上江御沙汰申先格無之候

百七拾八人内 (男九拾三人 女八拾五人)

野伏拾拾四内男九人
女五人

惣合百九拾式人

三月十五日

一 錢相場六拾七文通用立替候旨大年寄申来ル

三月十六日

一 殿様御床揚御祝儀去月廿九日被為濟ニ付右為御悦今日御帳付ク諸士出仕御用所御悦相動ル

一 於御列座御用番兵右衛門殿被仰渡候銀札引替相滞候ニ付正金銀錢内々通用致候者有之候様ニ相聞候近日ハ無滞引替候様被仰付候間正金銀通用堅停止ニ可申触旨被仰渡候委細勘定奉行江相談可致旨依之天野郡太及相談左之通ニ相触候

兼而正金銀錢通用停止ニ申付置候処近来銀札引替指支有之候故内々ニ而正金銀錢遣り取致候族有之様粗相聞候是迄ハ其分致用捨候来ル十八日ハ引替指支無之様ニ被仰付候依之正金銀錢ハ内々ニ而も通用之儀堅停止ニ申付候十八日已来若相背者有之候ハ、吟味之上智ヲ可申付候心得違無之様ニ相守可申候正錢内々取遣り致候上目付之者へ致佗言相濟候儀も有之後日ニ相聞候ハ、縦年月を経ル共格別ニ重キ科ニ可申付候兼而此旨相心得可申候且又諸色之儀是迄ハ格別高直ニ相聞候へ共右之通銀札場引替指支無之上ハ直段引下ケ時之相場ヲ以正路ニ商売可致候
右之趣惣町中末々迄念入可被相触候以上

子三月十六日

一 上紺屋町七兵衛後家同町北側家屋敷表口三間半裏行拾式間但し御役半役也西隣ハ作人与三右衛門東隣ハ作人七助御座候右之家代銀百六拾目相極町内熊屋平左衛門売渡申度旨

一 西新町友屋利右衛門大坂大川町金岡屋伊兵衛方へ明十七日罷越往来十五日計逗留罷歸申度旨

一 福福町魚住屋甚之丞借屋居申候作人伊兵衛家内三人清水車治長屋江引越申度旨承届ル

一 昨十五日役馬見分小頭石名平太兵衛部屋頭川端又六大年寄差出シ先格之通見分相濟帳面毛付等差出ス

三月十七日

一 錢相場老奴ニ六拾八文通用立替候旨

一 諸賢病氣殊外勞疲ニ相見候故人参□入相用度旨道廊申候ニ付□□
□□人参老分宛明日入用候様申渡ス

一 橋本町蒸茶屋長三郎借屋佐久間主計殿御家来福井安左衛門借宅為致申度旨承届ル

三月十八日

一 御用日御出席有之候

一 諸月番被召候於七間廊下御用番被仰渡候先達而殿様御庖瘡御順快之御祈禱被申上候御満悦ニ思召候旨御意趣被仰渡候〔朱書〕
記相改申候処何方へ動不及旨相見申候已後為御断〔去ル巳年先格日〕

右御礼ニ相廻り可申哉と承合申候処御月番計相動可然旨大目付中
被申候故主計殿兵右衛門殿御兩人江相動ル

一 於御列座大目付立会被仰渡候先達御庖瘡御順快之御祈禱大年寄并

惣町申上御満悦ニ思召候此旨御用所聽祝之趣可申渡旨被仰渡候
大年寄月番玉置忠兵衛呼出右之段申渡ス

先格之通外相勤候ハ不存旨申渡ス
拙宅へ三人共ニ御礼ニ罷出候

一入牢諦賢病氣ニ付川崎道廓□治人參巻分宛入相用候旨御用所申上
ル

一惣町人別相改申候御家中ニ中間奉公ニ罷出居申候者共前々改之
節ハ町人別ニ入居申候処去ル午歳改之節先役太田定右衛門差因ニ
而町人別除申候ニ付今後も午歳格ヲ以帳仕出候得共此義ハ前之通
町人別へ入居申候筋宜奉存候一季奉公之儀ニ御座候得ハ出入共ニ
願も不仕候左候得ハ何時人別外ニ相成申候事も相知不申候縦町人
別ニ入居申候而も変儀御座候節ハ主人取計之儀ハ御定法も有之儀
ニ御座候得者変儀節ハ主人存寄次第之義奉存候主人暇遣候砌町内
人別放申候人御座候而も出生ニ町内へ引請候義も難仕御座候旨申
上候御用所御評儀有之尤ニ候間前々之通ニ家中ニ奉公相勤居申
候而も一季勤之者男女共ニ惣町人別ニ入置可申旨被仰渡後日御用
番佐久間兵右衛門殿被仰渡候尤大目付月番市村番右衛門へ右之段
申達ル

右之趣大年寄玉置忠兵衛へ申渡ス已後右之通帳面差出可申旨申達
候尤若堂奉公又ハ出入奉公等致候者ハ人別先格之通相除候御直中
間奉公致候者人別除候妻子ハ多ハ其兄弟又ハ親類之人別入町人別
者多有之候中間等ハ妻子ハ無之立候事歟と被存候

一米相場 御蔵米八拾目 中買書付出ス
町米 七拾七匁

一元魚町河内屋安兵衛就出事大坂松屋甚兵衛方三十日計逗留ニ罷越
申度旨

三月十九日
三月廿日

一舟頭町和泉屋伝藏新魚町林田屋治右衛門ニ池田伝之助殿知行所播
州揖東郡新宮町松屋甚藏今大坂御番所ニ訴訟差□□ニ付二月三日
於爰許御用所被成御渡候「十日迄筋立候様無左者罷登可申旨申
付置候所兩人病氣ニ付断書差出候依之御用番兵右衛門殿今日御
伺申上書付両通致奥書印形明日立飛脚へ遣候様相渡ス尤大坂此方
御役人中へ添状認遣之候

一小性町田戸屋宗十郎宿切手出ス紀州日守浦池谷町善四郎手代新吉
榎折敷嵐壳参宿いたし候旨

一元魚町元花屋長右衛門宿切手出ス大坂植木屋市兵衛手代甚右衛門
植木壳致宿候旨

一元魚町朝屋半兵衛借屋戸田屋喜左衛門去ル三月久世塚谷屋六郎左
衛門方へ奉公ニ罷越候御病身罷成奉公止罷帰り申候旨断書出ス

三月廿一日
三月廿二日

一亀菊様二宮ニ被為入候今町芽町安岡町掃除申付御先払差出ス尤
「隅田族申来ル

三月廿三日

(14)

一 御用日御出席有之候

一 京町二文字屋多吉役介人七郎兵衛倅類族孫平次病氣候処養生不相

叶今申刻病死仕候旨大年寄申出ル御用番大目付中へ手紙ニ而御
届申遣ス委細執計ハ宗旨奉行中ニ而之候

一 一夜入檢使相濟候旨大年寄申出ル

一 座頭共申出候来月八日淨光院様百五十年御忌御布施頂戴仕度旨申
出候ニ付御用所御伺申上候可被下旨被仰渡候其段申渡ス

三月廿四日

三月廿五日

三月廿六日

三月廿七日

三月廿八日

一 御用日御出席有之候

一 塩開屋并玉子問屋之義於対談「申上ル大目付中へも申達ル

一米相場 御蔵米 七拾八匁 中買書付出候
町米 七拾五匁

一 小性町西川屋重三郎宿切手出ス備前岡山下市町中嶋屋久六元結売
ニ罷越候旨

一 同人断出候江州神崎郡新堂村嶋屋新平きせる墨筆嵐売ニ罷越宿仕
候旨

一 河原町伊助願出候私娘しち并孫勤助林田上ノ町作人忠助妻子ニ貫
申度旨申候遣申度旨在分承合申付ル

一 堺町ふし屋孫市願出候私借屋居申候生野屋源七と申者家内六人石

黒小右衛門殿御預り所西々条郡塚谷村五郎兵衛与申者由緒御座候

ニ付其上田地等も所持仕候故今般引越申度旨承届町内人別相除申
候

一 京町若松屋善左衛門先達大坂罷越候今十日計逗留追願出ス

三月廿九日

一 於直様於秀様今日川向長法寺辺江被成御出候旨川井源藏令昨日申
来候湯田町御通ニ付掃除申付ル御先払差出ス

四月朔日

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 広瀬半助

町大年寄月番

齊藤孫右衛門

四月二日

一 錢相場老匁ニ六拾九文通用旨大年寄申来ル

四月三日

一 御用日御出席有之候

一 大目付所廻状浄光院様百五十年御忌ニ付来ル七日八日於泰安寺御
法事被仰付候大役人以上参拜被仰付候旨

一 来七日八日就御法事諸事相慎火元等念入七日昼令八日町々自身番
相勤可申旨大年寄へ申渡ス組者西大番所脇江例之通可相詰之旨申
付ル

一塩口銭問屋願書出候此間御内意申上置候ニ付今日於御列座申上候
処願之通被仰付候願書左之通

一御当地ニ登り込候塩口銭問屋私共ニ被為仰付被下候ハ、塩老儀ニ
付口銭として壹分宛被下置候様ニ奉願候左候ハ、御連上先納十ヶ
年分只今拾貫目上納可仕候右年数相濟候ハ、又々其節被仰付次第
可仕候

一小桁御番所ニ而登り込候塩儀數御改被遊御送り手形被為下候様奉
願候其御送り手形ヲ以右口銭壹分宛受取申候猶又請取候裏書仕其
船頭ニ直相渡御番所ニ指上させ可申候

右之通仕候得者是迄之通御当地塩売買之儀一切差支無御座候奉願
候通被為仰付被下候ハ、難有可奉存候此段宜被仰上可被下候

式丁目福永屋源右衛門同町林多屋藤吉元魚町米屋喜助二階町材木
屋庄右衛門

一福渡町惣十郎千ヶ寺ニ參詣断出ル

四月四日

一橋本町幾屋九兵衛倅安兵衛久世村作人源右衛門方ニ養子貫遣申度
旨人別除

一吹屋町鍋屋借屋理九兵衛娘てふ林田村百姓左太郎方へ妻貫申度旨
人別除

一吹屋町長兵衛娘みち林田村理兵衛妻ニ貫申遣度旨人別除

一新魚町平屋文四郎娘かつ林田村源助方ニ養女遣申度旨人別除

一福渡町福屋平四郎妹ふき山北村源三郎妻貫遣申度旨人別除

一元魚町伊丹屋理左衛門借屋七兵衛母願出候私倅七兵衛儀当子三十

六歳ニ罷成候二月廿九日大坂ニ罷越三月十日頃罷帰可申処帰不申
ニ付大坂相尋候得共行方相知不申候兼而不所存候者ニ御座候ニ付
此已後何方ニ而いか様六ヶ敷義出来可仕難計奉存候ニ付御断申上
候御定法之通百日間随分相尋可申旨申付ル少々不埒も有之様ニ粗
相聞申候ニ付御用所へ御沙汰可申上置候事

四月五日

一石黒小右衛門殿代官所西々条郡久田下ノ原長土路分庄屋次郎左衛
門百姓字兵衛今当町阿賀屋半次ニ預ケ銀五十五匁五分返濟滞申候
ニ付訴訟申出候旨ニ而写小右衛門殿役所今来ル吟味之上筋立候様
可申付旨及返書則大年寄呼出訴訟写相渡急度筋立可申旨申渡候
一京町鍵屋与平次宿切手出ヌ奈良今井町岡崎忠兵衛倅又兵衛墨元罷
越候旨

一上紺屋町忠助願私娘きさ林田村左吉妻貫申候ニ付遣申度人別除候

四月六日

一旗籠屋之儀此間御代官所手代夜「泊」頼候由大年寄ニ申
越候処宿差合申候ニ付「用意宿之儀及評義候得者此節別段申付
候事も難致左之通及差図候

雲州御家中泊り差支候ハ、見計何れ成共俄可申付候事尤度々有之
義ニも有「其外一通り之旅人ハ旗籠屋相對ニ而事」来
候事久世石黒小右衛門殿手代通り申候節旗籠屋相對ニ而濟候分ハ
其通り之事ニ候宿之儀馬さし成とも頼候ハ、京町菊屋船頭町今津
屋右両人之内ニ宿可申付候事尤前廉ニ人馬之儀由来候ハ、其旨両
人ニ為知置可申候頼来之兩人ニ可申付候事

依之右之訳兩人に今般申渡置可申候是兩人共ニ久世用事も相達申候町人故右之通申付置也

四月七日

一帝賢療治有木玄信今日相動候断ニ付外へ申付候登「濟療治致候

四月八日

一淨光院様百五十年御忌御法事於泰安寺一夜別時之御供養有之候町方自身番申付諸事慎候様申達ス西大番所「昨昼今相詰ル

七日中山市郎右衛門八日

四月九日

一二階町作人伝吉御堀に足代おろし「石垣崩築直し申度旨書付
出ス御用所へ申上ル

一藏合孫左衛門就用事備前岡山に罷越申度旨御用所へ申上ル

一座頭誓女に御布施被下置候昨日小頭部屋目附罷出相渡候員数左之
通

銀高七百七拾匁七分五厘 人数式百三拾六人

但シ配当場役料共ニ

右相渡候趣御用所へ申上ル

四月十八日受取証文ニ致印形差渡ス

一御用所御出席有之候

一京町阿か屋半治に石黒小右衛門殿支配所西々条郡久田下ノ原長土

路分庄屋次郎左衛門百姓字兵衛銀百五十五匁五分半治返濟滞り

候旨ニ而訴訟写手代庵原「添状ニ而被差越候故返濟筋立候

様申渡ス

「一度先達家内致分散當時京町借宅も明二階町塾居仕罷在候間内々
取扱相濟申度仕申出候書付指出候間今日「御鏡申上致添

状久世庵原喜左衛門へ差遣候

一川戸御藏東口前今川端へ出候所道今東方芝原腰石垣之所ニ而町方
者土取候跡相見へ候川除障ニ相成其上木藏に材木引入候時分故障
ニ相成申候ニ付土取不申様ニ大年寄今近町へ可申付之旨大目附中
被申聞候間齊藤孫右衛門へ其段申渡ス

一塩問屋願之通今日願主に申渡ス

惣町に触書出ス舟頭組頭へ「段申渡ス

惣町へ触候趣

今般御領内に入買入候塩口錢問屋式丁目福永屋源右衛門林多屋藤吉
元魚町米屋喜助二階町材木屋庄右衛門右四人者共へ当子歳今来ル
西歳迄申付候依之積登り候船頭今塩巻俵ニ巻分宛問屋へ相渡シ可
申候「候者に売渡可申候尤時相場巻分高ク可致売買小売之
儀右割合ニ而随分下直可致商売候猥に高直ニ売候者者相聞候ハ、
遂吟味候登込候塩員数小桁御番所ニ「俵数相断改請之送
り切手取口錢相添問屋に差出袖書印形取右切手御番所へ相戻可申
候右之趣得其意違背無之候様可被相触候以上

子四月十一日

四月十日

四月十一日

四月十二日

一公領久田辺今川下ケ候栗丸太只今迄川筋いかたニ而下り津山舟頭

申候ニ付家相渡候様致度旨与兵衛殿執權場右衛門ハ其段小頭迄申聞候
(廿一日申渡
三十日切ニ)

一右同人ハ村本屋治助ハ一方触北村ニ而下畑式畝拾貳步下々山ハ反質入ニ銀札式百四十目去ル未五月利足老割六步ニ十月切ニ取替申候所返濟滞候ニ付筋立候様申出ル
庄屋組頭印形有之候

一右同人ハ寺岡又兵衛ハ横山村中畑三畝中畑ハ畝拾五步下畑ハ畝廿七步ハ六畝十式步高八斗式并丑十二月流質証文ニ而銀式百目取替候処相滞候旨断出ル(この箇条の上に横書あり)
「在分取一方大庄屋へ申渡ス」
在分取一方大庄屋へ申渡ス

四月十七日

一宮市町触書出ス竹子之触書出ス文言如例

一米相場
御倉米八拾目
町米七拾七匁

四月十八日 御出席有之候

一例年之通市宮市町中彼地参候儀無用之旨御触書御徒目附候組者并

三軒家牢番ハ申渡ス

一非人加廻り市町候間火用心旁申付候旨御用所へ申上ル大目付へ申達ル

一石黒小右衛門殿御代官所中谷下村作右衛門与申者材木筏ニ而川下り候所津山舟頭町坂之丞平九郎喜左衛門差留メ申候前々ハ無滞罷通り来候旨願書出候旨久世ハ申来ル舟頭共吟味申付ル

一正銀錢通用停止ニ付近来他領者銀札遺兼申候ニ付町方ニ而正錢取不レ「」而ハ甚差支難儀趣追々相聞候故町々ニ銀札小売場ニ致度之旨申達候勘定奉行中へ及対談候処今日可申付之旨栗田辰右衛門ハ被申聞候左之通町々被申付候様ニ致度旨申談ル尤大年寄ハ右町々可申付候間相勤候者名面札元へ可申出候旨申渡ス

東新町 伊木屋

源右衛門

西今町 坪屋

勤助

伏見町 辻屋六郎右衛門

中ノ町 重屋

十蔵

吹屋町 瓜生原屋

七郎右衛門

安岡町 坪屋

和助

一銀札通用ニ付正銀錢内々取鑑停止之旨去月相改申触書「」其已来不埒族有之不届事候然其他「」者之儀銀錢ニ而無抛相払候義も可有之猶取置方ニ而度々引替難成商売指支之趣相聞依之今般銀札小売座当分相増候他領者ハ受取候銀少々義ハ右場所ニ而引替可申候当地者ハ銀錢取鑑候義不相成候右之通申不候上ハ弥以正銀錢内々取鑑堅停止候此旨急度相守可申候若相背候ハ、可申咎候尤目付者相廻候以上

四月廿日

四月十九日

一諦賢病氣以今勝不申候今日迄北山修齊療治ニ而候処就断片山淡水被申付候由大年寄ハ申出ル

四月廿日

一錢相場今日ハ老匁七拾文通用ニ立替候旨出ス

一 京都二文字屋清兵衛手代彦兵衛治兵衛理三郎罷越致宿候旨元魚町
海老屋九右衛門宿切手出ス

一 東新町福崎屋多兵衛所持家屋敷南側ニ而表口九間裏行拾七間御役
老間四步役也東隣鍋屋清兵衛西隣ハ玉屋伊左衛門御座候右之内東
方四間半質入町内わら屋与七取次ニ而銀札五百目借用仕度旨利足
月式歩之極当十一月切相極申候旨願出候

一 元魚町林田屋次右衛門後家家屋敷後家母願私家屋敷表口式間裏
行拾九間但三步老厘役北隣ハ大保頭八太郎南隣ハ喜美屋弥兵衛家
御座候五人組相談之上銀札式百目相極同町作人善六ハ売渡申度候
旨願之通承届ル本証文出ル 五月十一日

一 上紺屋町浅屋右衛門断出ル千ヶ寺江参詣支度奉存往来百五十日罷
歸り申度旨

一 中ノ町炭屋善兵衛仙右越前守殿御領分勝北郡平村百姓源右衛門倅
仁助与申者当子ニ廿九才ニ罷成候私内縁者ニ付引請住宅之儀奉願
候旨承届ル

一 西新町丁子屋源左衛門私弟尽治真嶋郡高田村西原屋四郎兵衛方へ
養子遣度旨承届ル

一 安岡町米屋十右衛門一宮市町参懸輕輩八人連世話焼仕度旨

一 橋本町浅元屋東治一宮市町参懸り拾式人連方歳見せ物世話焼仕度
旨

一 銭相場老奴七拾文通用立替候旨

四月廿一日

一 市宮市町田植祭礼組者兩人先格之通指出ス

四月廿二日

一米相場 御蔵米八拾式匁五分 中買書付出ス
町米七拾九匁五分

一 市町九人連かるわさ戸川町高房屋亦助世話仕候旨断出ル一札差出
ス

一 市町人形遣五人連二階町境屋多助世話仕候旨願書出ス一札出ル

四月廿三日 御出席有之候

一 殿様去ル十二日御出席被遊同十三日以上使御国許江御暇被仰出候
ニ付右両様之御悦御帳付ク

一 大年寄共例之通相勤可申旨申遣ス

一 仁藏屋敷外御城山之内倒木有之旨三軒屋番人申出候大目付中へ申
達ス

一 八幡宮万人講之建札両橋へ致申度旨願候御聞届候間為建可申旨被
仰渡大年寄へ申渡ス

一 入牢似せ札いたし候諦賢当二日ハ病氣之処昨暮方ハ甚大切之旨申
出候昨夜中御用番御届申上候今朝相果候旨申出候間組者老人ニ医
師片山淡水見届ニ遣ス弥病死ニ付御用番江申上ル大目付中へ申達
ス昼休過為檢使御徒目附藤田弥八郎下目附広瀬甚蔵牢屋へ罷越此
方ハ小頭石名平太兵衛部屋頭川端又六差出ス見分無滞相濟後刻取
捨可申旨大目付広瀬半助ハ申来ル穢多共申遣置候取捨申付候兼田
河原江堀埋可申付候様牢番足輕へ申渡ス取捨候刻ハ組者ハ不遣候
尤相濟御用番并大目附へ届申遣ス

四月廿四日

一元魚町舁屋六三郎家屋敷西側ニ而表口三間裏行拾七間但耆軒役也
南隣ハ真嶋屋仁右衛門北隣者糶屋惣兵衛家御座候石家屋敷五人組
相談之上代札三百目ニ相究町内作人長兵衛江売渡候申度旨承届ル
本証文出ル

一西今町玉屋吉左衛門娘かん小田中村市助妻ニ遣申度旨

四月廿五日

四月廿六日

一乱心之山伏町方徘徊候旨廻り組者ノ申出候非人共今追払可申旨大
年寄へ申遣ス

四月廿七日

一石黒小右衛門殿支配所中谷村作右衛門筏川筋乗下舟頭町ニ而指留
候儀返状今日遣ス舟頭式三人久世江罷越相願可申旨申遣ス筏川下
シ之義小桁番所ニ而舟積筏何れニ而も役々之印鑑有之候得者相通
候得共舟頭とも古来之致来リ与申当川岸迄筏下リ爰許ハ舟ニ積
来リ候筏川下候得而ハ舟道甚痛難義旨舟頭ノ断出候下番所ニ而
差留可申法も無之ニ付達而留置候様ニも難申遣筋故舟頭共相願申
度旨申候間久世役所江遣候尤願書ニ書状之内へ封入遣候

一新魚町南側門屋助三郎家屋敷表口六間半裏行拾式間但本役也東隣
ハ平田屋源右衛門西隣者魚住屋太郎右衛門ニ而御座候石家屋敷表
口三間式步半裏行拾式間但半役也銀札七百八拾四匁林田町門屋又
七匁借用当子ノ午才ニ七年賦老年ニ銀札百拾式匁宛年々十月切返
濟可申約束候間願承届ル

四月廿八日 御出席有之候

一米相場 御蔵米八拾壹匁 中買書付出ス
町米七拾八匁

一家居近辺ニ而所々焼こへいたし候由不致様町方へも末々相觸聞候
様ニ大年寄へ申遣候

四月廿九日

四月晦日

一佐久間主計殿江戸御出立候

一久世江遣候舟頭共昨夕罷帰り返書来ル

一小頭石名平太兵衛市町江為見分罷越候

一東新町福嶋屋多兵衛家屋敷南側ニ而表口九軒裏行拾七間御役耆軒
四步役東隣者鍋屋清兵衛西隣者玉屋伊左衛門右之内東方四間半同
町わら屋与七取次銀札五百目質物ニ書入借用仕候所美正御座候当
十一月切ニ相極老月式歩利足ニ加へ返済仕可申候右承届ル
一美濃職人町作人潮兵衛美濃職人町北側表口三間裏行拾七間御役本
役也西隣者草津屋茂市家東隣者二丁目福永屋加右衛門家ニ而御座
候代銀札式百目相極戸川町宇由野屋長七借家疊屋理右衛門売渡申
候右承届候本証文出ス

一二丁目福永屋加右衛門家守善兵衛私借屋ニ居申候ぬし屋長右衛門
去ル八日夜ノ風罷出候方々相尋候得共行多相知付申旨断書差出ス
百日相尋候様ニ申付置

五月朔日

御用番 佐々木内〔 〕

大目付 鈴木喜右衛門

大年寄月番

齊藤孫右衛門 五日迄六日迄

藏合孫左衛門

御蔵米七拾八匁
町米七拾五匁
中買書付出ス

五月二日

一 東新町大嶋屋儀右衛門於大年寄宅小頭立会之上申渡呵

其方儀先頃茶屋五郎兵衛町内就用事罷越候砌及口論候之旨依之其節意起遂吟味候処对五郎兵衛為指訳も無之候其上御用向之義五郎兵衛不承抔と返答書ニ申出猶又遂吟味候得ハ口上ニ而ハ左様も不相「重々不埒義候平生我意ニ走候趣粗相聞今般急度可申付候得共以憐愍致用捨候此已後諸事相慎我辰成義無之候様可致候以上

茶屋五郎兵衛申渡「」

其方儀先頃大嶋屋儀右衛門「」就町内用事罷越及口論候旨訴出候役用被申執計方も可有之義不念義存候已来申分無之様念入可申候以上

一 米相場 御蔵米七拾五匁 書付出ス
町米七拾式匁

五月三日 御出席有之候

一 綾部大庄屋多胡勘右衛門儀無抛用事御座候ニ付備前西大寺參夫迄大坂江罷当月廿八九日迄逗留致度旨願書差出ス御用所及御沙汰承

届ル大目付所へも申達ス

一 御城内草苅通り札式拾枚中奥目付中へ相戻ス

一 久世御代官石黒小右衛門殿病氣ニ而町医師頼来候ニ付右為見舞書状手代ニ遣可申旨御用所被差戻候ニ付差遣ス

「貼紙」

一 京町引払後町方江之触書相認大年寄へ申渡ス□□□
非人へ書付別紙相渡ス

一 町医師野間宗順申付久世江遣候所途中只々罷帰ル延引之義途中迄申来候旨

五月四日

一 倉敷御代官藤本甚助殿久世江被罷「」先触參候ニ付先格之通町分掃除御先払差出ス

一 一宮市町中日之同心組差出候無滞引払今日迄ニ而相済候

一 組者弁当料例年之通遣之候

五月五日

一 当日御祝儀所々相勤ル

一 京町鍵屋与平次断出候越中富山「」源兵衛手代善五郎返魂丹

一 売「」越候宿切手出ス

一 中ノ町作人助五郎願候英田郡土居村百姓善右衛門世倅孫兵衛年三十三私内縁ニ御座候ニ付私方へ引請住宅之儀奉願候受人林田町藤

一 本屋長次郎之由願之通承届ル

一 京町塩屋新兵衛宿切手出ス尾州知多郡嶋崎之内幸本村陰陽師高橋

伊豆弟子五兵衛右式人旦那廻り罷越致宿候旨

五月六日

一倉敷御代官藤本甚助殿久世被掃候当町通行ニ付掃除申付御先私
差出候

一当目番今日蔵合孫左衛門相勤候旨案内有之候

一大年寄三人歳暮年頭并惣町年頭献上物代金左之通江戸表菅沼藤左

衛門ニ書状指添遣ス金壹歩銀壹匁五分七厘玉置忠兵衛役義御礼金

三分九匁式分

内

拾九匁六分 塩引三尺 大年寄三人歳暮献上

拾九匁六分 塩引三尺 惣町子年頭献上

拾五匁 經節三拾 大年寄三人年頭献上

五月七日

一米相場 御蔵米七拾七匁五分 書付出ス
町米七拾四匁五分

五月八日 御出席有之候

五月九日

五月十日

一米相場 御蔵米八拾目 書付出ス
町米七拾七匁

一輕業之役者以今林田辺ニ罷在候由粗相聞候旨大目付中ニ為知有之
候ニ付大年寄ニ先達請負致吟味急度追払候様ニ申渡ス

一備前岡山家中池田志津摩ニ安藤鞆負殿ニ使者參難波武左衛門と申

者たわら屋六兵衛方ニ致一宿候旨申出ル

一町分飢人共今日迄集米遣申候今日相止申候旨大年寄申出候算
用書追而差出可申旨

五月十一日

一鍛冶町鍛冶安右衛門断出候去ル二月相願備中国成知村罷越候処州
世然屋罷掃候旨断出ル

五月十二日

一宮市町ニ罷越居申候輕業之小坊主林田辺ニ致逗留候由大目付中

申来候依之組者申付承札候様申候処橋本町朝元屋藤治方ニ罷有候

旨ニ付大年寄宅ニ而藤治遂吟味候処下紺屋町原田屋理助方ニも罷

在候由申旨ニ付理助遂吟味申候処所々引廻り候趣申之候兩人共ニ

不届ニ付追込可申付候旨御用番内膳殿ニ御窺申上候今日追込於大

年寄宅以書付申渡ス文言申渡帳ニ有之候旗籠頭糺屋彦七郎義執計

不念之義有之候ニ付是又呵申渡ス右大目付所御届申遣ス

一倉敷藤本甚助殿御代官所長谷川忠八ニ書状御廻米川下賃遂吟味申

度候ニ付来ル十九日望候者倉敷役所ニ罷越申様廻状壹通被指越候

間大年寄相渡蔵元ニ相渡候様申付ル

五月十三日 御出席有之候

一米相場 御蔵米八拾式匁五分 書付出ス
町米 七拾九匁五分

一京町菊屋清左衛門断出ル越中富山立町板屋理兵衛伴安右衛門与申
者罷越例年之通当十月迄召抱壳業仕らせ度旨願之通承届ル

一西大番所前宮脇町関貫損断書先達而大目付中差出置候処見分相濟

申候旨今日書付戻ル

一久世石黒小右衛門殿病氣ニ付御手医師頼申候義ニ付手代庵原喜右

衛門ハ書状齊藤斧右衛門罷越及対談則御用番内膳殿ハ御内意上

候十四日ニ御許儀相濟斧右衛門ハ及挨拶候委細略之候難及筆頭候

一座頭共願出候於東武大納言様御簾中様御着帯御祝儀頂戴仕度旨尤

備前ハも致頂戴候旨申出ス御用席申上候可被下旨被仰渡候其段大

年寄へ申渡ス

一非人加廻り今日迄ニ而先相止申候旨申出ル

五月十四日

一齊藤斧右衛門參昨日返答伺之上申達ス

五月十五日

五月十六日

一盗人市太郎落宿ハ村穢多六郎次兩人今日於郡代所及ハ狀入牢

一石黒小右衛門殿支配中谷下村筏先達而乗下ケ置申候分差懸り申候

義ニ付乗下候様被申付候様先日手代へ申遣候処久々水中ニ有之申

候ニ付浮木無之候而ハ乗下ケ難成候間四拾本浮木乗下ケ申度旨願

候旨願書相廻り申候ニ付此分ハ乗下させ候様ニ舟頭町へ申渡ス尤

此外ニ出入相濟中ハ下シ不申様可被仰付候旨返書ニ申遣ス

一座頭共被下候銀札之儀勘定奉行栗田氏頼遣ス

五月十七日

一盗物調候者并質物ニ取候者貸付致吟味差出候様ニ大年寄へ申遣ス

五月十八日

一橋本町朝元屋藤治下紺屋町原田屋理助追込明日差免可申旨御伺申

上ル

五月十九日

一右兩人指免之儀今朝大年寄於宅申渡候已後相慎候様慎付ル

一米相場 御蔵米八拾目 書付出ス
町米 七拾七匁

一座頭共被下候銀札今日配當場ニ而相渡小頭平太兵衛不快ニ付部屋

頭兩人罷出ル

銀高八百七拾五匁 衆分百貳拾八人 五匁宛

打懸貳十老人 貳匁五分宛

人数貳百六拾四人 初身七拾五人 老匁貳分五厘宛

右者大納言様御簾中様御着帯御祝儀 寿名替女三十五人 小鼓女(三)目五人

一川嶋龍庵就用事京都罷越度旨願書出候承届ル廿一日出立往来廿日

計

一宗旨改案詞帳并別紙案文磯野平太ハ来ル大年寄ハ相渡ス

五月廿日

五月廿一日

五月廿二日

五月廿三日

御出席有之候

一飢人共町々御座候ニ付世話焼申付集米致させ救米遣候年寄六人二

步中買九人世話やきニ申付候尤大年寄以下取計ハ御座候得者格別

之義故年寄町奉行所ハ二步中買共ハ大年寄宅ニ而及挨拶候様可仕

候奉存候米差出候者ハ大勢之義ニ而御座候得ハ銘々呼出候様難成

御座候故其町々年寄へ其段申渡候様可致存候大年寄義出精仕候故

御用所思召之趣ニ申渡候旨ヲ御伺申上候処尤思召候由

世話焼人 浜屋

佐和屋

十右衛門

一手屋

源右衛門

安岡町木わた屋

藤助

安岡町

太兵衛

福渡町

甚兵衛

同町

喜兵衛

中ノ町

和助

同町

喜七

西新町

宇右衛門

元魚町

新兵衛

二丁目

勘兵衛

上紺屋町

文六

拾人

飢人八別

四百拾九人

子二月十八日夕五月十日迄

老人老日合宛

町々存寄

次第二指出候

員数多少有之候

救米出候員数

三拾石四斗一升五合

此外人別四拾人計正月下旬大年寄三人ノ救米遣候旨

一石黒小石衛門殿息平次太殿從江戸久世村ニ被罷越候ニ付御城下通

行先触致候間町分ハ掃除御先払組者差出候尤御用番御伺申上候処

右之通執計候様被仰渡候

五月廿四日 廿五日 廿六日

廿七日 御用向無之候

一 下紺屋町原田屋理助用事ニ付大坂心齋橋京屋源三郎方往来三十四

五日逗留罷越度旨

五月廿八日 御用席有之

一 町方飢人救米差出者ニ直之廻文差出

当春町方末々者及飢候由相聞候処其方共救米差出候旨相達厚志之

段奇特成義ニ候依之呼出可及挨拶候得共大勢義ニ付如此可申達候

五月廿八日 町奉行所印判

救米出候町人

何屋

何左衛門

一 右世話焼大年寄三人今日我等宅へ呼出シ飢人取計之儀御用所及御

沙汰候処御用所御満足ニ思召候旨申達候

世話焼六人年寄呼出シ出精故飢人無事相凌何茂骨折之旨及挨拶候

下世話中之十人之者共へ大年寄方ニ而及挨拶候様ニと申渡ス

一 倉敷藤本甚助殿手代長谷川忠八ノ御城米川下舟賃入札之義頼来候

大年寄へ申渡ス

五月廿九日

一 新魚町檉野屋助右衛門南側私家屋敷表口七間裏行拾式間半但老軒

七歩五厘役也東隣者魚屋吉兵衛西隣ハ野田屋三右衛門ニ而御座候

伏見町正木屋八右衛門取次ニ而質物ニ書入銀札式貫目来丑正月切

老ヶ月老歩半宛利足ニ而借用仕度奉存候旨承置候本証文出ル

一 重屋治右衛門断出候元魚町東側私家屋敷表口七間裏行拾七間但式

軒役申歳三月河内屋善左衛門取次質物書入銀札三貫目借用仕候処
此度元利相濟請返双方相濟申候旨善左衛門加印書付出之候

一御給米当春渡分相延今日相渡ル於銀札場七十三匁相場ニ御買上ニ
相成候時相場ハ八拾匁也

六月朔日

御用番

大目附

町大年寄月番

玉置忠兵衛

一村本屋治助柴内喜市ハ借米滞田畑相渡申度旨申出候ニ付右地売払
来十五日迄ニ日切申付候

一片田屋源六片田屋武助瓜生原屋善助ハ借銀滞延々相成候ニ付来十
五日切ニ申付候弥相濟不申候得ハ家財相渡させ可申之段申渡ス

一中ノ町乙後屋助左衛門大坂大川町金岡屋伊兵衛方ハ倅重次用事御
座候遣度旨（朱書）
〔四十日逗留〕

一二階町鳥屋左助備前岡山ハ罷越度旨（朱書）
〔廿四五日逗留〕

一鍛冶場舟渡満水ニ付留り候旨断出候御届申遣ス

六月二日

一鍛冶場舟渡致候申来り御届遣ス

六月三日 御出席有之候

一三軒家番人ハ断出候御城太鼓櫓裏通腰曲之壁長四間計崩申候大目
付所ハ右之段申達ス

一二階町山伏延寿代観寿院断書出ス当院痘瘡守護神候来七日ハ十四
日迄燈明差上ケ申度旨尤寺社方ハ願候由

一福渡町重屋治右衛門願出候元魚町東側私所持之家屋敷表口七間裏
行拾七間但式軒役也北隣ハ美濃屋市左衛門南隣ハ麴屋彦十郎右之
家屋敷代銀札六貫目相極同町河内屋善左衛門ハ売渡申度旨本証文
出候

六月四日

一小性町かゆば屋甚右衛門兼田権七ハ家質滞銀有之返済申付候所当
月十五日迄之日延願差出候承届候十五日迄急度相濟候様申渡ス

一新魚町平内屋幸助願備前岡山山崎町下津井屋左平倅富藏当子拾才
罷成候養子ニ貫申度旨承届ル

一勝間田町かと屋太郎右衛門宿切手出ス撰州堺墨筆完儀左衛門事喜
兵衛改号昨日罷越例之通致宿候旨

六月五日

一石黒小右衛門殿御子息平次太殿ハ書状来ル先達小右衛門殿病中医
師遣候礼申来候

一鍛冶場舟渡先刻ハ致仕来候旨申出候御届申遣ス

一石黒平次太殿当町通行ニ付御先払差出候

一例年之通町方者表出涼申候ニ付触書相認四ヶ所橋之上ニ而涼不申
様ハ申文言入触書大年寄ハ相渡ス

六月六日

一紙屋善七郎金比羅ニ參詣願出候

一大豆川下見届笹井金内罷出候

一下紺屋町不動院例之通來七日十四日迄祇園御戸開申候旨斷書差出ス

六月七日

一組川端又六伴四六拜領屋敷へ別宅致度旨小頭口上ニ而申出ル

六月八日 御出席有之候

一入郎穢多六郎次賄之義明日ハ牢家申付伺相濟牢番へ申遣様小頭へ申渡ス

一三軒屋番所三ヶ所屋根漏り申候旨御見分被仰付候様大目付中へ申達ス

一新魚町うを屋甚助願出候備中松山新町屏風屋為兵衛与申者年当子五拾壹歳ニ罷成候私内縁者御座候ニ付引請御当地住宅奉願旨承届ル

一新魚町片上屋勘右衛門後家同町東側私家屋敷表口三間裏行拾壹間半但シ半役也南隣者うを屋利助北隣岡山屋惣十郎家ニ而御座候去ル申十二月松屋清右衛門取次質物書入銀札式百五拾目借用今度元利相濟家屋敷請返候旨斷書出候本証文返ス

六月九日

一鍛冶場舟渡満水ニ而留り候旨申來候間御用番大目付所へ御届申達ス

一昼時渡往來地候旨申出候御届申遣ス

一盗人市太郎盜取候品々穢多落屋六郎次ハ質又ハ売払申候ニ付今日右之品々取上ケ被盜本主郡代所ニ而相渡遣ス又買取候者ニもハ売払分ハ右之代物ニ而指出候間代物本主へ遣ス他領ハ盜來候品々有

之此分質屋又ハ売主ハ預り書付取之色品ハ先預置候追而本主尋來候ハ、其節評義之上ニ而相渡可遣事

一質取候者買候者共大年寄於宅今日呵申渡候ハ東新町佐伯屋中ノ町

佐野屋吉兵衛同町やき屋善七中ノ町作人勘七玉屋伊左衛門

一夜分大雨川々満水鍛冶場渡守留り候小田中川満水今町土橋大年寄罷越人足等申付置候由

六月十日

一鍛冶場渡留り候旨御届申上ル昼時ハ明申候

一大年寄玉置忠兵衛ハ内意申聞候御馬屋中間藤七妻ハ先年勘當いたし候悴指免申度願書出度旨申候是ハ御中間分ハ妻子共町内人別ニハ無御座候改候節も外者ニ出申候由申之此方致吟味可致差図旨申聞候

六月十一日

一鍛冶場舟渡就満水留り候旨申出候御用番大目附中へ御届申上候夜入通舟仕候旨斷出候ニ付其段申遣ス

六月十二日

六月十三日 御出席有之候

六月十四日

一徳守宮涼ニ組者兩人宛今日ハ差出ス

一伏見町古金屋善左衛門願私只今迄惣社村真言宗正觀寺旦那ニ御座候所今度同宗津山西寺町聖徳寺江寺替仕度家内六人内三人男三人女放証文写相添差出候

六月十五日

一 蓮葉入札之義御代官中の頼候ニ付町方へ相触申候様ニと大年寄へ

申渡ス来ル廿七日ニ御代官所へ入札差出候申聞候

一 舟頭町助八と申者入村御番所ニ而歩一之義ニ付用事有之由頼被申候間御八參候様ニと申付ル

一 御掃城暫御延引之旨廻状到来則大年寄も書付相渡ス

一 宮脇町柏屋伊右衛門の林田町かと屋又七取次銀壹貫五百目利分五百八拾四匁候処返濟滞先達出入相成候訴訟申出候ニ付返濟申付候処今般内々取噺利銀半分致了簡元利壹貫七百九拾式匁去寅歳の午歳迄ニ八年賦致内濟候ニ付双方の濟口証文出ス利足元年へ式百貳拾四匁宛かと屋又七の柏屋伊右衛門年々相払申候等ニ候旨書付出ス

一 京町加茂屋平左衛門願私儀只今迄禪宗東北条郡小中原村成興寺旦那御座候処今度同宗西寺町長安寺江寺替仕度成興寺放証文長安寺へ相渡両寺納得之上奉願候旨家内三人内男式人女老人之由平左衛門儀切支丹之様存候ニ付念入承申候処当平左衛門江ハ構無之親平左衛門迄ニ而類族改相濟申候旨ニ候長安寺書付写相添差出ス

一 新魚町片山屋勤右衛門後家東側ニ而私家屋敷表口三間裏行拾壹間半但半役北側ハ岡山屋惣十郎南隣ハ魚屋理助ニ而御座候五人組相談代式百五拾匁相極同町うを屋治郎右衛門江壳渡申度旨願書出ス

六月十六日

六月十七日

一 小性町銅葉屋甚右衛門家賃借米返濟方去ル十五日切ニ願出申候ニ付日延申置候処不埒ニ付家屋敷近日引渡埒明候様ニと大年寄へ申

渡ス

一元魚町紙屋善七郎就用事大坂会所町松屋甚兵衛方へ廿日計逗留ニ而罷越度旨

六月十八日 御出席有之候

一 入牢者名面書付相認御用所江差上ル尤御仕置之義付紙ニ而差出候

一 新魚町村本屋治助江御藏下代柴田喜市の取次借米滞ニ付返濟方申付候儀先達而小頭石名平太兵衛ヲ以相頼頭上原彦市も被申聞候ニ付返濟方申付候埒明不申色々致了簡候得共致方無之候ニ付御用所へ執計御窺申上候処大御目附市村番右衛門ヲ以被仰聞候ハ町奉行役執計請方之儀ニ候得ハ御用席ニ而兩様ともニ御差凶難被成候存寄ヲ以已後故障相成不申様取計可申付筋ニ思召候由ニ而御差凶無之候大目付中ニも何分治助不届筋ニも候間稠敷申付候ハ、外々之不埒之例ニも相成申間敷哉と依之先暫追込申其上ニも筋立不申候ハ、町分追払ニも申付家財闕所ニいたし米主へハ相渡不申喜市方ハ今般迄ニ候而返濟方ハ不申付候旨申聞可然哉と申置候依之今日村本屋治助義於大年寄宅追込ニ申付候

其方儀先達而借物返濟方日切申付候処取レ先方扱ニもおよひ不申致方不届ニ候依之追込ニ申付候追々存寄も有之候相慎可罷在候以

上右之通書付相渡ス

御用番大目付月番江御届申上ル

一 正米川留ニ申付置候処餅米之義川下シ申付可然奉存候ニ付所持候者ハ断出候ハ、改之上差下させ可申旨及御沙汰尤勘定奉行中へも申談候右之段大年寄へ申渡ス

一上紺屋町弥助四国遍路へ罷出度候旨廿日罷立往来八十日逗留相願承届ル

一三丁目井筒屋甚右衛門兄豊福平助与申者江戸表岡村多仲ニ相動罷在候今度暇取罷帰井筒屋平助と申私手前へ引請申度候町内人別御入可被下旨願出承届ル

六月十九日

一徳守宮涼ニ付十四日夕迄毎夕同心組兩人宛差出候尤届不致候

六月廿日

一米相場 御蔵米七拾九匁 書付出ス
町米 七拾六匁

一京町かと屋与平次願出候大坂久宝寺町黒井屋太右衛門と申者椀家具塗物類壳私宿先前仕候処近年参不申然処甥大坂北浜式丁目葉守屋新右衛門と申者木綿染地類壳ニをろし壳参申度旨申越候私宿仕度旨願出候太右衛門代り候由故承届ル

六月廿一日

一惣町溝筋見分小頭石名平太兵衛大年寄共今日夕明日迄見改候様申渡ス 部屋百付御出権兵衛

一三丁目重屋忠六南側西角家屋敷表口六軒裏行拾七間但巷軒役也西者横町へ通筋東隣者平野屋安次郎家ニ御座候五人組相談之上代銀札五貫目ニ相極福渡町内尾屋嘉兵衛へ壳渡申度旨

六月廿二日

一新魚町野田屋へ高倉村藤四郎手錠人今夕一宿仕候大年寄断出ル

六月廿三日 御出席有之

一暑気御機嫌伺之御帳付ク御使番以上罷出ル

一重屋忠六山城村新平借物加入内々取扱相濟候旨口上申出ル書付出候様申付ル

六月廿四日

一舟頭町片田屋武助瓜生原屋善助出入返済相濟候旨断出ル

六月廿五日

一坪井町南側ニ而嘉嶋屋吉三郎家屋敷表口四間裏行拾七間但御役老軒役也東隣者浜屋源右衛門西隣者阿賀屋六兵衛御座候右家屋敷質物書入町内岡本屋勘右衛門取次ニ而銀札式貫五百目利足老割半ヲ以当子ノ六月夕来丑ノ五月迄借用仕度願出ル

一安岡町弥兵衛借家藤四郎当二月与風罷出行え相知不申旨人別離候書付出候様ニ申渡ス

六月廿六日

一江戸菅沼藤左衛門返状来ル先達遣候大年寄年頭歳暮指上物惣町差上物代金請取書申来ル委細書面ニ有之候

一西新町ニ而宮川橋板大水刻引上候ニ付御作事ノ御酒代三匁遣様申候小頭迄参候旨大年寄遣候様申付ル

六月廿七日

一小性町銅葉屋甚右衛門兼田権七江家質借銀家相渡候様ニ申渡置候処利分相払断申候処了簡相濟申候断書出ス

一中ノ町茶屋文右衛門願林田上ノ町罷在候私母同弟善左衛門姪かね甥善太郎以上四人此度私病身ニ付介抱私手前へ引受申度奉願候町内人別へ御加可被下候在分承合願之通聞届ル

六月廿八日 御出席有之候

一 在町寺々宗旨改印形取之候ニ付例年之場所江罷罷出候様ニと御触

被下候様願帳差出候寺社取次役磯野平太へ今日相頼候

一 戸川町坂口屋半右衛門私儀龜多乗「」改号針術仕度仕断書出ス御
用所へ御沙汰申上置候

一 中ノ町小山屋与右衛門宿切手出ス播州網干鍛冶屋惣七郎手代善十
郎鯉節風売参候宿仕候旨

六月廿九日

六月晦日

一 林田東新町西新町年寄の類族者無変儀罷在候旨書付差出ス

一 新魚町うを屋尽吉私義森本兵治と改号市村数馬殿江出入奉公致度
旨「」致度弟源助江町内諸役相勤させ申候旨

一 京町類族者不残無事ニ罷在候旨年寄の書附差出ス

一 二階町さら屋伊右衛門宿切手播州今市綿屋嘉市郎上下式人例年之
通呉服并帷子売参宿仕候旨

一 右同人断京宮町通下ル町三井屋茂兵衛手代源七上下三人例年之通
呉服物売参宿仕候旨

一 舟頭町瓜生原屋善助断書出ス片田屋武助江私の取次銀札滞内々取
扱相濟此已後申分無御座候旨済口断書出ス

一 美濃職人町善七同町南側ニ而表口式間裏行拾壹間但御役七步半役
也西隣ハ作人寛右衛門東隣者江嶋屋市右衛門家ニ而御座候五人組
相談之上代銀札百三拾五匁ニ極同町寛右衛門江売渡申度旨本証文
出ル

一 下紺屋町原田屋利助大坂江罷越逗留百日計之日延追願出ス控助左
衛門願出ル承届ル

一 船頭町惣舟持共願例年之通舟造作御登米舟賃先貸但壹艘ニ付米三
俵宛

御用所申上候例年之通相濟候御給米並之切手ニ渡候

津山郷土博物館紀要第四号

津山松平藩町奉行日記一

平成四年三月三十一日発行

平成十年三月三十一日再版

編集
発行 津山郷土博物館◎

岡山県津山市山下九二番地

印刷 株式会社 三 勝

津山市高野山西二二五―二五

